

持続的農村開発のための実施体制整備計画フェーズ 2  
中間レビュー報告書

スクレ市, 2011年10月18日

---

Ing. Shunichi NAKADA  
団長  
日本側中間レビュー評価団  
独立行政法人国際協力機構

---

Ing. Marco IRIARTE  
団長  
ボリビア側中間レビュー評価団長  
農村開発・土地省  
ボリビア多民族国

## 目次

### 1. 序

- 1-1 中間レビュー調査の目的
- 1-2 中間レビュー合同評価団メンバー
- 1-3 評価日程
- 1-4 中間レビューの方法

### 2. プロジェクト概要

- 2-1 プロジェクトの背景
- 2-2 プロジェクトの要約

### 3. プロジェクトの実績

- 3-1 投入実績
- 3-2 成果の実績
- 3-3 プロジェクト目標の達成見込み

### 4. 評価結果

- 4-1 妥当性
- 4-2 有効性
- 4-3 効率性
- 4-4 インパクト
- 4-5 持続性
- 4-6 結論

### 5. 提言

#### 添付資料

- 1: 評価日程
- 2: PDM (versiones 1 y 2)
- 3: JICA 専門家派遣実績
- 4: 本邦研修・第三国研修受入実績
- 5: 供与機材
- 6: 日本側負担現地経費
- 7: ボリビア側カウンターパート配置実績
- 8: ボリビア側負担経費
- 9: 技術者向け研修プログラム
- 10: 技術者向け研修の実施実績要約
- 11: 農民リーダー向け研修プログラム
- 12: 農民向け研修実施実績要約
- 13: 農民向け研修実施実績
- 14: ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトの集落別分野別実施数
- 15: ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト
- 16: 外部資金申請プロジェクトのリスト

## 1.序

### 1-1 中間レビュー調査の目的

本調査は、プロジェクトの中間時点に当たり、プロジェクトが順調に効果発現に向けて実施されているかどうかを検証し、プロジェクト内容の改善に資することを目的として実施する。

具体的には、以下の項目について日本側とボリビア側と合同で実施する。

- (1) プロジェクトの実績及び実施プロセスを把握する。
- (2) 評価 5 項目の視点から、プロジェクトの現状を評価する。なお、中間レビューにおいては、基本的には、「妥当性」と「効率性」について、貢献・阻害要因とともに重点的に分析し、「有効性」、「インパクト」については、アウトプットの実績や活動状況に基づいて、今後の動向、実現可能性を検証し、「持続性」についてはその見込みについて検討する。
- (3) 上記について、関係者間で共有するとともに、その結果を踏まえ、プロジェクトの戦略や活動計画、投入、実施体制等について日本側とボリビア側とで協議し、必要な提言を行う。

### 1-2 中間レビュー合同調査団メンバー

#### 1-2-1 日本側中間レビュー調査団

No.	担当	氏名	役職
1	総括	仲田俊一	JICA 農村開発部参事役
2	農村開発	奥間靖四	農林水産省農村振興局設計課海外土地改良技術室 海外技術調査係長
3	計画管理	瀧口暁生	JICA 農村開発部畑作地帯第一課
4	評価分析	道順 勲	中央開発株式会社海外事業部専門部長

#### 1-2-2 ボリビア側中間レビュー調査団

No.	担当	氏名	役職
1	団長	Ing. Marco IRIARTE	農村開発・土地省農村農牧開発次省農牧生産食糧主権局 農牧林業水産部専門分析官
2	団員	Ing. Walter CHURA	チュキサカ県庁 農牧調査開発管理分野責任者
3	団員	Lic. Beatriz BARRERA	サンフランシスコハビエル大学 プロジェクトユニット主任

### 1-3 評価日程

評価日程は、添付資料 1 参照のこと。

### 1-4 中間レビュー調査の方法

#### 1-4-1 レビュー方法

本プロジェクトは、プロジェクトの枠組みに関する文書、PDM および R/D (討議議事録) に基づき、ボリビア側および日本側の中間レビューチームが合同で実施した。レビュー作業には、報告書のレビュー、現地視察、インタビュー調査(関係機関職員、JICA 専門家、プロジェクト対象地域の市村の職員および裨益住民)が含まれる。本中間レビュー調査は、以下の 5 項目評価基準に基づき実施された。

## 1-4-2 評価基準 (5 項目評価)

### (1) 妥当性

プロジェクトの目指している効果（プロジェクト目標や上位目標）が受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、被援助国及び日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。

### (2) 有効性

プロジェクトの実施により本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。

### (3) 効率性

主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。

### (4) インパクト

プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的、間接的效果や波及効果を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。

### (5) 持続性

援助が終了してもプロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

## 2. プロジェクト概要

### 2-1 プロジェクトの背景

ボリビア国は南米大陸の中央部に位置する内陸国で、面積 109.9km<sup>2</sup>（日本の約 3 倍）、人口 871 万人（2002 年）、1 人当たり GNI は \$ 890（2003 年）と南米で最も貧しい国である。中でも溪谷地帯に属し、国土の約 5% を占めるチュキサカ県は、貧困率 80.1%（農村部の貧困率は 94.4%）、極貧率も 63.2%（農村部では 86.5%）とボリビア国で最も貧困者の割合が高い県であり、同地域に住む農民は、自然条件が悪い傾斜地のやせた土地で自給的な農牧業を営んでいる。そして現在まで耕作適地の不足から農地の自然回復力を考慮しない収奪的な農業を行ってきたことにより、大規模な土壌侵食が発生しているとともに農地の生産性は低下し、地域農民は常に食糧不足、貧困の状態にある。

そこで日本政府は、同地域において 1999～2003 年まで、土壌侵食防止を目的とした農業農村開発計画の策定技術及び侵食防止についての実証調査を行った（農用地整備公団（現国際農林水産研究センター））。この実証調査の結果を高く評価したボリビア国政府は、これらの結果を活用して地域の技術者を養成することが同国の水土保全に有効と考えたが、ボリビア国政府や関係機関が他集落に対し当該実証調査結果の活用を展開していくためには、一連のプロセスを実施できる人材が育成されていないことや、活用可能な公的資金制度はあるものの、資金調達を担当する村役場がその制度や方法をよく理解していないことなどが問題として明らかになった。そこでボリビア国政府は日本政府に対しその体制整備のための協力を要請し、JICA が 2006～2008 年まで、まず人材育成システムの確立、住民のニーズ発掘および住民主体の計画策定手法の確立、そして公的資金を活用するための資金調達メカニズムの整理を目的として、4 市村 8 集落を対象に、本案件の準備フェーズともいふべき協力を実施した。

ボリビア国政府は、この準備フェーズが成功裏に実施されたことから、準備フェーズによって確立された人材育成システム・計画策定手法・資金調達メカニズムや、実証調査によって確立さ

れた土壌浸食防止技術を活用し、当該地域の9市村36集落において農村開発事業を実施することにより、一連の技術や手法を用いた農村開発の進め方をボリビア国における農村開発モデルとして定着させるとともに、関係機関が継続的かつ広範囲に同モデルを適用させるために必要な体制を構築し、またこれを制度化することを目的として、再度日本国政府に協力を要請した。

JICAは、2008年2月から3月にかけて、事前評価調査団を派遣し、プロジェクト内容およびプロジェクト実施体制に係る枠組みを作り、その後、2009年5月から5年間の技術協力が開始された。

## 2.2 プロジェクトの要約

2010年9月1日に改訂されたPDM (version2)の要約部分は、以下のとおりである。(詳細は、添付資料2参照のこと)

### (1)上位目標

チュキサカ県北部地域内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。

### (2) Objetivo del Proyecto プロジェクト目標

チュキサカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。

### (3)成果

成果1：集落と市村（実施機関）、県庁と大学（支援機関）に農村開発事業の中核人材が養成される。

成果2：集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。

成果3：市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。

成果4：市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築され、整備される。

### (4)活動

活動1-1 プロジェクトの技術者チーム（大学教員や技術者）に対して持続的農村開発に必要な技術・手法の研修を実施する。

活動1-2 技術者チームが、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。

活動1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。

活動1-4 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。

活動2-1 後発28集落において集落開発計画を策定する。

活動2-2 先発8集落において農村開発事業を実施（詳細設計・実施・検査）する。

活動2-3 対象36集落において小規模パイロット事業を実施する。

活動2-4 対象36集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。

活動3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。

活動3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。

活動3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。

活動3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。

活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するために必要な部署を設け、人員を配置する。

活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。

活動 4-3 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。

活動 4-4 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。

(5)プロジェクト期間：2009年5月21日～2014年5月20日（5年間）

(6)ターゲットエリアと受益者：チュキサカ県北部地域9市村の36集落

ただし、プロジェクト活動へ参加していない村が一つあり(Tarabuco村)、現在、プロジェクト対象となっているのは8市村である。その市村名、対象集落名、集落毎の世帯数、人口は、下表のとおりである。プロジェクト対象の33集落の総世帯数は2,031戸、総人口は9,996人である。

	市村(集落数)	対象集落名	集落の世帯数	集落の人口
1	Poroma (73)	Poroma	78	344
2		Chilchista	37	139
3		Chijmuri	36	147
4		Saichuma	22	117
5		Churuni	22	94
6	Presto (38)	Misión Pampa	65	214
7		Presto Porvenir	60	304
8		Puca Pampa	94	376
9		Pasopaya	98	909
10	Yamparae (38)	Sajpaya	87	364
11		San Jose de Molles	60	266
12		Catana	60	278
13		Molle Punku	64	408
14	Sucre Rural (117)	Mamahuasi	35	175
15		Tumpeka	85	481
16		Maracori/ Sunchu Pampa	50	300
17		Molle Molle	47	251
18	Yotala (46)	Tipoyo	79	402
19		Chamina	27	136
20		Anfaya del Peral	35	140
21		Palamana	44	241
22	Icla (31)	Molle Molle	56	297
23		Kollpa Pampa	130	663
24		Guitarrani	40	236
25		Chunca Cancha	135	850
26	Zudañez (29)	Mayu Torcoco	65	260
27		Pata Torcoco	66	264
28		Cerezal	37	148
29		Pirhua Mayu	48	192
30	Mojocoya (31)	Rio Toco	48	260
31		Rumi Cancha	46	200
32		Chiquerillos	55	200
33		Casa Grande	120	340
		計	2,031	9,996

注：括弧内の数値は、市村内の総集落数

### 3.プロジェクトの実績

#### 3-1 投入実績

##### 3-1-1 日本側

###### (1) JICA 専門家派遣

長期専門家として 3 分野の専門家が派遣されている。1)現地リーダー/農村開発、2)参加型開発/制度化、3)業務調整/研修である。また、短期専門家として、チーフアドバイザーが派遣されている。詳細は、添付資料 3 を参照のこと。

###### (2) 本邦研修及び第三国研修

中間レビュー時点で、本邦研修に 3 名、第三国研修（エクアドル）に 4 名が参加した。詳細は、添付資料 4 を参照のこと。

###### (3) 機材供与

オートバイ、ピックアップトラック、小型バスなどの車輛、コンピュータやプリンター等の事務機器などが供与された。2011 年 3 月時点の供与機材費は、1,629,236 ボリビアーノ (Bolivianos)（ドル換算値は 230,825）である。詳細は、添付資料 5 を参照のこと。

###### (4) 日本側負担現地経費

プロジェクト活動実施のために日本側が負担した経費は、2011 年 6 月時点で、2,844,274.25 ボリビアーノ (Boliviano) である（専門家派遣経費及び本邦研修経費は含まない）。詳細は、添付資料 6 を参照のこと。

##### 3-1-2 ボリビア側

###### (1) ボリビア側カウンターパートの配置

2011 年 9 月時点で、計 36 人のカウンターパートが配置されている。内訳は、SFX 大学が 11 人、チュキサカ県庁が 9 人、プロジェクト対象地域の市村が 16 人である。詳細は、添付資料 7 を参照のこと。

###### (2) ボリビア側経費負担

ボリビア側がプロジェクト活動のために負担した経費は、2011 年の予算も含むと、7,170,921 ボリビアーノ (Bolivianos) である。詳細は、添付資料 8 を参照のこと。

(単位: ボリビアーノ)

機関名	2009 年支出額	2010 年支出額	2011 年予算額	計
チュキサカ県庁	841,867	751,029	744,342	2,337,238
サンフランシスコハビエル大学	1,359,915	586,891	874,978	2,821,784
SUCRE 市	182,085	100,290	150,000	432,375
YAMPARAEZ 村	74,551	34,489	38,401	147,441
YOTALA 村	39,741	60,357	82,000	182,098
POROMA 村	40,093	27,101	31,925	99,119
ZUDANES 村	71,300	64,000	105,000	240,300
MOJOCOYA 村	55,300	98,000	98,000	251,300
PRESTO 村	178,100	135,678	135,678	449,456
ICLA 村	94,800	24,009	91,000	209,809
計	2,937,753	1,881,844	2,351,324	7,170,921

###### (3) プロジェクト施設、機材の提供

大学及び県庁により、プロジェクト事務所の提供、大学の車庫の利用、車輛及びバイクの提供がある。

### 3-2 成果の実績

3-2-1 成果 1: 集落と市村（実施機関）、県庁と大学（支援機関）に農村開発事業の中核人材が養成される。

農村開発に関する各種研修実施を通じて、プロジェクト対象集落および市村、県庁、SFX 大学の人材を対象とする能力強化は順調に進捗している。

指標 1: 指導者として 10 名の大学教員、6 名の技術者が、実施者として 9 名の普及員、9 名の計画担当者および各集落 8 人の住民リーダーが、それぞれ育成されている。(計 322 名)

現在、指導者として 11 名の大学教員及び県の 8 名の技術者、実施者として市村の 8 名の技術者及び 8 名の計画担当者が従事している。プロジェクト開始当初からプロジェクト活動に従事している者もいれば、従事期間 1 年程度の者も多にいる。技術者向けの研修プログラムの一例を添付資料 9 に示す。大きく、基礎コースと個別課題のコースに分けられる。その課題構成は下表のとおりである。

表 技術者向け研修プログラムのテーマ

課題	小課題	研修日数(日)
基礎コース	本プロジェクトのコンセプト	1
	本プロジェクトの実施体制とコンポーネント	1
	戦略的な項目の識別	1
	プロジェクト・サイクルの紹介	1
	ミニプロジェクトの紹介	1
	持続的開発の紹介	1
	日本の経験	1
	本プロジェクトにおける技術者の活動	2
	報告書作成と写真	1
自然資源の回復と保全	苗木の生産と植林苗畑の管理	2
	流域に焦点を当てた自然資源保全(浸透溝、テラス、石積み)	2
	持続的農村開発: 農村コミュニティの現状	1
	小規模灌漑システム(用水システム)	
	用水システムの管理	2
	システム管理(GIS, GPS, トータルステーション)	2
管理: コミュニケーション、組織化、管理技術	プロジェクト・サイクル。適用手法。	1
	資金管理 1: 草の根無償資金	1
	資金管理 2	1
	ミーティングの進め方、プロフェッショナルの役割、農牧普及戦略、ツールと参加型技術	2
	組織化と組織間連携(異文化間)	1
	ジェンダー間の公平性	1
		1
社会開発	農村開発のための手法	2
	収入源の創出	2
	衛生教育と保健活動	1
農牧開発	土壌肥沃度の改善	
	作物ローテーション	2
	緑肥	2
	混植	2
	作物残渣の利用	2
	ミミズ利用	2
	農牧生産体系	
	有機栽培	2
	植物被覆	1
	殺虫剤作り	2
	家庭菜園	2



	薬草	2
	収穫後処理技術	2
	販売用の新規作物の導入	2
	種子の改良	2
	農牧製品の加工	
	牧畜基礎/ 動物衛生	2
	養蜂	2
	牛乳の衛生	2
	商品化とマーケティング	2

技術者向けの研修は、これまでに 18 回実施され、参加者数の延べ人数は 218 人、研修総時間数は、161 時間である。なお、一部の技術者向け研修には、SFX 大学の学生及び実習生も参加している。詳細は、添付資料 10 参照のこと。この他、第三国技術交換研修、国内技術交換研修に大学教官、県及び市村の技術者が参加し、技術力の向上が図られている。

農民リーダー向けの研修プログラムの内容は、自然資源劣化とその対策（方法と技術）、コミュニケーションと組織化に関わる管理、農牧開発（土壌肥沃度改善及び農牧生産体系）、評価・計画、農牧産品加工で構成される。詳細は、添付資料 11 参照のこと。なお、住民リーダーについては、これまでの農民向け研修等のプロジェクト活動を通じて、集落のリーダーになり得る人物の特定を行ってきた段階で、リーダー向け研修は、これから開始される。その第一回目の研修が、2011 年 10 月 13 日に実施された。その研修課題は、土壌保全に関わる経験の共有化である。各集落 3 人、8 集落で計 24 人を対象に実施された。

農民向け研修は、土壌保全、森林、農業、牧畜、果樹、野菜、プロジェクト紹介、啓発、計画等の計 15 分野で、延べ 162 回実施されている。詳細は、添付資料 12 及び添付資料 13 参照のこと。今後、プロジェクトの残り期間、県および市村の技術者の交替がなく、研修ならびにプロジェクト活動現場での活動の経験を積み重ねることで、県および市村の技術者が、農村開発事業の中核人材となることが期待される。また、集落の農民リーダー育成についても、プロジェクトの残り期間に各集落で複数名が育成されることが期待される。

指標 2： 研修結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。

本プロジェクトのフェーズ 1 で作成された教材を基本に、不足する教材を作成し、また一部の教材の改良を行っている。分野的にはほぼすべてを網羅する教材ができています。今後は、必要が生じた際に、より高い水準の教材を作成することになる。フェーズ 2 プロジェクトで作成された教材には、下表のとおり、技術者向けの 4 種類、農民向けの 8 種類がある。

(1) 技術者向け教材

1	微生物群に基づく栽培方法の有効性
2	動物衛生マニュアル
3	ミシンの維持管理マニュアル
4	日常の食事における野菜の利用マニュアル

(2) 農民向け教材

1	自然資源
2	土壌と浸食
3	等高線上の石積み作りとその管理
4	石と土を用いた壁づくり
5	ガリー浸食の管理
6	浸透溝
7	衛生的な搾乳
8	チーズ作り

なお、カリキュラムに関しては、指標 1 で述べたように、技術者向けの研修プログラムと農民リーダー向けの研修プログラムが作成されている。

**指標 3：** 大学の農村開発センターにおいて、技術者研修年 1 回、農民研修年 2 回程度実施される。

農村開発センターと呼称するセンターの設立が計画されていたが、現在、SFX 大学側は、「農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署」を設立しようと考えている。SFX 大学内で、この部署の組織化について検討中である。設立時期は未定である。

なお、プロジェクト活動としては、プロジェクト対象外の外部の人々を対象とした研修を実施することを想定しており、これについては、これまで実施してきた研修活動等を整理・分析したうえで、外部の人向けの研修内容を検討し実施していく予定である。実際に、研修が開始されるのは、来年以降になる見込みである。

**3-2-2 成果 2：** 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。

集落開発計画作成のプロセスに基づいて、大半の対象集落で、集落住民参加型の集落開発計画が作成されている。そして、集落開発計画や年間活動計画等に基づいて、農村開発事業がすべての対象集落で実施されている。プロジェクト後半において、農村開発事業の実施の成果・効果を評価しつつ、農村開発事業の計画から実施までのプロセスをモデル化する予定である。

**指標 1：** 対象 36 集落が集落開発計画を有する。

本プロジェクトでは、9 市村で、各市村当たり 4 集落を対象にプロジェクト活動を実施する計画であったが（計 36 集落）、Tarabuco 村が一時的に活動を中断しているため、8 市村を対象にプロジェクト活動が進められている。現在、プロジェクト対象となっている集落は、8 市村で 33 集落である。このうち、29 集落については、集落開発計画が作成されている。残りの 4 集落については、最近新規に選定された集落であり、集落開発計画を作成中である。

集落開発計画作成のプロセスは次のとおりである。

- (1) ベースライン調査 (Estudio Basico) の実施： 収集データ整理と要約文書作成
- (2) 集落マスタープラン (PMC: Plan Maestro Comunal) (今後 10 年程度の集落のニーズ) の作成
- (3) 集落開発計画 (PDC: Plan Desarrollo Comunal) の作成： 本プロジェクト期間の開発計画
- (4) 集落戦略計画 (PEC: Plan Estrategico Comunal) の作成： 市村開発計画 (Plan Desarrollo Municipal) との整合性確認
- (5) 年間活動計画 (POA: Plan de Operación Anual) の作成： 本プロジェクトの集落における年間活動計画

プロジェクト対象集落毎の各計画作成状況を次ページの表に示した。

集落開発計画の作成状況

EE: 作成中

	市村	対象集落名	ベースライン調査 (BE)		PMC 集落マスタープラン	PDC 集落開発計画	PEC 集落戦略計画	POA 2011 年間活動計画 2011	PDM 市村開発計画
			データ	要約					
1	Poroma	Poroma	X	X	X	X	X	X	
2		Chilchista	X	X	X	X	X	X	
3		Chijimuri	X	EE	EE	EE	EE	X	
4		Saichuma	X	EE	X	X	EE	X	
5		Churuni	EE	EE	EE	EE	EE	EE	
6	Presto	Misión Pampa	X	X	X	X	X	X	
7		Presto Porvenir	X	X	X	X	X	X	
8		Puca Pampa	X	X	X	X	X	X	
9		Pasopaya	X	X	X	X	X	X	
10	Yamparae	Sajpaya	X	X	X	X	X	X	
11		San Jose de Molles	X	X	X	X	X	X	
12		Catana	X	X	X	X	X	X	
13		Molle Punku	X	X	X	X	X	X	
14	Sucre (Distrito Rural 8)	Mamahuasi	X	X	X	X	X	X	
15		Tumpeka	X	X	X	X	X	X	
16		Maracori/ Sunchu Pampa	X	X	X	X	X	X	
17		Molle Molle	X	X	X	X	X	X	
18	Yotala	Tipoyo	X	X	X	X	X	X	
19		Chamina	X	X	X	X	X	X	
20		Anfaya del Peral	X	X	X	X	X	X	
21		Palamana	X	X	X	X	X	X	
22	Icla	Molle Molle	X	X	X	X	X	X	
23		Kollpa Pampa	X	X	X	X	X	X	
24		Guitarvani	X	X	X	X	X	X	
25		Chunca Cancha	X	X	X	X	X	X	
26	Zudanez	Mayu Torcoco	X	X	X	X	X	X	
27		Pata Torcoco	X	X	X	X	X	X	
28		Cerezal	X	EE	EE	EE	EE	EE	
29		Pirhua Mayu	X	X	X	X	X	X	
30	Mojocoya	Rio Toco	X	X	X	X	X	X	
31		Rumi Cancha	X	X	X	X	X	X	
32		Chiquerillos	X	X	X	X	X	X	
33		Casa Grande	X	EE	EE	EE	EE	EE	
			32	28	29	29	28	30	

PMC: Plan Maestro Comunal: Demandas de la comunidad para 10 años siguiente

PDC: Plan Desarrollo Comunal: Plan para periodo del Proyecto (Cambio Rural)

PEC: Plan Estrategico Comunal: Comprobación de la coherencia con el Plan Desarrollo Municipal

POA: Plan de Operación Anual: Plan anual para el Proyecto (Cambio Rural)

**指標 2：** 対象 36 集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。

現在、対象 33 集落すべてで、自然資源保全（土壌保全）事業と植林事業が実施されている。このほか、ミニプロジェクト（総事業費上限 6,000 ドル）ならびにパイロットプロジェクト（総事業費上限 10,000 ドル）と称する事業も実施されている。これらプロジェクトでは、農村開発事業の中でも特に集落住民の意識化や組織的な活動の訓練に主眼を置いた比較的小規模な投入による活動を行っている。ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトの種類には、件数の多い順に、植林、農業、牧畜、灌漑等がある。これまでにミニプロジェクトあるいはパイロットプロジェクトが実施された（実施中含む）は、32 集落である。2011 年 5 月時点の、対象市村・集落別のミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトの実施状況の要約を添付資料 14 に、また詳細情報を添付資料 15 に示す。

**指標 3：** 農村開発事業の計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとして纏められている。

開発モデルの基本概念の整理を行い、各活動のプロセスを整理している段階にある。なお、この指標に関する本格的活動は、プロジェクトの第 4 年次（2012 年 5 月以降）から開始予定である。

3-2-3 成果 3： 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。

県および市村の自己資金以外への資金アクセスとして、外部の資金援助機関のデータベースシステムが作成され、対象市村のコンピュータにインストールされ、その使い方の市村関係者への研修が実施されている。そして、実際に外部資金への申請を行い、承認を経て、資金が調達され、事業が実施されている事例も出てきている。市村・県による農村開発事業実施のための外部からの開発資金調達は、順調に進展していると言える。データベースシステムを活用しつつ、市村がさらに外部資金を調達し、農村開発事業を推進していくことが期待される。

**指標 1：** 支援機関が実施すべき資金調達手続きが纏められている

開発資金援助機関のデータベースシステム（コンピュータ上で作動）が作成され、その使用マニュアル（Manual de Usuario Base de Datos）が作成されている。また、開発資金援助機関のリストが作成されており、11 の国内機関と 27 の国際的機関の特徴、住所、ウェブサイトアドレス、コンタクト先、申請様式が示されている。

**指標 2：** 普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続きを理解している。

上記指標 1 のデータベースシステムと開発資金援助機関のリストは、チュキサカ県およびプロジェクト対象市村のコンピュータにインストールされ、また、県・市村の計画担当者、総務部長等への説明も実施されている。このデータベースから資金申請様式が得られるだけでも、資金要請手続きを容易にするものである。申請手続きについては、基本的な理解が得られていると考えられる。なお、申請様式への記入方法についての問い合わせへの対応や情報更新については、この活動の担当者等がサポートしていくことになっている。

**指標 3：** 市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。

これまでに 19 件の資金要請が実施されている。資金要請先機関・基金には、2KR 見返り資金、

日本大使館の草の根無償資金、先住民基金、MI AGUA（私の水）プログラム、灌漑県サービス、国家生産・社会投資基金、ベルギー政府協力がある。詳細は添付資料 16 参照のこと。

見直し作業や承認されなかった案件があるものの、各種資金申請に関わる本プロジェクトによる説明会の実施を通じて申請手続きの理解が進み、資金申請に係る書類を適切作成する能力は徐々に向上しているものと考えられる。

指標 4： 対象 36 集落において調達された資金が活用されている。

上記の資金申請が承認され、事業が実施済み及び実施中の村落数は、延べ 8 集落である。

3-2-4 成果 4： 市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築され、整備される。

総合農村開発事業の実施体制の整備は、今後本格化するプロジェクト活動であり、関係機関の役割分担の明確化や関係組織の設置を進めつつ、実施体制を構築していくことになる。

指標 1： 市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。

県および市村では、既存の部署が、農村開発に関わる事業を実施しており、そのための要員が配置されている。ちなみに、本プロジェクトを担当している部署を市村毎に下表に示す。

No	市村名	本プロジェクト担当部署名
1	Poroma	技術部インフラ課生産自然資源環境係
2	Presto	事務・財務部計画課生産・経済開発係
3	Yamparaez	事務・財務部工事管理課
4	Sucre	経済開発部生産開発課農牧開発係
5	Yotala	技術部
6	Icla	事務・財務部計画官
7	Zudañez	事務・財務部経済開発・自然資源・環境チーフ
8	Mojocoya	事務・財務部開発課計画官

SFX 大学については、農学部で農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署を設置する計画であり、その際には、本プロジェクトのカウンターパートである教官等が配置される見込みである。

指標 2： 同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。

上述のとおり、対象市村には農村開発事業に関わる部署があり、必ずしも十分な予算を有するとは言えないが、農村開発関連事業が実施されている。

指標 3： 大学に人材育成を目的とした農村開発部署が設置され、関連の規則が定められる。

SFX 大学農学部で農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署を設置する方針があり、大学内で計画中である。

指標 4： 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置され、条例等規則が定められる。

プロジェクト対象の市村、チュキサカ県庁には、組織名等は自治体毎に異なるものの、農村開発事業に関する計画策定・資金調達・事業実施を支援する既存の部署がある。

### 3-3 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標： チュキサカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。

#### 3-3-1 本プロジェクトにおける農村開発モデル、実施体制という用語の意味

農村開発モデル： 市村および県・大学が活用するモデルであり、チュキサカ県北部地域の集落の住民が自然資源保全と生活水準向上に自立的に取り組むための農村開発の進め方を示すものである。

本モデルは、「開発技術」と「開発事業のサイクル」で構成される。

開発技術とは、自然資源保全・生計向上のために活用可能な技術リストであり、また地域の状況に応じて活用する手法を示したものである。

開発事業のサイクルとは、参加型の計画策定、実施、モニタリング及び評価の手法である。

実施体制： 農村開発モデルをボリビア側市村および県・大学の独自の力で実施できる体制（人員、予算・その他資金確保、関連機関の役割と責任分担・連携体制）のことである。

#### 3-3-2 プロジェクト目標がプロジェクト終了時までに達成するかどうかについての見込み

プロジェクト前半では、県・市村のカウンターパートの大幅な交替があったが、プロジェクト後半においては、カウンターパートの継続性が高まり、それに伴って、プロジェクト活動がより円滑に進捗し、より高い成果が発現することが期待される。また、上記において、「農村開発モデルと実施体制の確立」の意味の明確化を行ったので、プロジェクト終了時における到達点の理解の共有が容易となると考える。農村開発事業の実施体制の構築に今後より努力を傾注しつつ、プロジェクト活動を進めてゆけば、プロジェクト目標を達成する見込みは高いと判断する。

指標 1： 農村開発の事業計画から資金申請を含む実施の度合い（資金獲得額と農村開発事業の実施状況）。

成果 3 の達成状況の項で記述したように、これまでに農村開発関連事業の計画作成から資金申請に至った案件は、19 件である。このうち、2011 年 10 月 5 日時点で、実施済みあるいは実施中の事業は、計 5 件である。承認金額は 5 件で計 3,130,689Bs である（約 46 万ドル）。実施済み及び実施中の案件の種類は、すべて小規模灌漑システム建設事業である。このほか、申請中（承認済み及び修正申請中を含む）の案件は、11 件ある。

指標 2： 県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される。

SFX 大学農学部は農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署を設置する予定があり、大学内で計画中である。県庁及び対象 8 市村では、既存の部署が農村開発関連事業を実施している。農村開発部署の業務内容の条例や規則で規定することは、今後の課題である。

## 4.評価結果

### 4-1 妥当性

以下に述べるように、本プロジェクトの妥当性は高いと判断される。

#### 4-1-1 対象地域・社会のニーズとの整合性

チュキサカ県は国土の約5%を占め、北部地域は高地であり、貧困率92.5%、極貧率87.8%（2001年人口センサス：スクレ市街地を除く）と、ボリビア国で最も貧困割合が高い地域の一つである。同地域は乾燥した気候帯に属するうえに、溪谷地帯の限られた耕作適地において収奪的な農業が行われてきた結果、土壌侵食や水資源の枯渇が進行しており、耕作適地の減少や農地の生産性低下を引き起こしている。同地域の住民の多くは、自給的な農牧業を営む農民であるため、農業生産性の低下により、住民の生活は困窮している。伝統的な農牧生産物の生産向上による食糧生産増加とともに、他の収入源創出を通じた生計向上も必要とされている。本プロジェクトは、自然資源の回復と保全、農牧業開発、社会開発といった総合的農村開発を通じて、農村住民の食糧生産増加や収入源創出等を図り、農村住民の生活の質の向上に寄与しようとするものであり、また、参加型開発計画作成を通じて農村住民のニーズに沿った事業を進めていることから、対象地域・社会のニーズやターゲットグループのニーズに合致していると言える。

#### 4-1-2 ボリビア国政府の開発政策との整合性

国家開発計画（2006～2011年）の柱の一つは、生産性向上である。農村開発・土地省の農牧セクター開発計画2011-2015では、食糧主権を目指した農村開発への様式変更を目的に掲げ、8つの政策を示している。その政策には、食糧安全と食糧主権のための農牧生産、生産的な農牧開発、収入創出と持続性のある農牧生産物余剰、灌漑水へのアクセスが含まれている。本プロジェクトは、総合農村開発を通じて農村住民の生活の質の向上に寄与する目的を有することから、ボリビア国政府の政策に合致していると言える。

#### 4-1-3 日本政府の支援方針との整合性

日本政府は、「貧困削減のための社会開発支援」及び「持続的経済成長のための支援」を支援の柱とし、重点分野の一つは、社会開発であり、地方開発に関わる協力を貧困削減の観点から重視している。また、本プロジェクトは、「小規模農家の貧困削減プログラム」の中のプロジェクトの一つに位置づけられている。したがって、農村住民の生活水準の向上を目指す本プロジェクトは、日本政府の援助方針と合致している。

#### 4-1-4 プロジェクトアプローチの妥当性と裨益の公平性

本プロジェクトは、傾斜地が多く土壌侵食が生じやすい地域であり、また年間雨量も少ないチュキサカ県北部地域において、自然資源の回復・保全（持続的な土壌、水、植生の管理）を基礎としつつ、農牧業生産向上や収入源の創出といった活動を通じて、持続的な農村開発を進めるものである。加えて、過去ボリビア国においては、多くのドナー機関からの支援がある一方で、プロジェクト終了後に持続性を確保していない例が多く見られるなか、本プロジェクトでは、資金確保のメカニズムや関係機関を効果的に調整する仕組みの導入を通じて、農村開発を自立的・持続的に進めるためのモデルとその実施体制作りを支援することとしている。本プロジェクトのアプローチは、本地域で、持続性ある農村開発を進展させるために有効なアプローチであると考えられる。当初、9市村で36集落を対象とする計画であったが、一つの村の参加が得られていないため、8市村33集落でプロジェクト活動が実施されている。33集落の総世帯数と人口は、2,031戸、9,996

人である。本プロジェクトの対象地域の多くの農家は、点在して居住しており、灌漑施設の建設は簡単ではない。プロジェクトでは、一戸の農家又は数人の特定グループに対して灌漑施設整備をおこなった場合、当該農家が植林活動実施、収穫物の学校への供給、集落メンバー・訪問者への事業効果の説明などの負担を行うことを義務として課しており、効果―費用のバランスをとるように配慮している。このようにできるだけ公平な受益となるような考慮がされている。

#### 4-2 有効性

本プロジェクトでは、4つの成果、すなわち、1)農村開発事業に従事する中核人材の育成、2)農村開発事業の計画から実施までのプロセスのモデル化、3)農村開発事業のための資金調達、4)農村開発事業実施のための実施体制の整備、を設定している。3章で述べたように、成果4の実施体制の整備については、今後の課題であるものの、成果1から成果3までについては、概ね順調に成果を上げつつあると言える。農村開発モデルの開発とそのための実施体制の確立については、これまでのプロジェクト活動の実績ならびにそのプロセスと効果の評価に基づいて、プロジェクト後半に構築していく予定である。本中間レビュー時において、「農村開発モデルと実施体制の確立」の意味するところが明確化されたので、プロジェクト目標の具体的なコンセプトについての理解が、関係者間で十分共有化されることが期待され、また、今後のプロジェクト活動を円滑に進捗させることで、プロジェクト終了時まで、プロジェクト目標が達成されるものと見込まれる。したがって、本プロジェクトの有効性は満足できる水準になるものと予想される。

#### 4-3 効率性

一部のプロジェクト活動については、以下に述べるような要因から遅れが生じている部分もあるが、プロジェクト活動全般の進捗については、概ね順調で、徐々に成果を上げつつあると判断される。したがって、本プロジェクトの効率性は、満足できる水準であると判断される。

##### (1) 日本側投入について

日本側の投入（専門家、本邦研修、第三国研修、機材供与、現地業務費）は、プロジェクト活動を進めるために、概ね適切なものであり、プロジェクト活動の効率的実施に用いられた。なお、これまでに実施されているボリビア国内や第三国での技術や経験の交換交流は、カウンターパートならびに農民の能力強化の効果が高いと判断される。

##### (2) ボリビア側投入について

3章の投入の項で述べたように、2011年9月時点で、計36人のカウンターパートが配置されている。内訳は、UFX大学が11人、チュキサカ県庁が9人、プロジェクト対象地域の市村が16人である。なお、ボリビア国の地方政府機関においては、選挙で自治体首長が交替すると、職員も大幅に交替するのが通常であること、さらに、カウンターパートの大半が年間雇用であることから、チュキサカ県および市村のカウンターパートの大半も交替している。このように雇用状態が不安定な状況のもとでは、人員交替に際して、能力強化に関わる研修を再度実施する必要が生じるほか、プロジェクト活動現場での経験の蓄積も失われてしまう。このような自治体職員の交替は、カウンターパートの能力強化面において、著しく効率性を低下させる要因である。

一般的に、ボリビア国政府の財政状況は豊であるとはいえない状況下であり、また、一部、プロジェクト側が申請した事業の実施承認まで時間を要する案件もあったものの、ボリビア側関係機関（県庁、市村、大学）は、それぞれプロジェクト活動に対して予算支出をしており、プロジェクト活動推進に寄与している。今後も、プロジェクト活動への資金的投入が継続され、プロジェ



クト活動の効率的で円滑な実施が継続することが期待される。

### (3) プロジェクトの運営管理について

市村の職員ならびにその他のプロジェクト関係者から、関係機関間の調整が必ずしも十分ではないとの指摘があった。これは、プロジェクト活動に関する情報・データの蓄積は、良好に実施されてきているものの、どのようなプロジェクト活動が実施され、どのような成果・効果を上げつつあるか評価し、関係者に理解しやすいような形での報告が不足していることも一因と思われる。本プロジェクトは、農村開発事業の実施体制の構築も目指しているため、構想される実施体制に基づき、関係者間の連携・調整を円滑に進め、事業の効果・成果を適切にモニタリング・評価し、自治体の意志決定者等により分かりやすく報告されるように、プロジェクトの実施体制も改善していく必要がある。

## 4.4 インパクト

### 4.4.1 上位目標の達成見込み

上位目標： チュキサカ県北部地域に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。

以下に述べるように、個別農家レベルでは、上位目標達成につながりうるインパクトが確認されている。これが面的に広がって上位目標達成にいたるには、初期投資の確保、販売マーケットの確保など、さらに今後取り組むべき課題が残っている。このため、ボリビア側が持続的に農村開発に取り組むための実施体制を整備することが重要である。

**指標 1：** チュキサカ県の 72 集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。

プロジェクト後半において農村開発モデルの確立が行われる予定になっている。したがって、現時点で、チュキサカ県内の集落で、プロジェクトが提案する農村開発モデルを活用している事例はない。

**指標 2：** チュキサカ県において農業生産性が向上している。

灌漑システムの導入により、これまで生産していなかった野菜の生産ができるようになった事例が増加している。また、農民からの聞き取りでは、土壌保全等の導入により、主食であるジャガイモなどで、若干の生産量増加があり、より多くの食事が得られるようになった。

**指標 3：** チュキサカ県の農村の収入が向上している。

野菜栽培の導入により、これまで購入していた野菜を自ら生産できるようになり、一部ではあるが、余剰分の野菜、衣類、乳製品、植林用苗木を集落内あるいは集落外で販売し始めた事例が観察された。

**指標 4：** チュキサカ県の UBN（充足されていない基本的ニーズ数）が減少している。

灌漑システムが導入された集落においては、飲料水が確保されており、基本的ニーズの充足に貢献している。

栽培した野菜の自家消費により栄養状態の改善が期待される。

#### 4-4-2 その他のインパクト

近隣の農家が、展示圃場やプロジェクト対象農家の圃場や植林用苗床の視察に多く訪問しており、波及効果が期待できる。プロジェクトメンバーからの聞き取りでは、すでにテラス工法が近隣農家に取り入れられている。また、他の集落からプロジェクトに参加したいとの要望が寄せられている。

集落では女性の参加が促進されている。

集落住民の資金管理能力が向上している。

#### 4-5 持続性

##### (1)政策面

すでに述べたように、国家開発計画では、生産性向上が重視され、また農牧セクター開発計画 2011-2015 では、食糧主権を目指した農村開発が目的となっている。チュキサカ県の開発計画 2009-2015 の生産面の開発政策では、包含的な生産的開発や自然資源・環境が政策軸に含まれ、農牧開発面では、関係機関間活動のネットワークの構築・強化も政策に含まれている。今後も引き続き、ボリビア国政府ならびに県庁は、農村開発とそのための実施体制強化を重視していくと考えられ、政策面での持続性は確保されるものと考えられる。一方、これらの政策の多くは、プロジェクトベースで実施されており、当該分野の人員の配置もプロジェクト予算が確保された範囲で充たされているのが現状である。したがって、これらの政策が適切に実施され、農村開発事業のインパクトの持続的発現につながるには、予算の確保が重要な要素となる。このためプロジェクトで確立される事業資金確保メカニズムを有効に活用し資金の持続的確保に取り組むことが必要である。

##### (2)組織面

SFX 大学については、本プロジェクトの活動を継続的に実施していくために、農学部で農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署を設置する計画がある。この部署が公式に設置され、農村開発に関わる各種事業を持続的実施できる体制になれば、チュキサカ県内で農村開発に関わる能力向上を主導する組織として継続的な活動が期待できる。

県および市村については、計画部門の職員については既存の組織体制において農村開発事業を進めているものの、なお、技術者の配置については、プロジェクトベースでなされているのが実情であり、プロジェクト予算が確保できない場合には、人材の不足が懸念される。

本プロジェクトにおいては、短期集中的に活動が終了するインフラ整備や種子肥料等の配布事業と異なり、参加型の計画作りから農牧技術指導、モニタリング等を一貫して指導するものであり、週に一回程度の継続的な巡回指導を必要とする。このため、効果的な農村開発を進めていくためには、少なくとも現状と同程度の技術者の配置が県および市村において必須になると考えられる。なお、現在、本プロジェクトの農村開発事業において、関係機関の役割分担の規定はあるものの、その見直しが必要である。

また、SFX 大学、チュキサカ県庁、及び市村により、プロジェクト活動にかかる調整・協力・連携を行う調整委員会を設置し、定期的開催する必要がある。

また、将来的にはチュキサカ県北部地域の農村開発事業実施に向けた具体的な開発計画の作成、及び他の国内政府機関、NGO、他ドナー機関との調整・協力・連携を模索していく必要がある。

##### (3)財政面

第 3 章の投入の項で示したように、本プロジェクトに参加している県庁、8 つの市村及び USFX

大学は、プロジェクト活動に対する予算支出を行っている。

また、プロジェクト活動を通じて、資金支援に関わる外部機関（国内及び国外）への資金要請手続きが取りまとめられ、8市村及び県庁の計画担当官等がその資金申請手続きを理解し、いくつかの市村では、すでに資金申請を行って、資金を獲得している。プロジェクトの残り期間に、さらに外部機関への資金申請を継続していくことで、資金獲得能力が向上するものと期待される。

#### (4)技術面

本プロジェクトに参加しているカウンターパートの技術的能力については、SFX大学の教官の場合、国外及び国内での経験交換交流への参加、研修講師としての参加、プロジェクト現場での活動を通じて、その指導者としての能力（知識・経験）を高めている。大学教官の場合の定着性は比較的高いので、技術面での持続性が確保されるものと期待される。

県および市村の技術者の場合、技術者向けの研修参加、農村開発事業の計画作成、対象集落における各種農村開発事業実施における農村住民への指導・モニタリングを通じて、その知識・経験が蓄積されている。ただし、県や市村の長の選挙毎に、職員も大幅に交替するのが通常であり、本プロジェクト期間中にも多くのカウンターパートが交替している。県および市村所属の技術者の技術面の持続性を確保することには困難が伴う。

このため、県及び市村の人員の資格要件を明確化するとともに、本プロジェクトで取り組んでいるように新任の技術者向けの研修を大学が集中的に実施することをシステム化することが望まれる。

#### 4-6 結論

すでに述べたように、本プロジェクトの4つの成果のうち、3つの成果、すなわち、1)農村開発事業に従事する中核人材の育成、2)農村開発事業の計画から実施までのプロセスのモデル化、3)農村開発事業のための資金調達、については、概ね順調に成果を上げつつある。ただし、成果4（農村開発事業実施のための実施体制の整備）については、今後の課題である。

したがって、今後のプロジェクト活動が円滑に進捗すれば、プロジェクト終了時までには、プロジェクト目標が達成されるものと見込まれる。ただし、提言の項で述べるような改善策の実施が求められる。

#### 5.提言

##### (1) ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのモニタリング・評価体制の改善

本プロジェクトにおいて数多くのミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトが実施されてきている。これら個別のプロジェクトを一般化し、開発モデルにつなげていくためには、適切なモニタリング・評価を実施する必要がある。このため、個別の案件を評価する基準・手法を設定し、関係機関の連携によりモニタリング・評価を行う体制を築く必要がある。

また、評価結果に基づき、個別の事業の達成状況を判定し、一定の自立性が確保された段階で支援を終了し、新たな受益者へ活動を移していく仕組みを検討する必要がある。

##### (2) 本プロジェクトの計画策定プロセスの市村の開発計画策定プロセスへの統合

農村開発モデルを持続的に実施していくためには、参加型の集落開発計画を市村の開発計画策定プロセスに統合する必要がある。このため、集落で活動する他の組織と集落開発計画を共有する

とともに市村の計画担当者との密接な連携を図り、市村の年間計画に集落開発計画が反映されるよう働きかける必要がある。また、集落計画に対する住民の継続的な意識化と主体意識形成のため一層の努力が必要である。

### (3) 農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署の設置

農村開発モデルを持続的に展開していくためには、農村開発に係る多様な技術的知見を有しかつ多様な関係機関を調整し、効率的な支援を進める組織が必要である。SFX 大学において、農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署の設置が計画されており、この役割を果たすことが大いに期待される。プロジェクト後半の活動において、この組織の果たす機能や組織構成に関する助言を行い、設立プロセスを支援する必要がある。

### (4) プロジェクト関係機関の役割分担の見直しと調整委員会の設立支援

農村開発においては、SFX 大学、県、市村が効果的に連携して事業に取り組んでいく必要があるが、現在のプロジェクト活動においては、関係機関の役割・責任分担が十分に明確化されていないため、効率的な活動が行われていない例も見られた。このため、後半のプロジェクト活動においては、実施体制の確立に向けて、関係機関の役割分担を見直す必要がある。

また、農村開発に関する計画策定支援や成果の共有を行う目的で調整委員会を設立し、定期的に会議を開催する必要がある。

### (5) 植林における原生種の利用拡大と環境的側面と経済的側面のバランス

本プロジェクトでは、外来種である松とユーカリを多く植林している。これは、これまでの経験から経済的に有用であることが分かっていて、住民の要望が多いためである。しかし、水源地域の保全のためには、原生種の利用がより効果的であると考えられるので、住民とともに原生種と外来種の利便性を検討していくことが望まれる。ユーカリについては、水分吸収量が多いので、水資源が少ない地域での利用には慎重になるべきである。

また植林用苗木生産では、環境的側面と経済的側面のバランスを取ることが重要である。

### (6) マーケティング

プロジェクトでは収入源の多様化の可能性を探るための活動を実施してきており、今後も計画されている。

今後は、市場・流通面を十分調査したうえで、より収入に結びつきやすい活動を実施していく必要がある。

### (7) プロジェクト関係機関への情報提供

プロジェクトは半年ごとに詳細な報告書を作成し、プロジェクト関係機関に送付しているにもかかわらず、プロジェクト関係機関から、本プロジェクト活動がどのような成果・効果を上げつつあるか情報が十分に届いていないとの指摘があった。また、プロジェクト関係機関幹部の本プロジェクトに対するオーナーシップが低いことが確認された。今後は、プロジェクト関係機関幹部のプロジェクト進捗に対する理解を促進するために、報告書や定期刊行物の配布ならびに技術者や担当部署による進捗報告等による対応が求められる。

### (8) 人員の継続的な配置の保証

これまでのプロジェクト実施過程で、県、市村の技術者を中心に多くのカウンターパートが交替

し、能力強化に関わる研修を再度実施する必要があるとともに、プロジェクト活動現場での経験の蓄積も失われてしまった。残された期間でプロジェクト目標を達成するためには、カウンターパートの継続的な配置が不可欠である。

**(9) SFX 大学の車輛等の維持管理費の確保**

SFX 大学は、本プロジェクト実施にあたり執務室の提供や光熱費等の負担をしているが、燃料費、車輛の維持管理費への経費支出については、ほとんどなされていない。また、供与機材であるマイクロバスについては、保険加入についての問題があり、いまだに利用できない状況である。これら経費に係る適時の予算執行が求められる。

**(10) プロジェクトが提案する農村開発モデルの適用に向けた事業間連携の強化**

本プロジェクトは総合的な開発の視点を有しており、プロジェクトの提案する農村開発モデルの効率的な適用を促進するためには、集落内での活動実施プロセスにおける、事業間の統合性をより強化・視覚化することが必要である。

添付資料 1 評価日程

月日	曜	道順 敷	瀧口暁生	仲田俊一/ 奥間靖四	ボリビア側 評価団
10月1日	土	成田→ヒューストン、ヒューストン→リマ			
10月2日	日	リマ→ラ・パス			
10月3日	月	- 農村開発・土地省、INIAF、ラ・パス県庁表敬 - JICA 事務所打合せ			
10月4日	火	- ラ・パス→スクレ - 日本人専門家との打合せ			
10月5日	水	- カウンターパートインタビュー及び 資料収集			
10月6日	木	- スクレ市のプロジェクト対象集落視 察(Tumpeka 集落及び Mamahuasi 集落)			
10月7日	金	- Yamparaez 村のプロジェクト対象集 落視察(Sajpaya 集落及び y San José de Molles 集落)		成田→ヒュー ストン、ヒュー ストン→リマ	
10月8日	土	- 資料整理		リマ→ラ・パス	
10月9日	日	- 資料整理	- ラ・パス→スクレ		
10月10日	月	- 8:30 SFX 大学学長表敬 - 10:00 チュキサカ県庁表敬 - 11:00 日本人専門家とのミーティング - 15:00 合同評価委員会（評価方法の説明）			
10月11日	火	- 8:00 スクレ発 - 11:00 Icla 村到着、村役場訪問及び対象集落のプロジェクトサイト視察 - 18:00 スクレ着			
10月12日	水	- 7:30 スクレ発 - 11:00 Presto 村到着、村役場訪問及び対象集落のプロジェクトサイト視察 - 18:00 スクレ着			
10月13日	木	- 9:00 - 12:00 農学部長表敬 - 15:00 - 18:00 市村の技術者のプロジェクト活動説明および農民インタビュー			
10月14日	金	- 9:00 - 12:00 カウンターパートによるプロジェクト進捗状況説明 - 14:00 - 18:00 内部打合せ			
10月15日	土	- 8:00 - 12:00 合同評価委員会（評価レポート案の作成・協議）			
10月16日	日	- 8:00 - 13:00 合同評価委員会（評価レポート案の作成・協議）			
10月17日	月	- 9:00 - 12:00 合同評価委員会（評価レポート最終版の作成）			
10月18日	火	- 11:00 - 12:00 合同調整員委員会開催、評価結果の説明、ミニッツ署名			
10月19日	水	移動：スクレ→ラ・パス			

添付資料 2 PDM (version 1 及び 2)

(1) PDM (versión 1)

プロジェクト名: 持続的農村開発のための実施体制整備計画 フェーズ2  
 ターゲットエリア: チュキサカ州北部地域 9 市村  
 受益者: 36 集落  
 プロジェクト期間: 2009 年 6 月 ~ 2014 年 6 月 (5 年間)

日付: 2009 年 3 月 2 日

上目録	プロジェクト要約	指 標	入手手段	外部要因
チュキサカ州内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。	【指標 1】 チュキサカ州の 72 集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。 【指標 2】 チュキサカ州において農業生産性が向上している。 【指標 3】 チュキサカ州の農村の収入が向上している。 【指標 4】 チュキサカ州の UBN(充足されていない基本的ニーズ数)が減少している。	【指標 1】 農村開発の事業計画から資金申請から資金獲得額と農村開発事業の実施状況 【指標 2】 県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される	対象地域の HDI 調査 プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査	ボリビアの農村開発に関する国家政策が変わらない
チュキサカ州北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。	【指標 1】 指導者として 10 名の大学教員、6 名の技術者が、実施者として 9 名の普及員、9 名の計画担当者および各集落 8 人の住民リーダーが、それぞれ育成されている。(計 322 名) 【指標 2】 研修結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。 【指標 3】 大学の農村開発センターにおいて、技術者研修年 1 回、農民研修年 2 回程度実施される。	【指標 1】 対象 36 集落において、農村開発計画が改善している。 【指標 2】 対象 36 集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。 【指標 3】 農村開発事業の計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとして纏められている。 【指標 4】 対象 36 集落において、農村開発の状況が改善している。	プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査	関係機関の政策が変わらない プロジェクトのカウンターパートが大幅には変わらない
成果 2: 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。	【指標 1】 支援機関が実施すべき資金調達手続きが纏められている。 【指標 2】 普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続きを理解している。 【指標 3】 市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。	【指標 4】 対象 36 集落において調達された資金が活用されている。 【指標 1】 市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。 【指標 2】 同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。		
成果 3: 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が整備される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が定められる。		
成果 4: 市村(実施機関)、県庁および大学(支援機関)において、農村開発事業の実施・支援体制が構築される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が整備される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が定められる。		
成果 5: 農村開発事業が継続的に実施されるように体制が整備される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が整備される。	【指標 1】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置されるように体制が定められる。		

活動	投 入	前提条件
<p>活動 1-1 大学教員や技術者が、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。</p> <p>活動 1-3 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 1-4 ベースライン調査を実施する</p> <p>活動 2-1 後発 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 先発 8 集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>活動 2-3 後発 28 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象 36 集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p> <p>活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するために必要な部署を設け、人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。</p> <p>活動 5-1 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。</p> <p>活動 5-2 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。</p>	<p>&lt;日本側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期専門家：現地リーダー／農村開発、開発制度／参加型開発、業務調整／研修</li> <li>● 短期専門家：チーフアドバイザー その他必要な技術専門家</li> <li>● 供与機材</li> <li>● 本邦・第三国研修</li> <li>● プロジェクト活動に必要な経費</li> <li>● 調査団派遣に必要な経費</li> </ul>	<p>&lt;ポリア側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンターパートの配置：普及員、市村の計画担当者、調整員、大学教員、その他の関係者</li> <li>● ローカルコスト：(研修経費、調査経費、技術書の発行・運用経費、投資経費等)</li> <li>● プロジェクト事務所、圍場等施設</li> <li>● 資機材</li> </ul>
		<p>9 市村役場が、独自の予算で少なくとも各村 1 人の普及員を雇用する。</p>



(2) PDM (versión 2)

プロジェクト名: 持続的農村開発のための実施体制整備計画 フェーズ2

ターゲットエリア: チュキサカカ州北部地域 9 市村

受益者: 36 集落

プロジェクト期間: 2009 年 5 月 ~ 2014 年 5 月 (5 年間)

改訂日: 2010 年 9 月 1 日

プロジェクト要約	指標	入手手段	外部要因
<p><b>上位目標</b> チュキサカカ州内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。</p> <p><b>プロジェクト目標</b> チュキサカカ州北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。</p> <p><b>成果</b> 成果 1: 集落と市村(実施機関)、県庁と大学(支援機関)に農村開発事業の中核人材が養成される。</p> <p>成果 2: 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。</p> <p>成果 3: 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。</p> <p>成果 4: 市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築され、整備される。</p>	<p>【指標 1】 チュキサカカ州の 72 集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 2】 チュキサカカ州において農業生産性が向上している。</p> <p>【指標 3】 チュキサカカ州の農村の収入が向上している。</p> <p>【指標 4】 チュキサカカ州の UBN(充足されていない基本的ニーズ数)が減少している。</p> <p>【指標 1】 農村開発の事業計画から資金申請を含む実施の度合い(資金獲得額と農村開発事業の実施状況)。</p> <p>【指標 2】 県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される。</p>	<p>対象地域の HDI 調査</p> <p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p> <p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p>	<p>ボリビアの農村開発に関する国家政策が変わらない</p> <p>関係機関の政策が変わらない</p> <p>プロジェクトのカウンタートパートが大幅には変わらない</p>
<p>【指標 1】 指導者として 10 名の大学教員、6 名の技術者が、実施者として 9 名の普及員、9 名の計画担当者および各集落 8 人の住民リーダーが、それぞれ育成されている。(計 322 名)</p> <p>【指標 2】 研修結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。</p> <p>【指標 3】 大学の農村開発センターにおいて、技術者研修年 1 回、農民研修年 2 回程度実施される。</p> <p>【指標 1】 対象 36 集落が集落開発計画を有する。</p> <p>【指標 2】 対象 36 集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 3】 農村開発事業の計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとして纏められている。</p> <p>【指標 4】 対象 36 集落において、農村開発の状況が改善している。</p> <p>【指標 1】 支援機関が実施すべき資金調達手続きが纏められている。</p> <p>【指標 2】 普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続きを理解している。</p> <p>【指標 3】 市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。</p> <p>【指標 4】 対象 36 集落において調達された資金が活用されている。</p>	<p>【指標 1】 市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。</p> <p>【指標 2】 同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。</p> <p>【指標 3】 大学に人材育成を目的とした農村開発部署が設置され、関連の規則が定められる。</p> <p>【指標 4】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置され、条例等規則が定められる。</p>		

活動	投入		前提条件
<p>活動 1-1 プロジェクトの技術者チーム(大学教員や技術者)に対して持続的農村開発に必要な技術・手法の研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 技術者チームが、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。</p> <p>活動 1-4 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 2-1 後発 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 先発 8 集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>活動 2-3 対象 36 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象 36 集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p> <p>活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するために必要な部署を設け、人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。</p> <p>活動 4-3 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。</p> <p>活動 4-4 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。</p>	<p>&lt;日本側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期専門家：現地リーダー／農村開発、開発制度／参加型開発、業務調整／研修</li> <li>● 短期専門家：チーフアドバイザー／その他必要な技術専門家</li> <li>● 供与機材</li> <li>● 本邦・第三国研修</li> <li>● プロジェクト活動に必要な経費</li> <li>● 調査団派遣に必要な経費</li> </ul>	<p>&lt;ポリビア側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンタートパートの配置：普及員、市村の計画担当者、調整員、大学教員、その他の関係者</li> <li>● ローカルコスト：(研修経費、調査経費、技術書の発行・運用経費、投資経費等)</li> <li>● プロジェクト事務所、圃場等施設</li> <li>● 賃機材</li> </ul>	<p>前提条件</p> <p>9 市村役場が、独自の予算で少なくとも各村1人の普及員を雇用する。</p>

添付資料3 日本人専門家派遣実績

(1) 長期専門家

	氏名	分野	期間		M/M合計 (人・月)	2009年			2010年			2011年			2012年			2013年			2014年								
			開始	終了		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
1	大上 安定	現地リーダー/農村開発	2009/6/5	2011/6/4	24.3																								
2	泉原 明	現地リーダー/農村開発	2011/5/21	2013/5/20	24.3																								
3	四野見 悠喜男	参加型開発/制度化	2009/5/21	2012/5/20	36.5																								
4	合田 佳世	業務調整	2009/11/1	2011/10/31	24.3																								
小計					109.4																								

(2) 短期専門家

	氏名	分野	期間		M/M合計 (人・月)	2009年			2010年			2011年			2012年			2013年			2014年								
			開始	終了		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
1	永代 成日出	子-ニアドバイザー	2009/5/23	2009/6/5	0.4																								
			2009/8/5	2009/8/13	0.3																								
			2009/11/3	2009/11/13	0.3																								
			2010/4/11	2010/5/4	0.8																								
			2010/6/1	2010/6/11	0.3																								
			2010/8/24	2010/9/2	0.3																								
			2010/11/21	2010/12/4	0.4																								
			2011/3/28	2011/4/13	0.5																								
			2011/6/13	2011/6/30	0.6																								
			2011/10/8	2011/10/19	0.4																								
小計					4.3																								

添付資料 4 本邦研修および第三国研修参加者リスト

(1) 本邦研修

	氏名	所属機関	研修テーマ	期間	場所
1	Dr. Iván Arciénega	SFX大学 農学部教官	個別研修 (Fitogenetica Ventas Directas)	2009.12.03 - 2009.12.16	筑波
2	Ing. Rosario Osorio	SFX大学 農学部教官	地域別研修「中南米 生活改善を通じた農村開発」	2010.01.15 - 2010.02.01	筑波、長野、東京
3	Lic. Luisa Orellana Salas	SFX大学 看護学科ディレクター			

(2) 第三国研修

	氏名	所属機関	研修テーマ	期間	場所
1	Ing. Ramiro Villalpando	SFX大学 農学部教官	エクアドル技術交換研修	2011.02.18 - 2011.02.27	エクアドル
2	Ing. Arnulfo Borges	SFX大学 農学部教官			
3	Ing. Guido Callejas	Zudañez村役場 計画担当			
4	Ing. Marcelino Meriles	Sucre市役所 技術者			

添付資料 5 供与機材リスト

(1) 2009年6月～2010年3月

Nota: 1US\$=7.07 Bs

N°	機材名	メーカー名、型番	数量	価格 (Bs.)	使用場所	保管場所	調達地	使用目的
1	オートバイ	YAMAHA, AG200F, 200 cc	5	134,542	農村部	市村	ボリビア	市村普及員用
2	車輛	TOYOTA Land Cruiser, 4 WD	3	689,325	農村部	事務所	ボリビア	資材運搬用
	小計 1			823,867				
3	パソコン	COMPAC 610、ノート型	9	62,910	農村部	技術者	ボリビア	資料作成
4	印刷機	Canon PIXMA IP1900	10	2,836	農村部	技術者	ボリビア	資料作成
5	デジタルカメラ	Sony Cyber Shot W180	16	24,103	農村部	技術者	ボリビア	活動記録
6	通信用無線機	Vertex VX-1700, FT 840	11	129,800	農村部	集落	ボリビア	集落との通信
7	発電機	HONDA EB-2200	6	27,000	農村部	事務所	ボリビア	農民研修
8	プロジェクター	EPSON Power Lite S6	3	13,140	農村部	事務所	ボリビア	農民研修
9	映写スクリーン	Combiflex 2m x 2m	3	8,250	農村部	事務所	ボリビア	農民研修
10	獣医機材セット	携帯型	3	22,875	農村部	事務所	ボリビア	家畜疾病予防研修
11	ビデオカメラ	Sony HDD, DCR-SR47	3	10,563	農村部	事務所	ボリビア	活動記録
12	パソコン	デスクトップ, SURE DG31PR	3	15,633	農村部	事務所	ボリビア	資料作成
13	電圧安定器	UPS (750 W), Forza 750-VA	6	3,774	農村部	事務所	ボリビア	パソコン保護
14	モーターポンプ	5 HP, Briggs 5HP	1	3,800	農村部	圃場	ボリビア	展示圃場 (Barranca)
15	水中ポンプ	NOCCHI VLR16	1	20,059	農村部	圃場	ボリビア	展示圃場 (Yotola)
16	デジタル秤	4 kg, OHAUS Scout	1	4,857	農村部	圃場	ボリビア	展示圃場 (Barranca)
17	アナログ秤	300 kg	1	2,192	農村部	圃場	ボリビア	展示圃場 (Yotola)
18	冷蔵庫	Electrolux	1	2,500	農村部	圃場	ボリビア	展示圃場 (Barranca)
	小計 2			354,292				
19	パソコン	デスクトップ, SURE	1	5,944.00	事務所	事務所	ボリビア	資料作成
20	パソコン	ノート型, COMPAC 610	4	27,960.00	事務所	事務所	ボリビア	資料作成
21	印刷機	白黒, HP LASER 2035N(BN)	3	6,900.00	事務所	事務所	ボリビア	資料作成
22	印刷機	カラー, HP LASER 2025N	2	7,156.00	事務所	事務所	ボリビア	資料作成
23	プロジェクター	INFOCUS 2102EP	1	5,410.00	事務所	事務所	ボリビア	技術者研修
24	GPS	GARMIN 76CSX	4	14,312.00	事務所	事務所	ボリビア	用水計画等作成
25	SIG プロッター	HP 1m, HP Designjet 510	1	33,650.00	事務所	事務所	ボリビア	用水計画等作成
26	測量器具	SOKKIA 630RK	1	56,560.00	事務所	事務所	ボリビア	地形測量等
27	電圧安定器	UPS (750 W), Forza 750-VA	4	2,516.00	事務所	事務所	ボリビア	パソコン保護
28	電圧安定器	UPS (1500 W), ATOMLUX BS-1700	2	6,646.00	事務所	事務所	ボリビア	パソコン保護
29	PCモニター	Extermo, WD My Passport 500	8	9,933.00	事務所	事務所	ボリビア	パソコン用
30	外付けHDD		5	4,590.00	事務所	事務所	ボリビア	パソコン用
	小計 3			181,577				
	計 (1+2+3)			1,359,736				

(2) 2010年4月～2011年3月

Nota: 1US\$=7.00 Bs

N°	機材名	メーカー名、型番	数量	価格 (Bs.)	使用場所	保管場所	調達地	使用目的
31	マイクロボス	TOYOTA Coaster 25PSJ	1	289,500	農村部	事務所	ボリビア	技術者及び農民の研修
	小計 4			289,500				
	総計 (1+2+3+4)			1,629,236				

添付資料 6 日本側負担現地経費

(Unitad: Bs.)

投入要素	費用項目	項目	1年次(H21) 2009.5-2010.3	2年次(H22) 2010.4-2011.3	3年次(H23) 2011.4-2011.7	支出累計(Bs.)	
在外事業強化費	一般業務費	機材保守管理費	21,365.00	5,485.00	1,409.00		
		通信運搬費	26,987.87	25,756.90	3,755.00		
		ガソリン代等	101,274.00	199,924.60	21,121.00		
		消耗品	29,353.43	35,735.40	8,409.00		
		資料等作成製本費	8,533.15	56,100.26	5,347.00		
		借料・損料	6,944.00	11,056.50	260.00		
		光熱水費	0.00	0.00	0.00		
		資機材購入費(20万円以下)	465,262.65	346,902.27	40,567.00		
		その他雑費	1,809.40	903.49	557.00		
		航空賃		2,324.00	41,101.12	2,047.00	
		旅費(航空賃以外)		27,814.50	71,598.70	17,419.50	
		業務契約(0-カコガツタ外契約)		35,000.00	24,500.00	10,500.00	
		研修実施経費		100,577.00	125,670.66	-	
	謝金報酬(スタッフ)		0.00	16,580.00	20,220.00		
	謝金報酬(スタッフ以外)		95,899.50	238,011.25	51,889.00		
	会議費		1,550.00	424.50	179.00		
			小計	924,694.50	1,199,750.65	183,679.50	2,308,124.65
	供与機材	供与機材購入費	機械・機器	536,149.60	0.00	0.00	
		供与機材輸送費	機材・機器の運搬経費	0.00	0.00	0.00	
			小計	536,149.60	0.00	0.00	536,149.60
JICAポリピア事務所購入機材	機材購入費	機械・機器	0.00	0.00	0.00		
	機材輸送費等	機材・機器の運搬経費	0.00	0.00	0.00		
		小計	0.00	0.00	0.00	0.00	
		計	1,460,844.10	1,199,750.65	183,679.50	2,844,274.25	







添付資料 8 ポリビア側負担経費

(1) チュエキサカ県庁

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
経費	臨時雇用	510,225.01	410,296.00	450,929.00	1,371,450.01
	自然資源保護プロジェクトリーダーネータ普及員		227,442.00	64,259.00	291,701.00
	人的以外のサービス	16,590.50	182,854.00	386,670.00	569,524.00
	基礎サービス		25,067.00	57,648.00	99,305.50
	交通費・保険費		0.00	300.00	300.00
	メンテナンス・修理		11,721.00	30,344.00	42,065.00
	専門サービス・宣伝費		4,104.00	19,504.00	23,608.00
	S材料及び支給品	313,651.74	9,241.00	7,500.00	16,741.00
	食費とアグロフォレストリー生産		315,666.00	235,765.00	865,082.74
	紙、ダンボール及び印刷		130,498.00	72,000.00	202,498.00
	燃料、化学製品、薬品、その他		1,117.00	6,000.00	7,117.00
	その他の生産品		155,250.00	148,961.00	304,211.00
	現有資産		28,801.00	8,804.00	37,605.00
		1,400.00		1,400.00	
計		841,867.25	751,029.00	744,342.00	1,495,371.00

(注)

添付資料 8 ポリピア側負担経費

(2) SFX大学

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
経費	人的サービス	1,066,653.00	565,500.00	592,207.20	2,224,360.20
	カウンターパート教員	1,002,862.00	494,000.00	525,907.20	2,022,769.20
	秘書	45,071.00	48,100.00	44,980.00	138,151.00
	運転手	18,720.00	23,400.00	21,320.00	63,440.00
	人的以外のサービス	113,742.00	6,919.25	148,131.00	268,792.25
	教員 (日当宿泊費)			15,840.00	15,840.00
	運転手 (日当宿泊費)		4,107.00	10,080.00	14,187.00
	事務用品	12,126.00		10,068.00	22,194.00
	車両メンテナンス	89,520.00	645.00	78,425.00	168,590.00
	基礎的サービス (ローカル電話)		2,167.25	1,800.00	3,967.25
	基礎的サービス (国内長距離電話)			6,000.00	6,000.00
	車両保険サービス			25,918.00	25,918.00
	その他の人的外サービス	12,096.00			12,096.00
	投入	材料及び支給品	179,520.00	14,471.40	134,640.00
燃料、オイル、試薬		179,520.00	6,625.40	134,640.00	320,785.40
車両部品、アクセサリー			7,696.00		7,696.00
車検税			150.00		150.00
計		1,359,915.00	586,890.65	874,978.20	2,821,783.85

(注)

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(3) SUCRE市役所

	Descripción	Monto (Bs)		Presupuesto 2011	Total	
		Ejecutado 2009	Ejecutado 2010			
経費	人的サービス	21,833.33	6,500.00	75,000.00	103,333.33	
	カウンタート・テクニコ	21,833.00	6,500.00		28,333.00	
	材料及び支給品	156,862.00	93,790.00	75,000.00	325,652.00	
投入	農業、牧畜、林業生産品	107,724.00			107,724.00	
	製糸、布	4,280.00			4,280.00	
	衣類	3,600.00			3,600.00	
	化学製品、薬品	6,570.00			6,570.00	
	メタル・プラスチック外の地下資源製品	18,565.00			18,565.00	
	メタル製品	4,812.00			4,812.00	
	小器具	11,311.00			11,311.00	
	現有資産	3,390.00			3,390.00	
	オフィスと家具	3,390.00			3,390.00	
	計		182,085.33	100,290.00	150,000.00	432,375.33
	注)					

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(4) YAMPARAEZ村役場

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
経費	人的サービス				
	カウンターパート・テクニコ	32,141.25	23,979.44	30,674.00	86,794.69
	人的以外のサービス				
	通信費	132.00			132.00
	機械メンテナンスと修理	165.00	958.00	1,549.00	2,672.00
	その他	70.00			70.00
	材料費及び支給品				
	食費及びその他	394.00			394.00
	衣類	1,060.00			1,060.00
	燃料費、オイル、関連製品	971.00	562.60	1,500.00	3,033.60
	タイヤ	80.00			80.00
	事務・オフィス機器	638.00			638.00
	その他の部品、アクセサリー	45.00		1,277.00	1,322.00
	投入	研修外プロジェクト調査研究費			
カタナ小規模灌漑最終設計コンサルタント			8,000.00		8,000.00
材料及び支給品					
農業、牧畜、林業生産品		11,920.00			11,920.00
化学製品、薬品		732.00			732.00
メタル外地下資源製品		8,257.00			8,257.00
メタル製品		2,764.00			2,764.00
小器具		11,202.00	486.87		11,688.87
その他の材料。アクセサリー		3,980.00	502.00	3,401.00	7,883.00
計		74,551.25	34,488.91	38,401.00	147,441.16

(注)

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(5) YOTALA村役場

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計	備考
		2009年実績	2010年実績			
経費	人的サービス		21,233.90	26,646.42	47,880.32	
	人的以外のサービス		1,140.30	3,669.18	4,809.48	
	常駐 (成果品によるコンサルタント)	19,981.40			19,981.40	*コンサルタント契約2009年1月20日～2010年12月31日
	パートタイム (労働)	0.00			0.00	
	内国出張費	1,050.00			1,050.00	*植林のためのユーカーリと松の苗の購入
	材料及び支給品		37,983.07	44,684.40	82,667.47	
	病院食事	1,423.17			1,423.17	
	燃料及びオイル	428.30			428.30	
	農業、牧畜、林業生産品	8,610.00	15,514.07	42,000.00	66,124.07	
	メタル外地下資源製品		15,138.00		15,138.00	
その他のメタル及び支給品		5,491.00	2,684.40	8,175.40		
材料及び支給品			7,000.00	7,000.00		
投入	小器具	6,248.00	1,840.00		8,088.00	*シャベル、ピッケル、一輪車
	物品					
	オフィス、家具	2,000.00			2,000.00	
計		39,740.87	60,357.27	82,000.00	142,357.27	

(注)

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(6) POROMA村役場

	内訳	金額(Bs)		2011年予算	計	備考
		2009年実績	2010年実績			
経費	人的サービス		25,351.32	12,000.00	37,351.32	
	人的以外のサービス					
	常駐 (成果品によるコンサルタント)	19,200.00			19,200.00	ニコ1名Un técnico contraparte del municipio
	材料及び支給品			10,500.00	10,500.00	
	小器具	3,990.00			3,990.00	
	農業、牧畜、林業生産品		1,750.00		1,750.00	
	車両メンテナンス			3,500.00	3,500.00	
	メタル製品			7,000.00	7,000.00	
	ミニプロジェクト			9,425.00	9,425.00	
	村落					
投入	ポロマ	3,354.00			3,354.00	
	チルススタ-チウムリ	3,354.00			3,354.00	
	パラヒラ	5,195.00			5,195.00	
	カリサヤ	5,000.00			5,000.00	
	計	40,093.00	27,101.32	31,925.00	99,119.32	

(注)

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(7) ZUDANES村役場

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
経費	カウンターパート (常駐)	28,800.00	34,000.00	68,000.00	130,800.00
	カウンターパート (パートタイム)	12,000.00			12,000.00
	材料及び支給品				0.00
	燃料及びオイル	3,500.00	5,000.00	7,000.00	15,500.00
	バイクメンテナンス及び修理				0.00
投入		27,000.00	25,000.00	30,000.00	82,000.00
計		71,300.00	64,000.00	105,000.00	240,300.00

(注)

添付資料 8 ポリビア側負担経費

(8) MOJOCOYA村役場

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
常駐カウンターパート	常駐	27,300.00	50,000.00	50,000.00	127,300.00
経費		3,000.00			3,000.00
投入		25,000.00	48,000.00	48,000.00	121,000.00
計		55,300.00	98,000.00	98,000.00	251,300.00

注)



添付資料 8 ポリビア側負担経費

(9) PRESTO村役場

	内訳	金額(Bs)		2011年予算	計	
		2009年実績	2010年実績			
常駐カウンターパート	常駐	33,600.00	27,527.61	27,527.61	88,655.22	
	パートタイム	6,000.00			6,000.00	
	経費	3,500.00			3,500.00	
経費	人的以外のサービス					
	バイクメンテナンス及び修理		1,675.00	1,675.00	3,350.00	
	材料及び支給品					
	燃料及びオイル		374.00	374.00	748.00	
	メタリック製品		1,100.00	1,100.00	2,200.00	
	村落					
	プレスト・ポルベニル		75,000.00		75,000.00	
	ミッション・パンパ		40,000.00		40,000.00	
	ブカ・パンパ		15,000.00		15,000.00	
	パンパヤ		5,000.00		5,000.00	
投入	材料及び支給品					
	メタル外地下資源製品		34,421.58	34,421.58	68,843.16	
	小器具		19,980.00	19,980.00	39,960.00	
	その他		45,100.00	45,100.00	90,200.00	
	その他機器		5,500.00	5,500.00	11,000.00	
計		178,100.00	135,678.19	135,678.19	449,456.38	

(注)

添付資料 8 ボリビア側負担経費

(10) ICLA村役場

	内訳	金額 (Bs)		2011年予算	計
		2009年実績	2010年実績		
常駐カウンターパート	常駐	28,800.00	24,008.50	24,000.00	76,808.50
経費	村落	4,000.00	0.00	4,000.00	8,000.00
投入	ギタラニ	15,500.00	0.00	15,750.00	31,250.00
	チュンカ・カンチャ	15,500.00	0.00	15,750.00	31,250.00
	コリヤ・パンパ	15,500.00	0.00	15,750.00	31,250.00
	モリエ・マユ	15,500.00	0.00	15,750.00	31,250.00
<b>Total</b>		<b>94,800.00</b>	<b>24,008.50</b>	<b>91,000.00</b>	<b>209,808.50</b>
Nota:					

添付書類9 技術者向け研修プログラム

基礎コース	テーマ	テキスト	日数	日*												場所/形態	ファシリテーター
				B	9	10	11	12	1	2	3	4	5				
プロジェクトファイロソフィ		-	1	12													伊ハシ・アルシエネが講師
プロジェクト及びコンポーネント組織図		-	1	2													四野島専門家
戦略分野の特定		-	1	2													伊ハシ・アルシエネが講師
プロジェクトサイクルマネジメントの導入		ビデオ	1	2													アルナルフォ・ホルヘス講師
ミニプロジェクトの導入		-	1	2													アルナルフォ・ホルヘス講師
持続的開発の導入		-	1	2													水上専門家
日本の経験		ビデオ	1	2													合田専門家
プロジェクトにおけるテクノロジの活用		-	2	13													マルセリノ・メリレス講師
報告書、写真の作成		-	1	13													レオポルド・ディアス講師
自然資源保護と回復		-	1	13													レオポルド・ディアス講師
苗木生産、植林苗管理		5	2	23	24												フェルナンド・フロレス技術者/ハビエル・エスバダ講師
最初の雨の後の流域にフォーカスした自然資源保全(衛生整備、テラス工法、土壌保全用石積)		4	2			16											ミゲル・ダハロス技術者、アルナルフォ・ホルヘス講師、フェルナンド・フロレス技術者、マルセリノ・メリレス技術者
持続的農村開発、農村コミュニティの現状		1,2	1			7											R・アランシビア技術者、アルナルフォ・ホルヘス講師、大上等専門家、四野島専門家
小規模灌漑システム(水システム)		-	2			6	7										多数(PROAGRO, BEISA 3)
水システム事業		-	2														レネ・キロリ講師
システム管理 (GIS, GPS, Est.Total) (GIS, GPS, Est. total)		-	2														ハミル・レンス技術者
コミュニティ、組織化、技術管理事業		-	2														ハミル・レンス技術者
プロジェクトサイクル、適用手法		3	1														講義、ヨタラ
外部資金事業1: 草の根事業		8	1														大佐館・栗原氏
外部資金事業2		8	1														ロサリオ・オソリオ技術者、ラミロ・ピリヤルバンド技術者
全練ファシリテーター、専門職の役割、農業普及戦略、参加型ツールと技術		3	2														PROAGRO
種間関係と関係(多文化)		6	1														合田専門家、フリエタ・ペレス
シエンダー・バラン		1	1														
社会開発		5	2			14	15										
農村開発手法		2	2			14	15										
収入源の創出		1	1			14	15										
技術教育、保種活動		1	1														
農業開発		1	1														
土壌肥力向上		5	2														
作物ローテーション		5	2			15	27										テカニコ、ソーン責任者
緑肥		5	2			15	27										テカニコ、ソーン責任者
肥料組み合わせ		5	2			15	27										テカニコ、ソーン責任者
麦からの利用		5	2			15	27										テカニコ、ソーン責任者
ミニマム農法		5	2			15	27										モイセス・カルデロン技術者
農業生産システム		7	2														
有機生産		7	1														Agrecol Andes/浅野氏
保護作物による保護		7	2														リンベル・カストロ講師
生物防虫剤の作成		7	2														リンベル・カストロ講師
家庭菜園		7	2														モイセス・カルデロン技術者
野菜		7	2														モイセス・カルデロン技術者
収穫後技術		2	2														サイロプロジェクト専門家
貯蔵用新作物の導入		2	2														
種子の向上		2	2														
農業生産の加工		2	2														
畜産の基礎、家畜衛生		6	2														
養蜂		6	2														
畜産的牛乳生産		6	2														
商品化とマーケティング		9	2														

月\*: ワークショップ実施強化のみ

添付書類10 技術者向け研修の実施実績要約

N°	日付	活動	ファシリテーター	時間	技術者数	学生、実習生
1	7-Dec-09	コンピュータとカメラ操作	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	4	12	
2	10-Dec-09	啓発ワークショップ	エドウィン・アルテアガ技師／エリサベス・パロツ技師	11	23	1
	11-Dec-09			11	19	1
3	22-Feb-10	森林管理計画のための地理情報システム：地理情報システムの導入とアグロフォレストリーにおける応用	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	11	10	
4	26-Mar-10	森林管理計画のための地理情報システム	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	5	4	
5	5-Jul-10	GPS操作 (2グループ)	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	5	7	
6	12-Aug-10	テクニコ業務開始の集中講義	ファシリテーター多数 (6のワークショップ)	11	9	5
	13-Aug-10			11	7	
7	13-Sep-10	戦略分野の特定	イバン・アルシエネガ・コリヤンス技師	9	20	
8	20-Sep-10	カンピオ・ルラル情報システム	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	3	7	
9	23-24 sep 10	苗床と植林管理	ハビエル・エスパダ・カバジェロ技師／アントニロ・マラス・コンドリ技師	21	18	
10	6-Dec-10	灌漑システム設計	レネ・キロガ技師	8	11	1
	7-Dec-10			11	14	1
11	7-Feb-11	地理情報システム1	ハミル・セルヒオ・レンス・サロモン技師	5	13	1
12	14-Mar-11	持続的農村開発とコミュニティの現状	イバン・アルシエネガ・コリヤンス技師／アルヌルフオ・ボルヘス・ワンカ技師	5	14	23
13	15-16 mar 11	人材育成イベントにおけるファシリテーターのための能力強化	PROINPAの技師	16	14	6
14	27-Apr-11	農業開発	オスカル・ライメ技師	12	7	
15	6-May-11	コミュニティにおける雇用創出	CIOEC/チケサカ北部市連合	3	9	
			計	161	218	39

添付書類11 農民リーダー向け研修プログラム

日数	テーマ	テキスト	ガイド	時間数	参加者数	場所／形態
<b>1日目：自然資源の劣化</b>						
14:00 - 15:30	自然資源	1	2	1.5	全員	視聴覚教材を用いた講義
15:30 - 17:00	土壌浸食と水の枯渇	2	3	1.5	全員	視聴覚教材を用いた講義
<b>2日目：自然資源の劣化管理技術と対処法</b>						
09:00 - 11:00	A手法の地ならしの保全と管理	3	4	2	リーダー	展示園場での講義
11:00 - 13:00	石と土による防御壁建設	4	4	2	リーダー	展示園場での講義
14:00 - 15:30	浸食溝の管理	5	4	1.5	リーダー	展示園場での講義
15:30 - 17:00	浸透側溝建設	-	4	1.5	リーダー	展示園場での講義
<b>3日目：自然資源の劣化管理技術と対処法</b>						
09:00 - 11:00	個別テラスTerrazas individuales	-	4	2	リーダー	展示園場での講義
11:00 - 13:00	定着作物用の狭いテラス	-	4	2	リーダー	展示園場での講義
14:00 - 15:30	冠状側溝と排水	6	4	1.5	リーダー	展示園場での講義
15:30 - 17:00	植林用苗床	-	4	1.5	リーダー	園場での講義
<b>4日目：コミュニケーションと組織化</b>						
09:00 - 10:00	コミュニティプロジェクト策定	-	12	1	リーダー	講義
10:00 - 12:00	コミュニティリーダーの役割/ジェンダーバランス	-	-	2	リーダー	講義
13:00 - 17:00	コミュニティ強化（リーダー）	-	1	4	リーダー	講義
<b>5日目：管理技術/社会開発</b>						
09:00 - 10:00	職能研修		10	1	リーダー	講義
10:00 - 12:00	プロジェクトの申請手続き	-	-	2	リーダー	講義
14:00 - 17:00	灌漑システム事業			3	リーダー	実地での講義
Otro día	コミュニティ保健と教育		11	2	全員	講義
<b>6日目：農牧業開発/土壌肥沃度の向上</b>						
09:00 - 11:00	作物ローテーション		5	2	リーダー	展示園場での講義
11:00 - 13:00	緑肥		5	2	リーダー	展示園場での講義
14:00 - 15:30	栽培組み合わせ		5	1.5	リーダー	展示園場での講義
15:30 - 17:00	麦わらの利用		5	1.5	リーダー	展示園場での講義
depende de luga	ミミズ養殖		5	2	リーダー	展示園場での講義
<b>7日目：農牧業開発/農牧生産システム</b>						
09:00 - 11:00	有機生産		7	2	リーダー	展示園場での講義
11:00 - 13:00	被覆作物による保護		7	2	リーダー	展示園場での講義
14:00 - 15:30	生物殺虫剤の作成		7	1.5	リーダー	展示園場での講義
15:30 - 17:00	家庭菜園		7	1.5	リーダー	展示園場での講義
<b>8日目：農牧業開発/農牧生産システム</b>						
09:00 - 11:00	葉草		7	2	リーダー	講義、実施
11:00 - 13:00	収穫後管理			2	リーダー	展示園場での講義
14:00 - 17:00	種子の向上			3	リーダー	展示園場での講義
<b>9日目：評価と計画</b>						
09:00 - 12:00	ワークショップのレビューと評価			3	リーダー	講義、実施
13:00 - 17:00	コミュニティ向上のための活動計画			4	リーダー	講義、実施
<b>10日目：農牧生産品の転換</b>						
場所による	基礎的畜産/家畜衛生	2 (fase2)	6	2		講義、実施
場所による	衛生的牛乳生産	2 (fase2)	6	2		講義、実施
場所による	商品化とマーケット		6	2		講義、実施
場所による	収入源の創出	7	6	2		講義、実施
場所による	販売用新作物の導入		9	2		講義、実施

添付書類12 農民向け研修実施実績要約

	分野／年Área/ Año	開催数			計
		2009	2010	2011	
1	プロジェクト概念共有	10			10
2	植林	32	2	1	35
3	土壌保全	21	5	4	30
4	農業	13	7	1	21
5	コミュニティ強化	2			2
6	畜産	6	4	4	14
7	啓発	18	6		24
8	果樹	6		1	7
9	野菜栽培	2	1		3
10	経験交流	1	2		3
11	計画	6			6
12	灌漑	1			1
13	加工	1	1	2	4
14	職能			1	1
15	財源事業（クレジット）			1	1
	計画	119	28	15	162

添付書類13 農民向け研修実施実績

(1) 2009年農民研修活動実績

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
1	2009年1月5日～10日	タラコ	ブカ・ブカ・スリマ	森林計画研修ワークショップ	植林	リサンドロ・デュラン技術師			
2	2009年1月6日	スダニエス	マユ・トルココ	土壌・水保全研修ワークショップ(Aレベルを用いた地ならし、土壌保全実践)	保全	県技術者の支援による土壌・水保全 梅並者による水保研修			
3	2009年1月7日	ヨタラ	ウニヤラ	プロジェクト及びグループ組織の共有化	意識付け	オスカル・ライム技術師(技術支援)			
4	2009年1月10日	スクレ	モリエ・モリエ	コミュニティ森林グループ研修、苗採実践	植林	県技術者			
5	2009年1月12日	スクレ	マラコリ、スンチュ・パンバ	コミュニティ森林グループ研修、苗採実践	植林	県技術者			
6	2009年1月15日	ポロマ	ポロマ	土壌・水保全作業	保全	ダビ・エチエベリ技術者	45	30	15
7	2009年1月20日	ヨタラ	モリエ・モリエ	土壌・水保全研修ワークショップ(Aレベルを用いた地ならし、土壌保全実践)	保全	オスカル・ライム技術師(技術支援)			
8		プレスト	ブカ・パンバ	資源保全とマネージメントの意識付け(土壌、水、緑化)	意識付け	県技術者	27		
9	2009年1月22日	プレスト	ミッジョン・パンバ	キビキビとの経験交流(テコヤ・パツハ)・ミッジョン・パンバ	経験交流	県技術者	14		
10	2009年1月30日	スダニエス	バタ・トルココ	プロジェクトの意識付けとプレゼンテーション	共有化	県技術者とコーディネータ支援	40		
11	2009年2月5日	ポロマ	チルチスタ	プロジェクトフェーズ2の意識付け	共有化	県技術者	25	13	12
12	2009年2月15日	ポロマ	ポロマ	プロジェクトフェーズ2の意識付け	共有化	ダビ・エチエベリ技術者	38	29	9
13	2009年2月25日	モホコヤ	トコロ	植林実践研修	果樹	県技術者			コミュニティ
14	2009年3月6日	スクレ	トウンペガ	乳製品加工コース：牛乳とヨーグルト生産	加工	エルネスト・アルシエネガ(大学)		6	8
15	2009年5月12日	ヨタラ	パラマナ	共有化	共有化	県技術者及びプロジェクト技術者支援	40	29	11
16	2009年6月7日	ヨタラ	アンファヤ・デル・ベラル	共有化	共有化	県技術者及びプロジェクト技術者支援	19	14	5
17	2009年6月12日	ヨタラ	モリエ・モリエ	野菜生産と野菜苗採研修ワークショップ	野菜生産	フランクリン・コカ技術師	12		
18	2009年6月19日	ヨタラ	モリエ・モリエ	家畜管理と家畜衛生研修ワークショップ	畜産	ラミロ・フロレス獣医師			
19	2009年6月19日	ポロマ	カリサヤ	コミュニティ組織への種子のテーマに関する研修	農業	県技術者			
20	2009年6月22日	ポロマ	パラフラ	コミュニティ組織への種子のテーマに関する研修	農業	県技術者			
21	2009年6月23日	モホコヤ	ラマダス	プロジェクトプレゼンテーションと共有化	共有化	県技術者、当局関係者	コミュニティ		
22	2009年6月5,10,11,28日	スダニエス	マユ・トルココ、バタ・トルココ、ピルクアマコ	自然資源についての意識付けと研修	意識付け	県技術者	6		
23	2009年6月17,18,22,23日	モホコヤ	ルミカンチャ、チケリリヨス、トコロ	自然資源についての意識付けと研修	意識付け	県技術者	6		
24	2009年6月24,25,29,30日	モホコヤ	ルミカンチャ、チケリリヨス、トコロ	ジャガイモの害虫(蛾)コントロール研修ワークショップ	農業	県技術者	120		
25	2009年6月24,25,29,30日	スダニエス	バタ・トルココ	ジャガイモの害虫(蛾)コントロール研修ワークショップ	農業	県技術者	40		
26	2009年6月30日	プレスト	パソバヤ	有機肥料の作成理論と実践研修とAレベルを用いたコンポスト用地建設	農業	県技術者			

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
27	2009年7月15日	スダニエス	パタ・トルココ	レベルAを用いた建設と調査研修ワークショップ	保全	県技術者	30		
28	2009年7月16,17日	イクラ	モリエ・マユ、コルバ・パンバ、チュンカ・カンチャ、ギタラ	家畜衛生研修	畜産	県技術者、市技術者及びSENASAGの支援			
29	2009年7月17日	ヤンバラエス	カタナ	Aレベル及び土壌保全工事を用いた土壌・水保全ワークショップ	保全				
30	2009年7月22日	ボロマ	バラフラ	植林研修	植林	県技術者及び市技術者支援			コミュニティ
31	2009年7月22日	プレスト	パンバヤ	レベルAの建設とその応用についての地域保全リーダーへの研修ワークショップ	保全	県技術者			
32	2009年7月27日	スダニエス	ピルウアマユ	研修と意識付けワークショップ	共有化	県自然資源、環境責任技術者の支援	30		
33	2009年7月27日	ボロマ	カリサヤ	植林研修	植林	県技術者及び市技術者支援			コミュニティ
34	2009年7月28日	スダニエス	マユ・トルココ	果樹予定研修ワークショップ	果樹	市技術者との調整での活動実施	10		
35	2009年7月28日	プレスト	プカパンバ	地域苗床の理論と実践研修ワークショップ	植林	県技術者			
36	2009年7月31日	ヨタラ	チャミナ	家畜管理と家畜衛生研修ワークショップ	畜産	ラミロ・フロレス獣医師	18		
37	2009年7月31日	ヤンバラエス	カタナ	果樹の予定と苗木研修ワークショップ	果樹				
38	2009年8月7,8日	ヨタラ	アンフアヤ・デル・ベラル	家畜管理と家畜衛生研修ワークショップ	畜産	ラミロ・フロレス獣医師	18		
39	2009年8月9日	プレスト	プレスト・ボルベニル	苗木生産と圃場の研修	植林	県技術者			3
40	2009年8月14~18日	スダニエス	マユ・トルココ、パタ・トルココ	自然資源と環境に関する意識付けと研修	意識付け	県技術者	8		
41	2009年8月14~18日	モホコヤ	ルミカンチャ、トコロ	自然資源と環境に関する意識付けと研修	意識付け	県技術者	4から5		
42	2009年8月15日	スダニエス	サウセス	果樹の予定研修ワークショップ	果樹	県技術者	5		
43	2009年8月16日	ヨタラ	バラマナ	自然資源に関する意識付けと研修	意識付け	県技術者及び市技術者支援	34		
44	2009年8月17日	スダニエス	ピルウアマユ	第2回自研修と意識付けワークショップ	共有化	県技術者	30		
45	2009年8月17日	ヨタラ	アンフアヤ・デル・ベラル	害虫防除研修	畜産	県技術者及び市技術者支援			
46	2009年8月18日	プレスト	プレスト・ボルベニル	土壌保全と家畜菜園のためのテラスの理論と建設ワークショップ	保全	県技術者			
47	2009年8月19日	スダニエス	市苗床	無性リンゴの増殖	果樹	責任技術者及び活動しているコミュニティとの調整で実施された活動			
48	2009年8月19,20,21日	ボロマ	バラフラ	コミュニティ苗床の建設と植林研修	植林	ソーンの責任者、研修チーム、JICA、市技術者の支援			60
49	2009年8月20日	スダニエス		コミュニティ果樹の研修ワークショップ(制定と果樹管理)	果樹	大学教員及び市技術者の調整によるワークショップ	30		
50	2009年8月20日	プレスト	パンバヤ	種子選別と土壌水保全工事のフォローアップ研修ワークショップ	農業				
51	2009年8月21日	ヨタラ	アンフアヤ・デル・ベラル	自然資源に関する意識付けワークショップ	意識付け	県、市技術者			15家族



№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
52	2009年8月21日	プレスト	パソバヤ	種子選別と土壌水保全工事のフォローアップ研修ワークショップ	保全	県技術者	8 家族		
53	2009年8月22日	ポロマ	カリサヤ	コミュニティ苗床建設と植林研修	植林	市技術者の支援			
54	2009年8月22日	プレスト	パソバヤ	植林研修(苗床と播種)	植林	県技術者		3	
55	2009年8月22日	ヤンバラエス	モリエ・ブンク	レベルAの使用研修と土壌水保全工事建設実践	保全	県、市技術者			
56	2009年8月24日	スクレ	スンチュ・パソバ、モリエ・モリエ、トゥンベカ	苗床従事者グループ研修(苗木用袋、ユーカリの増殖、ユーカリの苗床)	植林	県技術者			
57	2009年8月27日	プレスト	プレスト・ポルベニル	土壌保全と家族菜園のためのテラスの理論と建設ワークショップ	保全	県技術者			
58	2009年8月27日	ポロマ	ポロマ	プロジェクトの意識付けと共有化ワークショップ	共有化	中校となる局長及び市技術者の支援	中学校教師		
59	2009年8月28日	ポロマ	ポロマ	コミュニティ苗床建設と植林研修	植林	市技術者の支援			
60	2009年8月29日	スクレ	マウアシ、マラコリ、スンチュパソバ	苗床従事者グループ研修(苗木用袋、ユーカリの増殖、ユーカリの苗床)	植林	県技術者			
61	2009年9月3日	ポロマ	カリサヤ	植林研修	植林	ワークショップは実習生、プロジェクト調整員、JICAのロジ支援により実施された		102	
62	2009年9月4日	イクラ	モリエ・マユ	コミュニティ苗床の空詰め土の研修	植林	県技術者		1	
63	2009年9月4日	スダニエス	苗床	植林、果樹苗木生産技術支援(薄し木)	植林	県技術者			
64	2009年9月5日	ポロマ	ポロマ	植林研修	植林	市技術者支援		70	
65	2009年9月6日	ヨタラ	バラマナ	自然資源の意識付けワークショップ	意識付け	県技術者		5 家族	
66	2009年9月8日	スダニエス	マユ・トルココ	苗木用空詰め土の運用についての研修	植林	県技術者		10 苗床従事者	
67	2009年9月8日	ヨタラ	バラマナ	第2回計画ワークショップ	計画	プロジェクト技術者(県・市)		35 家族	
68	2009年9月8、9日	ヨタラ	アンフアヤ・テル・ベラル	家畜管理と家畜衛生研修ワークショップ	畜産	ラミロ・フロレス獣医師		18 家族	
69	2009年9月9日	ヨタラ	バラマナ	第1回夢見型計画ワークショップ	計画	プロジェクト技術者(県・市)		35 家族	
70	2009年9月9日	プレスト	プレスト・ポルベニル	苗木生産と播種の研修	植林	県技術者参加		3 苗床従事者	
71	2009年9月10日	スダニエス	ビルウアマユ	PPGコミュニティ参加型計画ワークショップ第1部	計画	農学部学生の技術支援			
72	2009年9月10、11、12日	イクラ	チュンカ・カンチャ	土壌・水保全工事ワークショップ	保全				コミュニティ
73	2009年9月11日	スクレ	モリエ・ブンク	Aレベルの使用法と土壌水保全実践の研修ワークショップ	保全	県、市技術者			8リーダー
74	2009年9月14日	スクレ	マラコリ	災害被災地の土壌回復研修。保全と最適な生産のための作物ローテーション	保全	県、市技術者			

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
75	2009年9月14日	ヨタラ	アンファヤ・デル・ベラル	第1回参加型計画ワークショップ	計画	県技術者		25 家族	
76	2009年9月15日	イクラ	ギタラニ	生徒、教師、父兄への自然資源ワークショップ	意識付け	県技術者		生徒65、教師4、父兄45	
77	2009年9月15日	ポロマ	ポロマ	苗床建設と導入	植林	フランクリン・コカ技師	41	26	15
78	2009年9月15日	ヨタラ	モリエ・モリエ	自然資源についての意識付けワークショップ	意識付け	県技術者		4 家族	
79	2009年9月16日	ヨタラ	パラマナ	自然資源についての意識付けワークショップ	意識付け	プロジェクト技術者(県・市)		35 家族	
80	2009年9月16日	イクラ	チュンカ・カンチャ	生徒、教師、父兄への自然資源ワークショップ	意識付け	県技術者		生徒120、教師7、父兄90	
81	2009年9月16,17日	イクラ	コルバ・バンバ、モリエ・マユ	土壌・水保全ワークショップ	保全			コミュニティ	
82	2009年9月17日	イクラ	モリエ・マユ	生徒、教師、父兄への自然資源ワークショップ	意識付け	県技術者		54 生徒2 教師	
83	2009年9月17日	スケレ	トゥンベカ	意識付け：テラス(形成と重要性)、農業のリスク低減のための石組みの適用、リスク低減のための透過用側溝と冠状側溝、有機肥料の材料源、肥料の作成、保全のための保安と送肥のための肥料作成	意識付け	県、市技術者			
84	2009年9月18日	イクラ	コルバ・バンバ、モリエ・マユ	生徒、教師、父兄への自然資源ワークショップ	意識付け	県技術者		生徒90、父兄50	
85	2009年9月18日	モホコヤ	トコロ	殺虫剤の使用と管理研修ワークショップ	農業	環境責任者の技術支援		40 家族	
86	2009年9月18日	ポロマ	バラフラ	苗床の建設と導入	植林	フランクリン・コカ技師	48	32	16
87	2009年9月18日	ヤンバラエス	カタナ	野菜栽培ワークショップ	野菜生産	県技術者			
88	2009年9月21日	スケレ	モリエ・モリエ	意識付け：テラス(形成と重要性)、農業のリスク低減のための石組みの適用、リスク低減のための透過用側溝と冠状側溝、有機肥料の材料源、肥料の作成、保全のための保安と送肥のための肥料作成	意識付け	県、市技術者			
89	2009年9月21日	イクラ	ギタラニ	土壌・水保全工事についての意識付けワークショップ	保全			40 視覚者	
90	2009年9月21日	ヨタラ	モリエ・モリエ	自然資源についての意識付けワークショップ	意識付け	プロジェクト技術者(県・市)		4 家族	
91	2009年9月22日	イクラ	チュンカカンチャ	土壌・水保全工事についての意識付けワークショップ	保全			90	
92	2009年9月22日	プレスト	パンバヤ	コミュニティにおける苗床と灌漑研修	農業	県技術者による技術支援		beneficiarios 3 viveristas	
93	2009年9月22日	ヤンバラエス	カタナ	苗床従業員グループ研修(苗木用袋、ユーカリの増殖、ユーカリの苗床)	植林	県、市技術者			
94	2009年9月22日	スケレ	マラコリ	意識付け：テラス(形成と重要性)、農業のリスク低減のための石組みの適用、リスク低減のための透過用側溝と冠状側溝、有機肥料の材料源、肥料の作成、保全のための保安と送肥のための肥料作成	意識付け	県、市技術者			
95	2009年9月23日	モホコヤ	テケリリョス	苗木用土の混合、袋詰め、並べ方の研修	植林	県技術者		5 viveristas	
96	2009年9月23日	ポロマ	カリサヤ	苗床の建設と導入	植林	フランクリン・コカ技師	50	43	7
97	2009年9月24日	ヨタラ	チャミナ	植林及び苗木導入ワークショップ	植林	プロジェクト技術者(県・市)		25 家族	
98	2009年9月24日	スダニエス	ビルウアマユ	土壌・水保全研修ワークショップ(等高線を利用したAレベル建設)	保全	大学のノン責任者の技術支援		25	
99	2009年9月25日	スダニエス	パタ・トルコ	苗木用土の混合、袋詰め、並べ方の研修	植林	クルセ地域の苗床で実施		10 苗床従業員	
100	2009年9月25日	ヨタラ	モリエ・モリエ	緑肥についての理論的ワークショップ	農業	プロジェクト技術者(県・市)		5 家族	

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
101	2009年9月25日	ヨタラ	モリエ・モリエ	緑肥についての理論的ワークショップ	農業	プロジェクト技術者(県・市)		25	0
102	2009年9月28日	Ida	モリエ・マユ	土壌・水保全工事についての実践ワークショップ	保全				
103	2009年9月28日	ヤンバラエス	カタナ	女性組織強化ワークショップ	コミュニティ強化	技術者			
104	2009年9月28日	ヨタラ	チャミナ	生物炭虫剤についての理論、実践ワークショップ	農業	プロジェクト技術者(県・市)		25	0
105	2009年9月28日	ヨタラ	モリエ・モリエ	緑肥についての理論的ワークショップ	農業	県技術者		2	0
106	2009年9月29日	イクラ	コルバ・パンバ	土壌・水保全工事についての実践ワークショップ	保全				
107	2009年9月29日	スクレ	マラコリ	コミュニティ組織研修	コミュニティ強化	県、市技術者			
108	2009年10月6日	ポロマ	テルチスタ	土壌・水保全作業	保全	県技術者	28	18	10
109	2009年10月15日	ポロマ	ポロマ	植林研修	植林	フランクリン・コカ技術者	38	28	9
110	2009年10月20日	ポロマ	バラフラ	苗床の建設と導入	植林	フランクリン・コカ技術者	56	39	17
111	2009年10月23日	ポロマ	カリサヤ	土壌・水保全作業	保全	県技術者	78	56	22
112	2009年11月5日	ポロマ	テルチスタ	植林研修	植林	県技術者	28	18	10
113	2009年11月9日	スダニエス	マユ・トルココ	苗床従事者への苗床管理研修(苗木の増殖、松の苗床等)	植林	県技術者			
114	2009年11月12日	ポロマ	カリサヤ	植林研修	植林	フランクリン・コカ技術者	50	39	11
115	2009年11月13日	ポロマ	ポロマ	生産品の生産と商品化	農業	県技術者	45	34	11
116	2009年11月15日	プレスト	パンバヤ	コミュニティ開発計画、2010年POAの策定ワークショップ及びコミュニティリーダーの自己レベル評価ワークショップ	計画				
117	2009年11月19日	ポロマ	バラフラ	植林研修	植林	フランクリン・コカ技術者	41	25	16
118	2009年11月24日	ポロマ	カリサヤ	灌漑システムと圃場の利用	灌漑	県技術者	60	42	18
119	2009年11月24日	プレスト	ブカ・パンバ	コミュニティ開発計画、2010年POAの策定ワークショップ及びそれらの承認	計画	県技術者			

(2)2010年農民研修活動実績

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	家族数	参加者数	
								男性	女性
1	2010年1月15日	ポロマ	ポロマ	土壌・水保全作業	保全	県技術者	45	30	15
2	2010年1月17日	プレスト	プレスト・ポルベニル	果樹生産用苗床従事者研修	植林	県技術者	12	12	
3	2010年1月22日	プレスト	ミッシェン・パンバ	キキビの経験交流(テコヤ・バハ)	経験交流	県技術者	14		
4	2010年2月5日	ポロマ	テルチスタ	プロジェクトの意識付けと共有化ワークショップ	意識付け	県技術者	25	13	12
5	2010年2月13日	プレスト	ミッシェン・パンバ	家庭菜園での野菜生産研修	野菜生産	県技術者	16		
6	2010年2月15日	ポロマ	ポロマ	プロジェクトの意識付けと共有化ワークショップ	意識付け	県技術者	38	29	9
7	2010年2月25日	モホコヤ	トコロ	植林用苗木の実験研修	植林	県技術者			
8	2010年3月6日	スクレ	トウベンカ	乳製品加工研修；牛乳とヨーグルトの生産	加工	エルネスト・アルシエネガ(大学)		6	8
9	2010年4月6日	ヨタラ	チャミナ	保全工事の重要性についての意識付けと研修	保全	県技術者	3		
10	2010年4月10日	プレスト	プレスト・ポルベニル	病害虫管理研修	農業	県技術者	40		
11	2010年4月17日	プレスト	ブカ・パンバ	生物炭虫剤と美醗肥料の作成研修	農業	県技術者	23		

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	参加者数	
							男性	女性
12	2010年4月21日	プレスト	ハンバヤ	売種肥料の作成研修	農業	県技術者	12	
13	2010年4月21日	ヨタラ	チャミナ	自然資源の意識付けと研修	意識付け	県技術者	5	
14	2010年4月22日	プレスト	ハンバヤ	収穫時及び収穫後の種子選抜研修	農業	県技術者	10	
15	2010年4月22日	モホコヤ	ルミ・カンチャ	ジャガイモの害虫コントロールの理論と実践研修	農業	県技術者	40	
16	2010年4月30日	ズダニエス		ジャガイモの害虫コントロールの理論と実践研修	農業	県技術者	45	
17	2010年4月30日	ヨタラ	アンフアヤ・デル・ベラル	自然資源の意識付けと研修	意識付け	県技術者	3	
18	2010年5月18日	プレスト	ハンバヤ	生物殺虫剤の作成研修	農業	県技術者	13	
19	2010年5月19日	スケレ	スケレ	キビキビの経験交流(テコヤ・バハ)	経験交流	県、市技術者		
20	2010年5月22日	スケレ	トゥンベカ	家畜衛生(理論)	畜産	ラミロ・フロレス獣医師(USFX)	22	8
21	2010年5月29日	スケレ	トゥンベカ	家畜衛生(実践)	畜産	ラミロ・フロレス獣医師(USFX)	9	
22	2010年10月5日	イクラ	チュンカ・カンチャ	コミュニティ戦略計画、POAの検証ワークショップ、土壌・水保全の再強化	保全	ミゲル・ダバロス技術者、ペドロ・サラテ技術者、レネ・キロガ技術者	39	3
23	2010年10月6日	イクラ	ギタラニ	コミュニティ戦略計画、POAの検証ワークショップ、土壌・水保全の再強化	保全	ミゲル・ダバロス技術者、ペドロ・サラテ技術者、レネ・キロガ技術者	20	19
24	2010年10月22,23日	プレスト	ミッジョン・ハンバ	家畜衛生ワークショップ	畜産	ラミロ・フロレス獣医師	16	14
25	2010年1月23日	スケレ	トゥンベカ	人工授精ワークショップ	畜産	M・V・キロガ(C-HIR Vera)	20	9
26	2010年11月8日	ボロマ	チラムリ	自然資源の意識付けワークショップ	意識付け	マックス・フロレス、アンテロ・マラス、イバン・ハコメ	26	20
27	2010年11月14日	モホコヤ	リオ・トコロ	土壌保全、緑肥、森林保護研修	保全	マキシモ・クエリヤル、ハビエル・エスバダ	11	8
28	2010年11月16日	モホコヤ	リオ・トコロ	女性組織の意識付けワークショップ	意識付け	ハビエル・エスバダ	28	24

(3)2011年農民研修活動実績

№	日付	市村	集落	活動	分野	ファシリテーター	参加者数	
							男性	女性
1	2011年2月1,2日	スケレ	トゥンベカ	養殖魚研修と技術指導	畜産	マルコ・モンテアルノ獣医師		
2	2011年4月9日	スケレ	チャウチカ・トゥンベ	チーズ作成	加工	エルネスト・アルシエネガ(大学)	13	6
3	2011年4月29, 30日	プレスト	エル・バルマル	ミンシメンテナンス	機能	セルヒオ・ベテリト	13	0
4	2011年5月5日	スケレ	マラコリ	ECAとコミュニティワークショップ	資金事業	マルセリノ・メリレス	15	10
5	2011年5月4日	スケレ	チャウチカ・トゥンベ	ヨーグルト作成	加工	エルネスト・アルシエネガ(大学)	11	3
6	2011年7月1日	ヨタラ	ティボヨ	コミュニティ苗床デザイン、柱用材の選林	植林	ホセ・ルイス・モンテアルノ/ラミロ・レンス Jose Luis Montoya/Ramiro Lenis	7	5
7	2011年7月14日	ヨタラ	ティボヨ	土壌保全の共有化	保全	ホセ・ルイス・モンテアルノ/ラミロ・レンス Jose Luis Montoya/Ramiro Lenis	55	30
8	2011年7月15日	ヨタラ	チャミナ	土壌保全	保全	ホセ・ルイス・モンテアルノ/ラミロ・レンス Jose Luis Montoya/Ramiro Lenis	29	26
9	2011年7月19日	ヨタラ	ティボヨ	土壌保全工事のデザイン	保全	ホセ・ルイス・モンテアルノ/ラミロ・レンス Jose Luis Montoya/Ramiro Lenis		
10	2011年7月21日	スケレ	マラコリ	ECA導入	農業	マルセリノ・メリレス	12	7
11	2011年7月20,21日	イクラ	チュンカ・カンチャ	獣医師プロモーター	畜産	カルロス・ロペス獣医師	3	3
12	2011年7月20,21日	イクラ	ギタラニ	獣医師プロモーター	畜産	カルロス・ロペス獣医師	7	0
13	2011年7月27日	スケレ	マラコリ	果樹の剪定と接木	果樹	マルセリノ・メリレス	11	7
14	2011年7月27日	イクラ	コルバ・ハンバ	家畜衛生	畜産	マルセリノ・メリレス	12	12

添付書類14 ミニプロジェクトとパイロットプロジェクトの集落別分野別実施数

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	村落活動			分野										小計	計		
			自然資源保全	植林	植林	植林	農業	灌漑・水	自然資源・水 保全	教育	道路	機能	保健	技術交換					
1	ポロマ	ポロマ	X	X														3	
2		チルチスタ	X	X														4	
3		チフムリ	X	X														2	
4		サイチユマ	X	X														0	
5		チュルニ	X	X														1	
		パラヒラ	X	X														2	12
6	プレスト	ミツシヨウ・パンバ	X	X					2	1								3	
7		プレスト・ポルベニル	X	X					2	3								5	
8		プカ・パンバ	X	X						2				1				3	
9		バスバヤ	X	X						1								1	12
10	ヤンバラエス	サブバヤ	X	X														2	
11		サンホセ・チ・モリエス	X	X						1								4	
12		カタナ	X	X					1									2	
13		モリエ・ブンク	X	X						1								2	10
14	スケレ D8	ママウシ	X	X					2									3	
15		トウンベカ	X	X					3					1				7	
16		ママコリスンチュ・パンバ	X	X					2	1								5	
17		モリエ・モリエ	X	X														0	15
18	ヨタラ	テイボヨ	X	X														0	
19		チャミナ	X	X					1									4	
20		アンフアヤ・チル・ペラル	X	X						1								3	
21		バラマナ	X	X					1									7	14
22	イクラ	モリエ・マユ	X	X					1									5	
23		ゴルバ・パンバ	X	X					1									6	
24		ギタラニ	X	X					1									5	
25		チュンカ・カンチャ	X	X					1									5	21
26	スタニエス	マユ・トルココ	X	X					1									8	
27		パタ・トルココ	X	X					2	1								8	
28		セレサル	X	X														0	
29		ピルウワ・マユ	X	X														5	
		リオ・トルココ	X	X														2	
		セレサル	X	X						1								1	24
30	モホコヤ	リオ・トルココ	X	X														3	
31		ルミ・カンチャ	X	X					1									3	
32		チケリリヨ	X	X					2	1								4	
33		カサ・グランデ	X	X					1									1	11
	計								44	26	11	5	19	2	9	2	1	119	

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(1) ポロマ村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				期間		現状			
							果	市村	集落	大学	JICA	開始		終了	期間	
7	ポロマ	パラフラ	コミュニティ苗床設置(苗木)(1)	植林	23-12-09	12,346	4,105	3,354	333	0	4,554	30/11/09	31/01/10	63	終了	
8	ポロマ	ポロマ	コミュニティ苗床設置(苗木)(2)	植林	23-12-09	12,553	4,312	3,354	333	0	4,554	30/11/09	31/01/10	63	終了	
9	ポロマ	チルチスタ	コミュニティ苗床設置(苗木)(3)	植林	23-12-09	12,209	3,967	3,354	334	0	4,554	30/11/09	31/01/10	63	終了	
59	ポロマ	チフムリ	植林・果樹用コミュニティ苗床設置	植林	14-09-10	15,139	1,645	920	6,900	300	5,374	31/08/10	31/12/10	123	90%	
61	ポロマ	チフムリ	植林(チフムリ)	植林	14-09-10	32,597	0	10,000	9,075	2,400	11,122	01/12/10	28/2/11	90	90%	
62	ポロマ	チルチスタ	植林(チルチスタ)	植林	14-09-10	51,957	11,900	8,650	15,435	2,400	13,372	01/12/10	28/2/11	90	90%	
63	ポロマ	ポロマ	ポロマコミュニティの織物・被服強化	職能	14-09-10	44,480	0	0	18,840	160	25,480	10/09/10	20/11/10	72	終了	
75	ポロマ	チルチスタ	チルチスタコミュニティの織物・被服強化	職能	04-11-10	18,249	0	0	9,500	0	8,749	15/11/10	15/11/11	62	終了	
98	ポロマ	チフムリ	植林・果樹用苗床及び集水向上	植林	02-09-11	11,596	0	3,880	300	1,420	5,996	01/03/11	31/3/11	31	80%	
99	ポロマ	パラフラ	植林と果樹苗木生産用コミュニティ苗床設置	植林	02-09-11	16,178	2,398	3,357	5,580	1,350	3,493	01/01/11	1/1/11	1		
100	ポロマ	チルチスタ	(データ不足)			0								1		
101	ポロマ	ポロマ	植林と果樹苗木生産用ポロマコミュニティ苗床設置	植林	05-05-11	8,056	1,046	0	5,322	600	1,088	30/05/11	25/12/11	210	80%	
103	ポロマ	チルチスタ	展示圃場経験交流	農業	10-05-11	2,388	0	0	0	0	2,388	16/05/11	17/5/11	2	終了	
Poroma						237,758	29,373	37,069	71,952	8,630	90,734					
						100%	12%	16%	30%	4%	38%					

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(2) プレスト村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				JICA	期間		現状	
							県	市村	集落	大学		開始	終了		期間
21	プレスト	プレスト・ポルベニル	小規模灌漑システム	灌漑・水	01-10-09	128,959	0	81,800	9,800	0	57,358	05/11/09	30/09/10	299	終了
22	プレスト	フカ・ハンバ	村運向上	道路	14-09-09	23,880	0	11,200	4,620	0	7,860	20/09/09	30/12/09	102	終了
23	プレスト	ミジョン・ハンバ	小規模灌漑システム	灌漑・水	18-10-09	132,522	0	34,387	58,963	0	39,192	05/11/09	30/03/10	146	プロセス
48	プレスト	プレスト・ポルベニル	小規模灌漑システム	灌漑・水	03-05-10	61,070	0	17,928	25,214	0	17,928	20/04/10	20/09/10	154	終了
64	プレスト	ミジョン・ハンバ	野菜圃場設置	農業	20-10-10	39,882	3,222	6,170	18,400	780	11,310	01/11/10	1/10/11	335	プロセス
65	プレスト	プレスト・ポルベニル	野菜圃場設置	農業	20-10-10	93,272	6,300	15,000	51,000	2,500	18,472	30/10/10	30/10/11	366	終了
81	プレスト	ミジョン・ハンバ	肥料及び有機肥料生産	農業	24-11-10	4,581	730	1,070	660	0	2,121	01/12/10	1/12/11	366	プロセス
82	プレスト	プレスト・ポルベニル	肥料及び有機肥料生産	農業	24-11-10	4,581	730	1,070	660	0	2,121	01/12/10	1/12/11	366	プロセス
105	プレスト	フカ・ハンバ	水源利用と保護	灌漑・水	10-12-10	93,373	19,140	27,502	15,449	0	31,282	01/12/10	1/3/11	91	プロセス
131	プレスト	ハン・バヤ	水源利用と保護	灌漑・水	01-07-11	144,740	16,383	31,139	32,820	8,540	54,848	01/07/11	30/09/11	92	プロセス
132	プレスト	フカ・ハンバ	水源利用と保護	灌漑・水	22-05-11	69,514	1,876	18,248	11,840	5,895	31,755	10/08/11	10/12/11	123	プロセス
133	プレスト	プレスト・ポルベニル	経験交流	灌漑・水	12-07-11	3,520	0	0	0	0	3,520	13/07/11	14/7/11	2	終了
Presto						799,894	48,181	225,494	229,426	18,815	277,788				
						100%	6%	28%	29%	2%	35%				

添付書類16 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(3)ヤンバラエス村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				JICA	期間		現状	
							果	市村	集落	大学		開始	終了		
37	ヤンバラエス		コミュニティ植林	森林	11-01-10	21,126	10,200	2,550	5,438	0	2,938	22/01/10	20/02/10	30	終了
38	ヤンバラエス	カタナ	コミュニティ植林	森林	11-01-10	13,551	2,625	2,550	5,438	0	2,938	22/01/10	20/02/10	30	終了
39	ヤンバラエス	サフバヤ	コミュニティ植林	森林	11-01-10	12,884	1,960	2,550	5,437	0	2,937	22/01/10	20/02/10	30	終了
40	ヤンバラエス	S・J・モリエ	コミュニティ植林	森林	11-01-10	13,549	2,625	2,550	5,437	0	2,937	22/01/10	20/02/10	30	終了
41	ヤンバラエス	S・J・モリエ	2つの斜面面構の保護と向上(匿根エリア)	自然資源・ 水保全	10-01-10	7,425	250	800	800	200	5,375	10/01/10	09/02/10	30	終了
42	ヤンバラエス	サフバヤ	メンテナンスについての女性組織の研 修	職能	11-01-10	19,848	12,500	1,000	2,000	1,000	3,348	12/01/10	12/03/10	60	終了
44	ヤンバラエス	S・J・モリエ	飲料水用の新たなため水の建設	保健	11-01-10	12,725	1,600	1,500	4,600	200	4,625	12/01/10	12/03/10	60	
45	ヤンバラエス	S・J・モリエ	女性組織への機物と被服の機材メンテナンス 研修と衣類作製知識の強化研修	職能	11-01-10	19,848	12,500	1,000	2,000	1,000	3,348	12/01/10	12/03/10	60	終了
46	ヤンバラエス	モリエ・ブシク	家庭野菜圃場生産のための水取得システム向 上	灌漑・水	11-01-10	52,075	1,000	5,000	24,000	1,500	20,575			1	0%
89	ヤンバラエス	カタナ	木箱(トマト出荷用箱)製作によるトカナ (サボテンの家)商品化向上	農業	17-01-11	20,017	3,849	3,285	4,000	3,880	5,003	20/01/11	28/2/11	40	
	ヤンバラエス	10				193,048	49,109	22,785	59,350	7,780	54,024				
						100%	25%	12%	31%	4%	28%				

Molle Punku
Catana
Sajpaya
S.J.Molle
S.J.Molle
Sajpaya
S.J.Molle
S.J.Molle
Molle Punku
Catana



添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(4) スクレ市

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				JICA	期間		現状	
							県	市村	集落	大学		開始	終了		期間
11	スクレ	タウンベカ	経験交流	農業	25-11-09	1,824	147	170	120	867	520	02/12/09	03/12/09	2	終了
12	スクレ	マウアシ	経験交流	農業	25-11-09	1,822	146	170	120	866	520	02/12/09	03/12/09	2	終了
13	スクレ	マラコリ・スンチュ	経験交流	農業	25-11-09	1,824	147	170	120	867	520	02/12/09	03/12/09	2	終了
16	スクレ	マラコリ・スンチュ	灌漑システムの集水建設	自然資源・水 保全	17-08-09	12,420		7,350	4,320		750	17/08/09	31/08/09	15	終了
20	スクレ	タウンベカ	Mellet	畜産	01-10-09	73,480	0	20,050	11,210	6,000	36,220	01/10/09	30/09/11	730	95%
31	スクレ	マラコリ・スンチュ	緑肥としてのえんどう豆とそら豆の導入	農業	20-01-10	3,610	820	180	250	600	1,760	25/01/10	25/08/10	152	60%
36	スクレ	タウンベカ	パタ・トロヨへの道路向上	道路	05-02-10	91,871	500	28,300	16,000	0	45,071	01/02/10	30/03/10	58	終了
74	スクレ	タウンベカ	養殖魚調査	畜産	27-10-10	30,139	1,840	5,460	2,800	500	19,519	15/11/10	15/11/11	366	30%
80	スクレ	マラコリ・スンチュ	油圧ポンプの修理 (第1フェーズ)	灌漑・水	09-12-10	16,242	0	0	240	9,000	7,002	08/12/10	23/12/10	18	50%
85	スクレ	マウアシ	養蜂管理研修	畜産	30-11-10	6,425	0	4,550	600	600	675	01/12/10	26/2/11	90	70%
86	スクレ	タウンベカ	植林	植林	30-11-10	53,679	350	28,650	11,800	400	11,679	01/12/10	30/3/11	120	95%
87	スクレ	マラコリ・スンチュ	植林	植林	30-11-10	24,004	350	9,175	5,800	400	8,279	01/12/10	30/3/11	120	95%
114	スクレ	マウアシ	家庭展示団場と集水所保全	農業	02-08-11	23,954	3,092	7,134	11,200	0	2,528	01/06/11	30/12/11	152	75%
115	スクレ	タウンベカ	経験交流	農業	04-07-11	3,170	0	0	0	1,350	1,820	14/07/11	15/7/11	2	終了
116	スクレ	タウンベカ	家庭温室建設	農業	22-08-11	24,020	0	14,090	2,150	1,000	6,780	01/05/10	11/10/11	180	70%
	スクレ	15				368,684	7,392	126,469	66,730	22,450	143,643				
							100%	2%	34%	19%	6%	39%			

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(5) ヨタラ村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				期間			現状
							果	市村	集落	大学	JICA	開始	終了	
80	ヨタラ	ハラマナ	植林と果樹苗木生産用コミュニティ苗木設置	植林	14-09-10	14,848	2,048	3,357	1,350	2,408	15/07/10	15/09/10	63	50%
66	ヨタラ	チャミナ	植林	植林	14-09-10	55,860	5,100	18,500	1,200	9,520	01/12/10	28/2/11	90	80%
67	ヨタラ	チャミナ	植林・果樹苗木器具及び消耗品用倉庫建設	植林	14-09-10	17,176	0	7,548	700	7,548	15/08/10	30/10/10	77	90%
68	ヨタラ	アンフアヤ・デ ル・ベラル	植林・果樹苗木器具及び消耗品用倉庫建設及び生使用 飲料水浄水保証	保健	14-09-10	20,318	0	7,860	700	9,758	15/08/10	30/10/10	77	終了
102	ヨタラ	ハラマナ	ハラマナのヤギ用欄建設	畜産	09-05-11	20,125	0	5,616	1,120	4,989	01/05/11	5/6/11	36	70%
104	ヨタラ	チャミナ	展示園博覧会交流観察	展示園博覧会 交流	10-05-11	724	0	0	0	724	18/05/11	18/5/11	1	終了
106	ヨタラ	ハラマナ	ジャムケーキ作成研修	畜産	12-04-11	447	0	0	139	308	18/04/11	24/4/11	7	終了
107	ヨタラ	アンフアヤ・デ ル・ベラル	学校飲料水の確保と給水	灌漑・水	16-05-11	21,833	0	7,794	2,030	11,069	31/01/11	20/2/11	21	90%
108	ヨタラ	アンフアヤ・デ ル・ベラル	家畜衛生研修	畜産	15-06-10	904	0	0	280	328	15/06/10	15/7/10	31	終了
109	ヨタラ	ハラマナ	ハラマナのヤギ優良品種の導入	畜産	27-09-10	21,168	0	0	2,900	12,508	01/09/10	30/12/10	121	終了
110	ヨタラ	ハラマナ	ヤギ生産向上調査	畜産	10-12-10	7,988	0	0	1,266	3,642	13/12/10	30/12/10	18	終了
111	ヨタラ	ハラマナ	ポロマコミュニティの植林果樹苗木生産用苗木設置	植林	09-05-11	15,960	3,369	2,989	0	6,632	15/05/11	25/12/11	225	40%
112	ヨタラ	チャミナ	家族菜園設置とアグロフォレストリー開発のための土 壌保全	農業	15-07-11	32,705	4,456	2,610	2,700	8,259	16/07/11	30/12/11	168	10%
113	ヨタラ	ハラマナ	コミュニティ菜園の設置	農業	17-07-11	11,711	2,532	2,500	2,700	1,679	17/07/11	15/12/11	152	40%
ヨタラ						241,767	17,525	58,744	21,438	77,570				
						100%	7%	24%	9%	32%				

14

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(6) イクラ村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	税入				開始	期間		現状	
							県	市村	集落	大学		JICA	終了		期間
1	イクラ	ギタラニ	緑肥としてのえんどう豆とそら豆の導入(1)	農業	14-12-09	2,101	420	120	167	400	894	15/12/09	18/03/10	94	終了
2	イクラ	コルバ・ハンバ	緑肥としてのえんどう豆とそら豆の導入(2)	農業	14-12-09	2,100	420	120	167	400	993	15/12/09	18/03/10	94	終了
3	イクラ	モリエ・マユ	緑肥としてのえんどう豆とそら豆の導入(3)	農業	14-12-09	2,089	420	120	166	400	993	15/12/09	18/03/10	94	終了
5	イクラ	チュンカ・カン チャ	緑肥としてのタルカイ豆の導入	農業	14-12-09	1,945	60	75	150	400	1,260	15/12/09	15/03/10	91	終了
10	イクラ	チュンカ・カン チャ	チュンカ・カンチャコミュニティの製粉器エンジンの設置				No ejecutado								
26	イクラ	コルバ・ハンバ	コミュニティ植林	植林	22-01-10	15,312	4,050	2,666	5,120	750	2,726			1	終了
27	イクラ	ギタラニ	コミュニティ植林	植林	22-01-10	17,962	6,450	2,666	3,370	750	2,726			1	終了
28	イクラ	チュンカ・カン チャ	コミュニティ植林	植林	22-01-10	19,022	6,470	2,666	6,410	750	2,726			1	終了
29	イクラ	モリエ・マユ	コミュニティ植林	植林	22-01-10	12,267	3,500	2,468	3,025	750	2,526			1	終了
32	イクラ	チュンカ・カン チャ	コミュニティ苗床設置	畜産	15-01-10	10,649	3,148	1,586	1,760	2,200	1,935	01/01/10	01/03/10	60	終了
33	イクラ	コルバ・ハンバ	コミュニティ苗床設置	畜産	15-01-10	12,466	2,835	4,336	1,780	1,200	2,315	01/01/10	01/03/10	60	終了
34	イクラ	モリエ・マユ	コミュニティ苗床設置	畜産	15-01-10	12,460	3,765	2,300	1,780	2,200	2,365	01/01/10	01/03/10	60	終了
35	イクラ	ギタラニ	コミュニティ苗床設置	畜産	15-01-10	9,464	2,448	1,616	1,780	1,200	2,420	01/01/10	01/03/10	60	終了
54	イクラ	ギタラニ	畜産対策と大型・小型家畜の去勢(ロータリーフアード)	畜産	06-09-10	4,500	260	300	2,600	140	1,200	03/08/10	20/08/10	18	プロセス
55	イクラ	コルバ・ハンバ	畜産対策と大型・小型家畜の去勢(ロータリーフアード)	畜産	06-09-10	6,087	147	600	4,000	140	1,200	03/08/10	20/08/10	18	プロセス
56	イクラ	チュンカ・カン チャ	畜産対策と大型・小型家畜の去勢(ロータリーフアード)	畜産	06-09-10	7,800	260	600	5,000	140	1,800	03/08/10	20/08/10	18	プロセス
57	イクラ	モリエ・マユ	販売用伝統的織物の向上を通じた生活向上と女性グループ強化	職能	21-09-10	23,067	374	2,400	9,920	1,670	8,703	26/08/10	26/10/10	62	95%
58	イクラ	コルバ・ハンバ	販売用伝統的織物の向上を通じた生活向上と女性グループ強化	職能	21-09-10	29,863	374	3,600	14,860	1,670	9,339	26/08/10	26/10/10	62	95%
90	イクラ	チュンカ・カン チャ	2010-2011年植林キャンペーン	植林	17-01-11	15,628	3,930	600	5,044	1,010	5,044	20/12/10	20/2/11	63	終了
91	イクラ	ギタラニ	2010-2011年植林キャンペーン	植林	17-01-11	13,146	2,680	1,500	6,730	272	1,964	20/12/10	20/2/11	63	終了
92	イクラ	モリエ・マユ	2010-2011年植林キャンペーン	植林	17-01-11	13,879	4,200	1,500	6,130	272	1,777	20/12/10	20/2/11	63	終了
93	イクラ	コルバ・ハンバ	2010-2011年植林キャンペーン	植林	17-01-11	15,919	2,860	1,500	8,410	272	2,677	20/12/10	20/2/11	63	終了
119	イクラ	コルバ・ハンバ	製粉器設置	農業											
120	イクラ	ギタラニ	製粉器設置	農業											
	イクラ	21				247,736	51,061	33,337	88,409	16,986	57,913				
						100%	21%	13%	36%	7%	23%				

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(7) スダニエス村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入				JICA	期間		現状	
							県	市村	集落	大学		開始	終了		
14	スダニエス	ピルア・マユ	植林キャンペーン	植林	11-01-10	11,664	6,314	2,300	1,000	0	2,050	15/03/10	91	終了	
15	スダニエス	マユ・トルココ	植林キャンペーン	植林	11-01-10	13,886	5,570	3,500	1,666	0	3,250	15/03/10	91	終了	
47	スダニエス	パタ・トルココ	植林キャンペーン	植林	11-01-10	16,400	6,450	4,100	2,000	0	3,850	15/03/10	64	終了	
49	スダニエス	マユ・トルココ	衛生虫対策及び去勢キャンペーン (ロータリーファン)	畜産	03-05-10	3,890	215	365	1,750	300	1,260	05/05/10	05/08/10	32	終了
50	スダニエス	ピルア・マユ	衛生虫対策及び去勢キャンペーン (ロータリーファン)	畜産	03-05-10	3,750	175	415	1,400	500	1,260	24/05/10	24/06/10	32	終了
51	スダニエス	パタ・トルココ	衛生虫対策及び去勢キャンペーン (ロータリーファン)	畜産	03-05-10	3,400	215	365	1,575	300	945	14/05/10	14/06/10	32	終了
71	スダニエス	マユ・トルココ	果樹生産のための苗木リダー研修	植林	04-10-10	170	0	30	0	0	140	05/10/10	6/10/10	2	終了
72	スダニエス	マユ・トルココ	果樹・植林用グループ苗木設置拡大	植林	27-10-10	9,575	1,460	1,969	2,387	1,200	2,559	01/11/10	1/2/11	93	プロセス
73	スダニエス	パタ・トルココ	果樹・植林用グループ苗木設置拡大	植林	27-10-10	24,317	4,100	4,390	6,754	2,400	6,673	01/11/10	1/2/11	93	プロセス
76	スダニエス	リオ・トルココ	植林キャンペーン	植林	04-11-10	17,888	2,675	5,600	6,368	600	2,645	18/11/10	22/12/10	35	終了
77	スダニエス	リオ・トルココ	果樹・植林用グループ苗木設置拡大	植林	04-11-10	13,566	3,530	2,610	2,305	1,200	3,921	18/11/10	15/2/11	90	プロセス
78	スダニエス	パタ・トルココ	植林キャンペーン	植林	05-11-10	23,400	4,400	3,525	10,675	300	4,500	13/11/10	18/12/10	36	終了
79	スダニエス	ピルア・マユ	植林キャンペーン	植林	05-11-10	15,095	5,400	2,145	2,250	300	5,000	10/11/10	7/12/10	28	終了
83	スダニエス	パタ・トルココ	家庭菜園設置	農業	24-11-10	44,670	1,600	13,300	8,640	2,000	19,130	01/12/10	28/2/11	90	プロセス
84	スダニエス	マユ・トルココ	家庭菜園設置	農業	24-11-10	18,720	1,600	5,240	2,970	1,000	7,910	01/12/10	28/2/11	90	プロセス
88	スダニエス	ピルア・マユ	はちみつ生産のための飼育箱設置	畜産	13-01-11	46,070	3,500	8,350	4,500	4,400	25,320	21/02/11	27/12/11	310	プロセス
96	スダニエス	パタ・トルココ	職能向上による生活向上と女性グループ強化 (被服)	職能	19-01-11	20,203	400	3,321	1,263	500	14,719	01/02/11	1/4/11	60	プロセス
97	スダニエス	マユ・トルココ	職能向上による生活向上と女性グループ強化 (被服)	職能	19-01-11	36,594	400	3,746	16,421	500	15,527	01/02/11	1/5/11	90	プロセス
121	スダニエス	マユ・トルココ	コミュニティ苗木及び飲料水のための水資源の有効利用研修	植林	19-08-11	23,415	7,902	3,891	2,630	1,500	7,492			計画済	
122	スダニエス	パタ・トルココ	コミュニティ苗木及び飲料水のための水資源の有効利用研修	農業	19-09-11	46,070	7,253	5,527	10,010	1,250	22,030			計画済	
123	スダニエス	パタ・トルココ	土壌保全工事評価	自然資源・水保全		200	0	0	0	0	200	13/05/11	13/05/11	1	終了
124	スダニエス	マユ・トルココ	土壌保全工事評価	自然資源・水保全		200	0	0	0	0	200	14/05/11	14/05/11	1	終了
125	スダニエス	セレサル	基礎調査作成	自然資源・水保全		200	0	0	0	0	200	20/08/11	20/08/11	1	終了
126	スダニエス	ピルア・マユ	農業経験交流	畜産		540	0	0	0	0	540	22/06/11	24/08/11	3	終了
	スダニエス					0									
						393,963	63,159	74,689	86,564	18,250	151,321				
						100%	16%	19%	22%	5%	38%				

添付書類15 ミニプロジェクト及びパイロットプロジェクトのリスト

(8) モホトヤ村

データ更新: 2011年5月25日

No.	市村	集落	ミニプロジェクト名	分野	承認日付	総額	投入			期間		現状			
							県	市村	集落	大学	JICA		開始	終了	期間
6	モホコヤ	チケリリヨス	小規模灌漑システム	灌漑・水	09-12-09	23,668	0	3,159	7,160	0	13,349	05/12/09	30/03/10	116	終了
52	モホコヤ	リオ・トコロ	寄生虫対策及び去勢キャンペーン (ロータリーフアード)	畜産	17-05-10	4,394	204	630	2,000	300	1,260	21/05/10	21/06/10	32	終了
53	モホコヤ	ルミ・カンチャ	寄生虫対策及び去勢キャンペーン (ロータリーフアード)	畜産	14-06-10	3,252	192	315	1,600	200	945	11/06/10	11/07/10	31	終了
69	モホコヤ	リオ・トコロ	果樹生産のための苗床リダー研修	植林	04-10-10	170	0	30	0	0	140	05/10/10	6/10/10	2	終了
70	モホコヤ	チケリリヨス	果樹生産のための苗床リダー研修	植林	04-10-10	170	0	30	0	0	140	05/10/10	6/10/10	2	終了
94	モホコヤ	リオ・トコロ	被服販売による生活向上と女性グループ強化	職能	17-01-11	50,324	2,400	6,260	18,430	2,500	20,734	08/02/11	22/7/11	165	プロセス
95	モホコヤ	ルミ・カンチャ	はちみつ生産のための飼育箱設置	畜産	17-01-11	41,785	3,500	8,600	3,750	3,300	22,615	21/02/11	27/12/11	310	プロセス
127	モホコヤ	チケリリヨス	小規模灌漑システム建設	農業	11-08-11	74,088	16,484	15,793	14,715	3,000	24,096	15/08/11	22/01/12	161	プロセス
128	モホコヤ	ルミ・カンチャ	小規模灌漑システム建設	農業	11-08-11	75,633	13,807	15,070	11,620	1,500	33,636	22/08/11	20/12/11	121	プロセス
129	モホコヤ	チケリリヨス	土壌保全工率評価	農業		180	0	0	0	0	180	19/08/11	20/08/11	2	終了
130	モホコヤ	カサ・グランデ	基礎調査作成	農業	22-08-11	200	0	0	0	0	200	23/08/11	23/08/11	1	終了
	モホコヤ	11				273,844	36,567	49,887	59,275	10,800	117,295				
						100%	13%	18%	22%	4%	43%				

添付書類16 外部資金申請プロジェクトのリスト

更新：2011年10月5日

財源	市村	集落	申請/承認日付	プロジェクト内容	市村カウ ンターバ ート/ 業落 (\$us)	申請/承認 額 (\$us)	申請/承認総額 (\$s)	現 状
2KR (2KR見返り資金)	ヤンバラエス、 スケレ	サフバヤ、サンホセ・ 子、モリエス、マ マウアシ、 トウンベカ	2010/6/30	チュエキサカ北部 集落食糧主権、 安全保障総合 開発	24,317.50 40,534.82	1,346,095.86	9,422,671.00	承認済
	イクラ	モリエ・マユ、 コルバ・パ ンバ、ギタラニ、 チュンカ・カ ンチャ	2011/3/31	4集落の小規模 灌漑システム 建設		80,075.00	560,525.00	実施中
APC (日本大使館・ 草の根無償)	スケレ	ママウアシ	2010/9/30	歩道橋		25,289.00	177,023.00	事前プロジェクト 終了待ち
	スケレ	トウンベカ	2010/9/30	保健ポスト		44,878.00	314,146.00	事前プロジェクト 終了待ち
ベルギー協力	スタニエス	スタニエス	26/02/2011 10/06/2011	農業生産品の 収集、生産、 商品化センター	17,935.00	105,661.00	739,627.00	再申請済
	ヤンバラエス	モリエ・ブ ンク	28/02/2011 11/05/2011	織物、被服の 女性団体研 修所建設		23,971.00	168,759.00	再申請済
	プレスト *	エル・バラ ル	2011/3/31	食糧安全保障 のための15 の家族用温 室建設	4,863.00	39,543.00	276,798.00	検討中
	プレスト *	エル・バル マル、マラニ、 ロデオ、エル ・バルマル	2011/1/31	ハンチココ 椰子 (Parajuba ea torally) の 葉と美の待 婚的利用と 管理	17,325.00	82,430.00	580,305.00	検討中
先住民基金	ヤンバラエス	カタナ	2011/7/8	女性農家の 組織のため の被服工 房設置	1,547.00	24,818.00	172,978.00	申請済
	ヤンバラエス	サフバヤ	2011/7/8	家族用温 室設置	11,592.00	29,851.00	208,060.00	申請済
FPS (生産・社会 投資国家基金)	モホコヤ	モリエ・ブ ンク	2011/7/8	家族用温 室設置	11,592.00	36,973.00	257,702.00	申請済
	ヤンバラエス	トコロ	18/08/2010 27/06/2011	小規模灌 漑システム 建設	26,062.00	78,187.00	562,784.00	実施済
MI AGUA	ヤンバラエス	カタナ	2010/8/18	小規模灌 漑システム 建設	13,636.00	83,314.00	589,030.00	却下
	プレスト	パソバヤ	2011/3/28	小規模灌 漑システム 建設	14,933.00	99,553.00	692,892.00	実施中
	ヤンバラエス	カタナ	2011/3/28	小規模灌 漑システム 建設	10,812.00	72,079.00	589,779.00	実施中
	ヤンバラエス	サンホセ・ 子、モリエ ス	2011/3/28	小規模灌 漑システム 建設	13,500.00	90,000.00	734,709.00	実施中
SEDERI (県灌 漑部)	イクラ	チュンカ・ カンチャ、 ギタラニ	2011/3/31	チュンカ・ カンチャと ギタラニの 小規模灌 漑設計と 投資		14,053.00	98,372.00	検討中
	イクラ	モリエ・マ ユ、コルバ ・パンバ	2011/3/31	モリエ・マ ユとコルバ ・パンバの 小規模灌 漑設計と 投資		13,841.00	96,886.00	却下
計	スケレ	スンチュ ・パンバ		小規模灌 漑システム プロジェクト	7,153.00	62,824.00	439,139.76	申請準備中
					150,950.00	2,353,435.86	16,672,185.76	

\* プロジェクト活動集落ではないが、データベースを使用

(1) PDM 1

プロジェクト名: 持続的農村開発のための実施体制整備計画 フェーズ2

ターゲットエリア: チュキサカカ県北部地域 9 市村

受益者: 36 集落

プロジェクト期間: 2009 年 6 月 ~ 2014 年 6 月 (5 年間)

日付: 2009 年 3 月 2 日

プロジェクト要約	指 標	入手手段	外部要因
<p>上位目標</p> <p>チュキサカカ県内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。</p>	<p>【指標 1】 チュキサカカ県の 72 集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 2】 チュキサカカ県において農業生産性が向上している。</p> <p>【指標 3】 チュキサカカ県の農村の収入が向上している。</p> <p>【指標 4】 チュキサカカ県の UBN(充足されていない基本的ニーズ数)が減少している。</p>	<p>対象地域の HDI 調査</p>	
<p>プロジェクト目標</p> <p>チュキサカカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。</p>	<p>【指標 1】 農村開発の事業計画から資金申請を含む実施の度合い(資金獲得額と農村開発事業の実施状況)</p> <p>【指標 2】 県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される</p>	<p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p>	<p>ポリビアの農村開発に関する国家政策が変わらない</p>
<p>成果</p> <p>成果 1: 集落と市村(実施機関)、県庁と大学(支援機関)に農村開発事業の中心人材が養成される。</p> <p>成果 2: 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。</p> <p>成果 3: 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。</p>	<p>【指標 1】 指導者として 10 名の大学教員、6 名の技術者が、実施者として 9 名の普及員、9 名の計画担当者および各集落 8 人の住民リーダーが、それぞれ育成されている。(計 322 名)</p> <p>【指標 2】 研修結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。</p> <p>【指標 3】 大学の農村開発センターにおいて、技術者研修年 1 回、農民研修年 2 回程度実施される。</p> <p>【指標 4】 対象 36 集落が集落開発計画を有する。</p> <p>【指標 1】 対象 36 集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 2】 対象 36 集落において、集落開発計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとして定められている。</p> <p>【指標 3】 農村開発事業の計画から実施までのプロセスが改善されている。</p> <p>【指標 4】 対象 36 集落において、農村開発の状況が改善されている。</p>	<p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p>	<p>関係機関の政策が変わらない</p> <p>プロジェクトのカウンターパートが大幅には変わらない</p>
<p>成果 4: 市村(実施機関)、県庁および大学(支援機関)において、農村開発事業の実施・支援体制が構築される。</p> <p>成果 5: 農村開発事業が継続的に実施されるように体制が整備される。</p>	<p>【指標 1】 支援機関が実施すべき資金調達手続きが定められている。</p> <p>【指標 2】 普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続きを理解している。</p> <p>【指標 3】 市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。</p> <p>【指標 4】 対象 36 集落において調達された資金が活用されている。</p> <p>【指標 1】 市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。</p> <p>【指標 2】 同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。</p>		
	<p>【指標 1】 大学に人材育成を目的とした農村開発部署が設置され、関連の規則が定められる。</p> <p>【指標 2】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置され、条例等規則が定められる。</p>		

活動	投入	前提条件
<p>活動 1-1 大学教員や技術者が、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。</p> <p>活動 1-3 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 1-4 ベースライン調査を実施する</p> <p>活動 2-1 後発 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 先発 8 集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>活動 2-3 後発 28 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象 36 集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p> <p>活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するための必要な部署を設け、人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。</p> <p>活動 5-1 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。</p> <p>活動 5-2 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。</p>	<p>＜日本側＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期専門家：現地リーダー／農村開発、開発制度／参加型開発、業務調整／研修</li> <li>● 短期専門家：チーフアドバイザー その他必要な技術専門家</li> <li>● 供与機材</li> <li>● 本邦・第三国研修</li> <li>● プロジェクト活動に必要な経費</li> <li>● 調査団派遣に必要な経費</li> </ul>	<p>＜ボリビア側＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンターパートの配置：普及員、市村の計画担当者、調整員、大学教員、その他の関係者</li> <li>● ローカルコスト：(研修経費、調査経費、技術書の発行・運用経費、投資経費等)</li> <li>● プロジェクト事務所、圃場等施設</li> <li>● 資機材</li> </ul>
活動	投入	前提条件



(2) PDM 2

プロジェクト名: 持続的農村開発のための実施体制整備計画 フェーズ2

ターゲットエリア: チュキサカカ県北部地域 9 市村

受益者: 36 集落

プロジェクト期間: 2009 年 5 月 ~ 2014 年 5 月 (5 年間)

改訂日: 2010 年 9 月 1 日

プロジェクト要約	指 標	入手手段	外部要因
<p><b>上位目標</b> チュキサカカ県内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。</p>	<p>【指標 1】 チュキサカカ県の 72 集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。 【指標 2】 チュキサカカ県において農業生産性が向上している。 【指標 3】 チュキサカカ県の農村の収入が向上している。 【指標 4】 チュキサカカ県の UBN(充足されていない基本的ニーズ数)が減少している。</p>	<p>対象地域の HDI 調査 プロジェクトにかかる記録と聞き取り調査</p>	<p>ポリビアの農村開発に関する国家政策が変わらない</p>
<p><b>プロジェクト目標</b> チュキサカカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。</p>	<p>【指標 1】 農村開発の事業計画から資金申請を含む実施の度合い(資金獲得額と農村開発事業の実施状況)。 【指標 2】 県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される。</p>	<p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p>	<p>関係機関の政策が変わらない プロジェクトのカウンターパートが大幅には変わらない</p>
<p><b>成果</b> 成果 1: 集落と市村(実施機関)、県庁と大学(支援機関)に農村開発事業の中核人材が養成される。</p>	<p>【指標 1】 指導者として 10 名の大学教員、6 名の技術者が、実施者として 9 名の普及員、9 名の計画担当者および各集落 8 人の住民リーダーが、それぞれ育成されている。(計 322 名) 【指標 2】 研修結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。 【指標 3】 大学の農村開発センターにおいて、技術者研修年 1 回、農民研修年 2 回程度実施される。</p>	<p>プロジェクトにかかわる記録と聞き取り調査</p>	
<p><b>成果 2:</b> 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。</p>	<p>【指標 1】 対象 36 集落が集落開発計画を有する。 【指標 2】 対象 36 集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。 【指標 3】 農村開発事業の計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとして纏められている。 【指標 4】 対象 36 集落において、農村開発の状況が改善している。</p>		
<p><b>成果 3:</b> 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。</p>	<p>【指標 1】 支援機関が実施すべき資金調達手続が定められている。 【指標 2】 普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続を理解している。 【指標 3】 市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。 【指標 4】 対象 36 集落において調達された資金が活用されている。</p>		
<p><b>成果 4:</b> 市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築され、整備される。</p>	<p>【指標 1】 市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。 【指標 2】 同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。 【指標 3】 大学に人材育成を目的とした農村開発部署が設置され、関連の規則が定められる。 【指標 4】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・卒業実施を支援する部署が設置され、条例等規則が定められる。</p>		

活動	投入	前提条件
<p>活動 1-1 プロジェクトの技術者チーム(大学教員や技術者)に対して特設的農村開発に必要な技術・手法の研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 技術者チームが、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。</p> <p>活動 1-4 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 2-1 後発 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 先発 8 集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>活動 2-3 対象 36 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象 36 集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p> <p>活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するために必要な部署を設け、人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。</p> <p>活動 4-3 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。</p> <p>活動 4-4 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。</p>	<p>&lt;日本側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期専門家：現地リーダー／農村開発、開発制度／参加型開発、業務調整／研修</li> <li>● 短期専門家：チーフアドバイザーその他必要な技術専門家</li> <li>● 供与機材</li> <li>● 本邦・第三国研修</li> <li>● プロジェクト活動に必要な経費</li> <li>● 調査団派遣に必要な経費</li> </ul> <p>&lt;ポリアピア側&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンターパートの配置：普及員、市村の計画担当者、調整員、大学教員、その他の関係者</li> <li>● ローカルコスト：(研修経費、調査経費、技術書の発行・運用経費、投資経費等)</li> <li>● プロジェクト事務所、圃場等施設</li> <li>● 資機材</li> </ul>	<p>9 市村役場が、独自の予算で少なくとも各村1人の普及員を雇用する。</p>

4. 活動の進捗状況

(プロジェクト作成資料: POの活動項目毎、PO: Versión 3: 2011年6月)

成果1: 集落と市村(実施機関)、県庁と大学(支援機関)に農村開発専業の核人材が養成される。		備考
活動	具体的活動	現在の状況
1-1 プロジェクトの技術者チーム(大学教員や技術者)に対して待機的農村開発に必要な技術・手法の研究を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Evaluación del proceso de capacitación de la 1ª fase y organización de sistema de capacitación para la 2ª fase.</li> <li>2) Organización de talleres focales para identificar y priorizar demandas de capacitación y establecer una base de datos, para el Equipo Técnico.</li> <li>3) Priorización y elaboración de programas y contenidos de capacitación para el Equipo Técnico del proyecto según demanda. (Docentes, Técnicos Gobernación, Municipios)</li> <li>4) Ejecución de cursos para equipo técnicos del proyecto.</li> <li>5) Seguimiento y evaluación de los programas de capacitación ejecutados.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員、県及び市村の技術者の技術レベルや関心テーマが異なるため、全体的に出席率が低いという問題がある。</li> <li>・研修出席のインセンティブになるような工夫が必要。</li> <li>・C/Pの多くが臨時雇用形態で不安定なため、本邦・第三国研修などへの派遣に問題がある。</li> </ul>
1-2 技術者チームが、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Priorización y Elaboración de programas y contenidos de capacitación para técnicos extensionistas y agricultores según demanda.</li> <li>2) Ejecución de cursos para líderes y agricultores</li> <li>3) Seguimiento y evaluación de los programas de capacitación ejecutados.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及員に対する研修は上記1-1の中で実施している。活動の1-1と1-2を事態に応じて修正する必要がある。</li> </ul>
1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Validación y revisión del material didáctico de capacitación y currículo elaborados en la 1ª fase</li> <li>2) Mejora del material didáctico y currículo, considerando criterios de planificadores, técnicos y líderes agricultores.</li> <li>3) Diseño y elaboración de material didáctico complementario según requerimiento.</li> <li>4) Diseño de la imagen cooperativa del proyecto, afiches, trípticos, volantes y spot televisivo.</li> <li>5) Socialización de las experiencias desarrolladas en el proyecto a través de publicaciones y la producción de programas de radio y televisión.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動を通じて得られた知見や経験などを取りまとめて出版していく必要がある。</li> </ul>
1-4 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Estudio y analisis de los ejemplos de cursos por otras instituciones.</li> <li>2) Diseño de una metodología y estrategia adecuadas para desarrollar el proceso de capacitación para la formación de recursos humanos.</li> <li>3) Organización de talleres para conseguir consensos sobre un sistema multidisciplinario para la formación de recursos humanos</li> <li>4) Suscripción de alianzas con entidades de desarrollo rural para institucionalizar el proceso de capacitación.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村開発センター設置に関する活動は今後の課題である。プロジェクト終了後に向けて大学が農村開発事業にどのようなかかわりについて、大学側上層部の方針決定が必要である。(成果4の活動と重複し、密接な関連)</li> </ul>

成果2: 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。	現在の状況	備考
<p>活動</p> <p>2-1 後発28集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>2-2 先発8集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>2-3 対象36集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>2-4 対象36集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして定める。</p>	<p>具体的活動</p> <p>1) Selección de comunidades</p> <p>2) Ejecución y sistematización del Estudio Básico</p> <p>3) Sensibilización y capacitación</p> <p>4) Realización, ajuste y sistematización de las Planificaciones Participativas Comunales (PMC, PDC, PEC, POA y PIP)</p> <p>5) Elaboración POA comunal (por cada año)</p> <p>6) Evaluación y reajuste de los procesos establecidos</p> <p>7) Obtención de una metodología de intervención comunitaria</p> <p>1) Organización, conformación de Comités de Desarrollo Comunal y capacitación permanente - Fortalecer las carteras de la organización sindical</p> <p>2) Establecer Comité de Coordinación Nacional para la ejecución del proyecto DISSA 2KR</p> <p>3) Establecer y estructurar el sistema de ejecución del proyecto DISSA 2KR.</p> <p>4) Ejecución del proyecto DISSA 2KR en coordinación con el PASA.</p> <p>5) Seguimiento y monitoreo del proyecto DISSA 2KR</p> <p>6) Elaborar una guía de ejecución del proyecto de desarrollo rural (diseño detallado, ejecución, inspección y evaluación)</p> <p>1) Identificar alternativas rentables y establecer sistemas integrales productivos en base al plan desarrollo comunal (PDC, PEC)</p> <p>2) Diseño y elaboración de proyectos pilotos a pequeña escala, en base al plan desarrollo comunal (PDC, PEC)</p> <p>3) Ejecución, seguimiento, monitoreo y evaluación de proyectos piloto y actividades en general</p> <p>4) Realizar estudios de prefactibilidad para gestión de macro proyectos comunales, en base al plan desarrollo comunal según la gestión de financiamiento</p> <p>5) Seguimiento a la ejecución de los macroproyecto en base a la gestión de financiamiento</p> <p>6) Organización y conformación de grupos de jóvenes, mujeres y otros</p> <p>7) Implementar 3 Fincas Demostrativas y desarrollar actividades conservacionistas e implementar alternativas productivas.</p> <p>8) Promover la comercialización de productos agropecuarios y otros</p> <p>9) Apoyar a las comunidades en salud mediante convenios con programas que trabajan en el tema.</p> <p>10) Desarrollar replicas de las practicas implementadas en los predios de agricultores.</p> <p>1) Análisis de los procesos establecidos (ciclo del proyecto)</p> <p>2) Análisis de estrategias adecuadas para el desarrollo rural integral sostenible</p> <p>3) Definir la metodología adecuada para el desarrollo rural sostenible</p> <p>4) Elaborar un modelo de desarrollo rural sostenible desde la planificación hasta su implementación</p> <p>5) Presentación a instancias oficiales (aprobación e institucionalización)</p> <p>6) Difusión y socialización del modelo de desarrollo rural a las instituciones de desarrollo rural.</p>	<p>備考</p>
<p>2-1 後発28集落について、ベースライン調査、意識改革研修等を実施のうえ、集落開発計画を策定(作業中を含む)している。</p> <p>・POAIについては毎年作成しており、POA2012は現在作業中である。</p> <p>・2 KR見返り資金の活用(DISSA 2KR)が承認のため、活動2-3の中で開発事業が行われている。</p>	<p>・この活動は2 KR見返り資金を活用した事業を想定されたものと思われるが、同資金の活用が承認のため事業(DISSA 2KR)は行われていない。</p>	<p>・この活動は2 KR見返り資金を 活用した事業を想定されたものと思われるが、同資金の活用が承認のため事業(DISSA 2KR)は行われていない。</p>
<p>対象集落(33)において、プロジェクトが事業主体となりパイロットプロジェクトおよびミニプロジェクトとして事業を実施している。</p> <p>・このほかに市村が資金申請し承認された事業について、他機関が事業を実施している(草の根無償、Mi Agua, など)。</p> <p>・3つの地域(Zona)に3か所の展示場を設置し、栽培試験、技術の展示を行っている。</p> <p>・SFX大学看護学科の協力を得て保健指導を行っている。</p>	<p>・プロジェクトが事業主体となり実施する事業と、他機関が実施する事業とを活動項目の中で区分する必要がある。</p>	<p>・プロジェクトが事業主体となり実施する事業と、他機関が実施する事業とを活動項目の中で区分する必要がある。</p>
<p>開発モデルの取り継ぎは今後の活動になる。</p>	<p>・開発モデルの取り継ぎは今後の活動になる。</p>	<p>・開発モデルの具体的な内容を検討しておく必要がある。</p>

成果 3. 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。	現在の状況	備考
<p>活動</p> <p>3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省(農村開発土地省)が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p>	<p>現在の状況</p> <p>・活用可能な資金源に関する情報をデータベースとして整理済み。これを各市村のコンピュータにインストール作業を進めている。</p> <p>・ SEDERI, DIESU, SNV, CESATCHI, NORSURなど諸機関の支援を得るべく協定書の締結を進めている。</p> <p>・市村の計画担当者、県および大学の担当者を構成員とする「資金調達のための作業部会」を設置し、毎月会合を開催している。</p> <p>・データベースのインストールの際に村の普及員、村の幹部に対して資金調達に関する研修を実施している。</p> <p>・ APC(草の根無償)、Mi Agua、FPS、SEDERIなどに対し、申請書を提出している。</p> <p>・上記の「資金調達のための作業部会」において情報交換を行うとともに、資金申請・調達を行い、承認された案件については開発事業を実施している。</p>	<p>備考</p> <p>・大学のC/Pが中心になってデータベース化などの作業を進めていたが、彼の雇用契約が継続されなかつたため、現在大学の情報学部に支援を要請中。</p> <p>・農村開発土地省の支援、関与はない。</p> <p>・2008年2月に申請した2KR見返り資金については、対象集落が半減されたとえまだ承認されていない。</p>
<p>具体的活動</p> <p>1) Reorganizar el equipo de Gestión de Fondos y elaborar reglamento.</p> <p>2) Ordenar y sistematizar la documentación de instituciones financiadoras a las que se recurrió en la primera fase.</p> <p>3) Mejorar guía de recursos financieros en base a resultados.</p> <p>4) Recabar información sobre instituciones financiadoras que respondan a las líneas del Proyecto.</p> <p>5) Coordinar con Instituciones privadas y públicas que tienen presencia en el área de intervención del Proyecto.</p> <p>6) Actualizar base de datos para solicitar financiamiento a distintas Instituciones.</p> <p>1) Coordinar y planificar con el responsable del componente capacitación para realizar talleres ordinarios en Gestión de Fondos, dirigido a Técnicos y Planificadores Municipales y de la Gobernación y extraordinarios en función de oportunidades de financiamiento para los municipios.</p> <p>2) Realizar taller de capacitación para autoridades para operativizar la solicitud de financiamiento de fuentes internas y externas.</p> <p>1) Viabilizar el financiamiento de proyectos presentados en la primera fase.</p> <p>2) Designar tareas al equipo del componente para obtener los fondos de los proyectos priorizados en las comunidades.</p> <p>3) Coadyuvar la gestión de los Municipios ante instancias regionales, nacionales e internacionales diferentes Ministerios en la búsqueda de recursos financieros para preinversión e inversión destinados a proyectos priorizados en las comunidades.</p> <p>4) Coordinar con los Ministerios mediante la instancia pertinente, la canalización de recursos financieros.</p> <p>1) Consensuar con Municipios y Gobernación las contrapartes necesarias para ejecutar proyectos que cuentan con financiamiento.</p> <p>2) Elaborar convenios entre las Instituciones para cumplimiento de contrapartes institucionales.</p> <p>3) Coordinar con el equipo técnico del Proyecto para transversalizar la sensibilización en las comunidades, para garantizar la contraparte comunal en la ejecución de proyectos.</p> <p>4) Organizar reuniones de información periódica entre Municipios, Universidad y Gobernación manteniendo la voluntad para la obtención de recursos financieros necesarios conforme a los planes de desarrollo de las comunidades.</p>		

5) Seguimiento y evaluación de la gestión financiera para la ejecución de proyectos.				
活動	具体的活動	現在の状況	備考	
成果 4: 市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築され、整備される。				
4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するために必要な部署を設け、人員を配置する。	1) Diagnostico Institucional de los organismos contraparte, y analizar la estructura, los roles y funciones de las dependencias y/o unidades relacionados al desarrollo rural integral en actualidad. 2) Elaboración de un Plan de fortalecimiento institucional identificando las dependencias y/o unidades pertinentes en desarrollo rural integral. 3) Se establece y fortalece, las dependencias y/o unidades de cada institución contraparte de acuerdo al plan.	9市村のうち7市村およびSFX大学について現在の組織体制等に関する情報を収集し、現状を分析している。	成果4の責任者(Docente)が2011年5月に離任、後任が同8月に配置。	
4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかわる恒常的な予算枠を設ける。	1) Análisis y sistematización de los presupuestos actuales y los recursos financieros otorgados por las instituciones contraparte para las actividades comunitarias (Gobernación, Universidad, Municipio, etc.) 2) Elaboración de un plan presupuestaria financiero necesario de las instituciones de contraparte para garantizar la sostenibilidad de las actividades de desarrollo rural integral. 3) Las instituciones de contraparte (Gobernación, Universidad, Municipio), gestionan y aseguran el presupuesto para las actividades comunitarias, y la sostenibilidad del sistema de implementación.	9市村のうち7市村およびSFX大学について予算の推移等に関する情報を収集し、現状を分析している。		
4-3 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。	1) Gestionar una dependencia del Centro de Desarrollo Rural Universitario (CDRU), para el Desarrollo Rural. 2) Elaboración de un Plan Estratégico de CDRU que contemple sus normativas y reglamentos específicos. 3) Aprobación estatutos (Investigación capacitación, etc.) del CDRU según estatuto vigentes de la Universidad.	今後の活動	成果4の活動1-4と関連あり。	
4-4 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。	1) Elaboración de una estrategia normativa jurídica que garantice el funcionamiento del sistema institucionalizado establecido para el Desarrollo Rural Integral. 2) Aprobación de la normativa jurídica en instancias competentes.	今後の活動		

5. チュキサカ県北部地域の郡・市村別の充足していない基本的ニーズの指数（2001年）

（単位：％）

市村名	住宅		サービス及び電気		教育が不十分	保健サービスが不適切
	材料が不適切	居住空間が不十分	水・衛生サービスが不適切	電気が不適切		
ボリビア国全体	39.1	70.8	58.0	43.7	52.5	37.9
チュキサカ県全体	53.7	72.1	62.2	62.5	70.7	40.4
Oropeza郡	22.6	68.9	37.8	27.8	50.3	37.1
Sucre市	17.2	67.4	31.8	19.8	45.2	34.2
Yotala村	21.9	70.7	68.3	80.5	85.3	N.A.
Poroma村	91.5	87.3	96.5	99.7	96.0	78.0
Jaime Zudáñez郡	77.9	75.7	82.7	93.8	91.3	70.2
Zudáñez村	64.2	72.8	78.8	86.7	88.9	N.A.
Presto村	88.5	81.2	92.8	98.1	95.7	85.9
Mojocoya村	79.2	71.9	87.4	90.3	84.8	92.8
Icla村	77.3	76.1	72.0	98.2	94.5	41.3
Yamparáez郡	68.3	67.7	85.8	92.2	92.7	51.3
Tarabuco村	75.8	67.0	83.9	91.4	93.0	75.1
Yamparáez村	53.8	69.2	89.5	93.6	92.0	4.9

出典：2001年センサス(INE: 統計局)

N.A.: データなし

6. PDM2 と PDM3 の比較表

Version 2	Version 3	Version 2 指 標	Version 3 指 標
<p>プロジェクト要約</p> <p>上位目標</p> <p>チュウキサカカ県内に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。</p>	<p>プロジェクト要約</p> <p>上位目標</p> <p>チュウキサカカ県北部地域に農村開発モデルが普及し、小農の生活水準が改善される。</p>	<p>【指標 1】チュウキサカカ県の72集落以上で農村開発モデルが活用されている。</p> <p>【指標 2】チュウキサカカ県において農業生産性が向上している。</p> <p>【指標 3】チュウキサカカ県の農村の収入が向上している。</p> <p>【指標 4】チュウキサカカ県のUBN(充足されていない基本的ニーズ数)が減少している。</p>	<p>【指標 1】チュウキサカカ県北部地域の72集落以上で農村開発モデルを活用した農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 2】農村開発モデルが活用された集落でのサンプリング調査において調査対象者の70%以上が農村開発モデル活用前に比べて生活水準が向上していると認識している。</p>
<p>プロジェクト目標</p> <p>チュウキサカカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じて、農村開発モデルと実施体制が確立される。</p>	<p>プロジェクト目標</p> <p>チュウキサカカ県北部地域における農村開発事業の実施を通じて、農村開発モデル(注1)と実施体制(注2)が確立される。</p>	<p>【指標 1】農村開発事業計画から資金申請を含む実施の度合い(資金獲得額と農村開発事業の実施状況)。</p> <p>【指標 2】県庁と大学及び各市村に農村開発担当部署が設置され、農村開発部署の業務内容が条例、規則の中で規定される。</p>	<p>【指標 1】農村開発モデルとして提示できる優良事例が各市村で1件以上実施されている。</p> <p>【指標 2】県、SFX大学及び各市村に農村開発モデルの実施に必要な人員が配置されている。</p> <p>【指標 3】SFX大学農学部(総合農村開発事業を支援する研究)普及人材育成を担当する部署が設置され、必要な人員が配置されている。</p>
<p>成果</p> <p>成果 1: 集落と市村(実施機関)、県庁と大学(支援機関)に農村開発事業の中核人材が養成される。</p>	<p>成果</p> <p>成果 1: 集落、市村、県庁及びSFX大学に総合農村開発事業の中核人材が養成される。</p>	<p>【指標 1】10名の大学教員、8名の県の技術者が、9名の市村の普及員、9名の市村の計画担当者および各集落の住民リーダー(少なくとも受益者の10%)が、それぞれ育成されている。</p> <p>【指標 2】研修実施結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。</p> <p>【指標 3】SFX大学の研究・普及・人材育成を担当する部署において、技術者研修年1回、農民研修年2回程度実施される。</p>	<p>【指標 1】10名の大学教員、8名の県の技術者が、9名の市村の普及員、9名の市村の計画担当者および各集落の住民リーダー(少なくとも受益者の10%)が、それぞれ育成されている。</p> <p>【指標 2】研修実施結果を反映した研修教材・カリキュラムが整備されている。</p> <p>【指標 3】SFX大学の研究・普及・人材育成を担当する部署において、技術者研修年1回、農民研修年2回程度実施される。</p>
<p>成果 2: 集落開発計画に基づいた農村開発事業の実施を通じて、農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。</p>	<p>成果 2: 集落開発計画に基づいた総合農村開発事業の実施を通じて、総合農村開発事業の計画から実施までのプロセスがモデル化される。</p>	<p>【指標 1】対象9市村の36集落がそれぞれ集落開発計画を有する。</p> <p>【指標 2】対象36集落において、集落開発計画に基づいた農村開発事業が実施されている。</p> <p>【指標 3】農村開発事業の計画から実施までのプロセスが農村開発モデルとしてまとめられている。</p> <p>【指標 4】対象36集落において、農村開発の状況が改善されている。</p>	<p>【指標 1】対象9市村の36集落がそれぞれ集落開発計画を有する。</p> <p>【指標 2】対象36集落のミニプロジェクト及びハイロットプロジェクトのミニプロジェクトの評価結果に基づき、自然資源保全・生活向上のために活用可能な技術リストが整理されている。</p> <p>【指標 3】総合農村開発事業の参加型の計画策定、実施、モニタリング及び評価の手法が開発事業のサイクルとしてまとめられている。</p>
<p>成果 3: 市村、県庁により、農村開発事業実施のための開発資金が調達される。</p>	<p>成果 3: 市村、県およびSFX大学により、総合農村開発事業実施のための内部及び外部の開発資金が調達される。</p>	<p>【指標 1】支援機関が実施すべき資金調達手続きがまとめられている。</p> <p>【指標 2】普及員や市村の計画担当者および県の行政官が各種資金申請手続きを理解している。</p> <p>【指標 3】市村や県庁が独自予算により対応できず、対応可能な資金源が存在する計画について、適切な申請書類が作成されている。</p> <p>【指標 4】対象36集落において調達された資金が活用されている。</p>	<p>【指標 1】資金調達手続きがまとめられている。</p> <p>【指標 2】普及員や市村の計画担当者、県及びSFX大学の担当者が各種資金申請手続きを理解している。</p> <p>【指標 3】対象36集落において総合農村開発事業の資金調達のために、適切な申請書類が作成されている。</p> <p>【指標 4】9市村の対象36集落において調達された資金が活用されている。</p>
<p>成果 4: 市村、県庁および大学において、持続的総合農村開発事業の実施のための組織体制が構築される。</p>	<p>成果 4: 市村、県およびSFX大学により、チュウキサカカ県北部地域の総合農村開発の方向付けを行うための組織体制が構築される。</p>	<p>【指標 1】市村、県庁、大学に農村開発に携わる部署、人員が配置されている。</p> <p>【指標 2】同部署の存続および活動に必要な予算措置が講じられている。</p>	<p>【指標 1】チュウキサカカ県北部の総合農村開発に取り組むための調整委員金が設置され、その中で、市村、県およびSFX大学の役割分担が合意される。</p> <p>【指標 2】調整委員会が、総合農村開発の活動を協議・調整するため</p>



<p>れ、整備される。</p>	<p>【指標3】 大学の人材育成を目的とした農村開発部署が設置され、関連の規則が定められる。 【指標4】 市村、県庁において農村開発事業の計画策定・資金調達・事業実施を支援する部署が設置され、条例等規則が定められる。</p>	<p>に定期的に開催されている。</p>
-----------------	--	----------------------

<p><b>活動</b></p> <p>活動 1-1 プロジェクトの技術者チーム(大学教員や技術者)に対して持続的農村開発に必要な技術・手法の研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 技術者チームが、普及員や集落住民に対して参加型農村開発手法・有用技術等に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修内容を向上させる。</p> <p>活動 1-4 大学の農村開発センターに域内および国内に提供し得る人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 2-1 後発 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 先発 8 集落において農村開発事業を実施(詳細設計・実施・検査)する。</p> <p>活動 2-3 対象 36 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象 36 集落での開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 小規模雑用水、農道整備等ある程度以上の規模の資金申請について、農業農村開発環境省が、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 市村および県庁が、各々の集落の開発計画に沿って事業実施に必要な資金を調達する。</p> <p>活動 4-1 実施機関および支援機関に、農村開発事業の計画から実施までを適切に運営・支援するたために必要な部署を設け、人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 実施機関および支援機関に、実施体制の存続や活動にかかる恒常的な予算枠を設ける。</p> <p>活動 4-3 農村開発人材育成が適切かつ継続的に実施されるよう、大学内に部署を設け、業務内容を規定に定める。</p> <p>活動 4-4 農村開発事業が継続的に実施されるよう、市役所、村役場では市村の規則で、県庁では県の条例等で農村開発担当部署の設置と業務内容について言及する。</p>	<p><b>活動</b></p> <p>活動 1-1 プロジェクトの技術者チーム(大学教員や技術者)に対して持続的農村開発に必要な技術・手法の研修を実施する。</p> <p>活動 1-2 技術者チームが、集落住民に対して自然資源の保全、持続的農牧業開発に必要な技術に関する研修を実施する。</p> <p>活動 1-3 前フェーズで作成した研修教材とカリキュラムを見直し、研修の質を向上させる。</p> <p>活動 1-4 SFX 大学に設置される農村開発事業を支援する部署において、人材育成システムを整備する。</p> <p>活動 2-1 フェーズ2で新規に選定された 9 市村中の 28 集落において集落開発計画を策定する。</p> <p>活動 2-2 対象 36 集落において、自然資源保全のための活動(土壌保全、植林)を実施する。</p> <p>活動 2-3 フェーズ2対象の 9 市村の対象 36 集落において小規模パイロット事業を実施する。</p> <p>活動 2-4 対象集落において外部資金により実施される農村開発事業について協議・調整を行う。</p> <p>活動 2-5 開発事業のプロセスおよび結果を分析し、計画から実施までの最適なプロセスを、農村開発モデルとして纏める。</p> <p>活動 2-6 農牧技術の導入促進のための展示場場の設置・運営を行う。</p> <p>活動 2-7 対象集落で保健衛生・栄養面の啓蒙活動を行う。</p> <p>活動 3-1 フェーズ1で調査された開発資金源のうち、活用可能な資金源に関する資金調達の手続きを明確にする。</p> <p>活動 3-2 普及員や市村の計画担当者、県の行政官に対して、資金調達に関する研修を実施する。</p> <p>活動 3-3 農村開発・土地省が、小規模雑用水やその他の事業の資金申請について、市村及び県庁の申請書類の作成を支援する。</p> <p>活動 3-4 関係機関が、総合農村開発のための活動と実施体制の存続のために必要な予算を確保する。</p> <p>活動 4-1 関係機関に、農村開発事業の計画から実施のための必要な人員を配置する。</p> <p>活動 4-2 SFX 大学内に農村開発のための研究・普及・人材育成を担当する部署を設け、その役割等を大学の組織体制の中に位置づける。</p> <p>活動 4-3 総合農村開発事業の継続性確保のため、市村および県が各々の組織憲章(Carta Organica)及び組織図に農村開発担当部署を記載する。</p> <p>活動 4-4 チュキサカ県北部地域の総合農村開発に取り組むための市村、県および SFX 大学による調整委員会を設置する。</p>
--	--

7. 評価グリッド

1. 評価グリッド

5 項目 その他	評価設定		調査結果																																	
	大項目	小項目																																		
妥当性	プロジェクト目標及び上位目標は、対象地域・社会のニーズに合致しているか。	チュキサカカ州北部地域における農村開発モデルの確立及び実施体制の確立の必要性	<p>国土の約5%を占め、溪谷地帯に属するチュキサカカ州北部地域は、貧困率92.5%、極貧率87.8%（2001年人口センサス：スクレ市街地を除く）であり、ボリビア国内で最も貧困割合が高い地域の一つである。同地域は乾燥した気候帯に属するうえに、溪谷地帯の限られた耕作適地において収穫的な農業が行われてきた結果、土壌侵食や水資源の枯渇が進行しており、耕作適地の減少や農地の生産性低下を引き起こしている。同地域の住民の多くは、自給的な農業を営む農民であり、農業生産性の低下により、住民の生活は困窮している。伝統的な農牧生産物の生産向上による食糧生産増加とともに、他の収入源創出を通じて生産向上も必要とされている。本プロジェクトは、自然資源の回復と保全(recuperación y conservación de recursos naturales)、農業開発(desarrollo agropecuario)、社会開発(desarrollo social)といった総合的農村開発を通じて、農村住民の食糧生産増加や代替収入源創出等を図り、農村住民の生計向上に寄与しようとするものであり、また、参加型開発計画作成を通じて農村住民のニーズに沿った事業を進めていることから、対象地域・社会のニーズやターゲット・グループのニーズに合致していると言える。</p>																																	
	ターゲット・グループのニーズに合致しているか。	(PDM 上のターゲット・グループ：チュキサカカ州北部地域)の9市村の、対象36集落	<p>対象市村の貧困度と人間開発指数は下表のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>市村</th> <th>貧困度 (%)</th> <th>人間開発指数 (IDH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sucre Rural</td> <td>94.5</td> <td>0.688</td> </tr> <tr> <td>Yotala</td> <td>70.3</td> <td>0.534</td> </tr> <tr> <td>Mojochoya</td> <td>92.3</td> <td>0.497</td> </tr> <tr> <td>Yamparaez</td> <td>93.2</td> <td>0.481</td> </tr> <tr> <td>Zudanez</td> <td>86.4</td> <td>0.472</td> </tr> <tr> <td>Tarabuco</td> <td>93.7</td> <td>0.406</td> </tr> <tr> <td>Icla</td> <td>99.0</td> <td>0.405</td> </tr> <tr> <td>Poroma</td> <td>99.3</td> <td>0.389</td> </tr> <tr> <td>Presto</td> <td>97.5</td> <td>0.347</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>58.6</td> <td>0.641</td> </tr> </tbody> </table> <p>資料： INE2011、Sucre Ruralの人間開発指数は、スクレ市都市部を含む。</p>	市村	貧困度 (%)	人間開発指数 (IDH)	Sucre Rural	94.5	0.688	Yotala	70.3	0.534	Mojochoya	92.3	0.497	Yamparaez	93.2	0.481	Zudanez	86.4	0.472	Tarabuco	93.7	0.406	Icla	99.0	0.405	Poroma	99.3	0.389	Presto	97.5	0.347	全国平均	58.6	0.641
市村	貧困度 (%)	人間開発指数 (IDH)																																		
Sucre Rural	94.5	0.688																																		
Yotala	70.3	0.534																																		
Mojochoya	92.3	0.497																																		
Yamparaez	93.2	0.481																																		
Zudanez	86.4	0.472																																		
Tarabuco	93.7	0.406																																		
Icla	99.0	0.405																																		
Poroma	99.3	0.389																																		
Presto	97.5	0.347																																		
全国平均	58.6	0.641																																		
	本プロジェクトが目指す効果は、ボリビア国の開発政策に合致している	国家計画等で農村開発のための実施体制整備が優先課題として位置付けられているか。	<p>ボリビア国チュキサカカ州北部は同国のなかでも最も貧困の度合いが大きい地域であり、対象地域の多くの市村では、貧困率が90%を超えており、また人間開発指数はスクレ市を除いてほとんどが、0.5以下という劣悪な状況にある。本プロジェクトのターゲット・グループは、農村部の農民であり、貧困削減の観点から見て、貧困削減に繋がる事業の実施の必要性が高い。</p> <p>国家開発計画（2006～2011年）(Plan Nacional de Desarrollo)の柱の一つは、生産力向上 (Bolivia Productiva) である。農村開発・土地省の農村セクター開発計画 2011-2015 (Plan de Desarrollo Sectorial Agropecuario 2011-2015)では、食糧統治を旨とした農村開発への様式変更 (cambiar el patrón de desarrollo rural hacia la soberanía alimentaria) を目的に掲げ、8つの政策 (8 políticas sectoriales)</p>																																	

<p>か。</p> <p>日本の援助政策・JICAの援助実施方針との整合性はあるか。</p>	<p>対ボリビア国援助方針との整合性はあるか。</p>	<p>を示している。その政策には、食糧安全と食糧統治のための農牧生産(Producción Agropecuaria para la Seguridad y Soberanía Alimentaria)、生産的な農牧開発(Desarrollo Agropecuario Productivo)、収入創出と持続性のある農牧生産物余剰(Generación de Ingresos y Excedentes Agropecuarios Sostenibles)、灌漑水へのアクセス(Acceso al Agua para Riego)が含まれている。本プロジェクトは、総合農牧開発を通じて農村住民の生計向上に寄与する目的を有することから、ボリビア国政府の政策に合致していると言える。</p>
<p>手段としての適切性</p>	<p>プロジェクトのアプローチ、対象地域の選択は適切であったか。</p>	<p>日本政府は、「貧困削減のための社会開発支援」及び「持続的経済成長のための支援」を支援の柱とし、重点分野の一つは、社会開発であり、地方開発に関わる協力を貧困削減の観点から重視している。また、本プロジェクトは、「小規模農家の貧困削減プログラム」の中のプロジェクトの一つに位置づけられている。したがって、農村住民の生活水準の向上を目指す本プロジェクトは、日本政府の援助方針と合致している。</p>
	<p>プロジェクトのアプローチ、対象地域の選択は適切であったか。</p>	<p>傾斜地が多く土壌侵食が生じやすい地域で、また年間雨量も少ないチュキサカカ県北部地域において、自然資源の回復・保全（土壌保全と植林）を基礎として、農牧業生産向上や代替収入源の創出といった活動を通じて、持続的な農村開発を進めるためのモデル作り（農村開発事業の進め方とその実施体制作り）を行っている本プロジェクトのアプローチは、本地域で、持続性の農村開発を進展させるために有効なアプローチであると考える。</p>
	<p>ターゲット・グループ（対象36集落）の選定及びその規模は適正だったか。</p>	<p>当初、9市村で36集落を対象とする計画であったが、一つの村役場の参加が得られなかったため、8市村33集落でプロジェクト活動が実施されている。33集落の総世帯数と人口は、約2,000戸、約10,000人である。本プロジェクトの対象地域の多くの農家は、点在して居住している。そのため、例えば、灌漑施設整備を考えた場合、すべての農家に平等に裨益するようなシステムを作ることは費用的に困難かつ不経済である。集落の代表として一戸の農家又は数人の特定グループに対して灌漑施設整備をおこなった場合、当該農家が植林活動実施、収穫物の学校への供給、集落メンバー・訪問者への事業効果の説明などの負担を行うことを義務として課しており、効果・費用のバランスをとるよう配慮している。このようにできるだけ公平な受益となるような考慮がされている。</p>
	<p>ターゲット・グループ以外への波及性はあるか。</p>	<p>本プロジェクトでは、農村開発事業のモデルを構築し、さらにその実施体制も築くことで、持続性を確保しつつ、農村開発事業が継続することを目指しており、モデル構築と実施体制の整備が良好に進展すれば、本プロジェクトのターゲット・グループ以外に波及することが可能となる。</p>
	<p>日本の技術の優位性はあるか。</p>	<p>日本国は、1999年から2008年にかけて、チュキサカカ県で土壌侵食防止を目的とした農業農村開発計画の策定技術及び侵食防止についての実証調査を行い、その後、2006年から2008年まで、人材育成システムの確立、住民のニーズ発掘および住民主体の計画策定手法の確立、そして公的資金を活用するための資金調達メカニズムの整理を目的として、4市村8集落を対象に、本案件のフェーズ1プロジェクトが実施した。本プロジェクトではこれまでの資金調達メカニズムの整理を目的として、4市村8集落を対象に、本案件のフェーズ1プロジェクトが実施した。本プロジェクトではこれまでの協力事業の知見や経験を活用できるほか、JICAは中南米諸国において多くの農村開発プロジェクトを実施してきたこと、その知見や経験の活用も可能である。</p>

5項目	評価設問		調査結果
	大項目	小項目	
有効性	プロジェクト目標は、達成される見通しか？ 「チュキサカ果北郡地域における農村開発事業の実施を通じ、農村開発モデルと実施体制が確立される。」		プロジェクト前半では、県・市村のカウンターパーターの大幅な交替があったが、プロジェクト後半においては、カウンターパーターの継続性が高まり、それに伴って、プロジェクト活動がより円滑に進捗し、より高い成果が発現することが期待される。また、上記のとおり、「農村開発モデルと実施体制の確立」の意味の明確化を行ったので、プロジェクト終了時における到達点の理解の共有が容易となると考える。今後、農村開発事業の実施体制の構築により努力を傾注しつつ、プロジェクト活動を進めてゆけば、プロジェクト目標を達成する見込みは高いと判断する。
	プロジェクトのアウトプットはプロジェクト目標達成するために十分であったか？	アウトプットは、プロジェクト目標達成するために十分であったか？ 「アウトプットがすべて達成されればプロジェクト目標は達成されるだろうか。」	本プロジェクトでは、4つの成果、すなわち、1) 農村開発事業に従事する中核人材の育成、2) 農村開発事業の計画から実施までのプロセスのモデル化、3) 農村開発事業のための資金調達、4) 農村開発事業実施のための実施体制の整備、の達成を通じて、プロジェクト目標の達成を目指している。その論理構成は、適切であると判断される。
	外部条件の影響	1. 関係機関の政策が変わらない。 2. プロジェクトのカウンターパーターが大幅には変わらない。	関係機関の政策には、大きな変更はない。ただし、選挙後、自治体首長が交代すると、職員の大半も交替するのが、ポリビアの実情である。そのため、本プロジェクトのカウンターパーターのうち、チュキサカ果のカウンターパーターと対象市村の普及員や計画担当の大半が交替してしまっている。このため、これら人材の能力強化面を、新規雇用者に再度、実施する必要があるが生じている。大きな影響を受けている。なお、今後、プロジェクト終了までには、地方自治体の首長選挙はないので、今後のカウンターパーターの継続性は改善するものと思われる。
	プロジェクト以外に貢献した要因はあるか。		これまでのところ、特に貢献している要因は見当たらない。
	プロジェクト目標達成を阻害する要因はあるか。		農村開発に関わる関係機関間の役割分担が明確化され、関係機関間の調整・協力が円滑に進むことが、プロジェクト目標を達成するうえで重要である。

5項目	評価設問		調査結果
	大項目	小項目	
効率性	アウトプットは、達成される見込みであるか。		本プロジェクトでは、4つの成果のうち、3つまでの成果、すなわち、1) 農村開発事業に従事する中核人材の育成、2) 農村開発事業の計画から実施までのプロセスのモデル化、3) 農村開発事業のための資金調達、については、順調に成果を上げつつあり、このまま順調に進捗すれば、十分な達成度合いを達成できると考えられる。成果の4番目、すなわち、4) 農村開発事業実施のための実施体制の整備、については、プロジェクト後半に注力すべき項目である。
	達成されたアウトプットからみて、投入の質・量・タイミングは適切か。	日本人専門家派遣の人数、専門分野・能力、派遣のタイミング・期間 は適切か。 供与機材の種類、量、供与時期は適切か。	1) 現地リーダーが派遣されている。2) 参加型開発制度は、3) 業務調整研修である。また、短期専門家として、チームアドバイザーが派遣されている。当初計画どおりの派遣であり、カウンターパーターへの質問票の回答結果からみて、日本人専門家の派遣は、適切であると判断される。 オートバイ、ビックアップトラック、小型バスなどの車輦、コンピュータやプリンター等の事務機器などが供与された。供与機材の種類、量などは適切であると判断される。

<p>研修員受け入れの人数、内容、時期などは適切か (本邦研修・第三国研修)</p>	<p>中間レビュー時点で、本邦研修に3名、第三国研修(エクアドル)に4名が参加した。第三国研修の効果は高いと見られるので、今後もさらに、カウンタートパートの知見や経験を高めるために、研修を活用することが望まれる。</p>
<p>カウンタートパートの人数、配置のイメージ、能力は適切か。</p>	<p>2011年9月時点で、計36人のカウンタートパートが配置されている。内訳は、SFX 大学が11人、チュキサカ県が9人、プロジェクト対象地域の市村が16人である。SFX 大学のカウンタートパートの場合、一部交替があるものの、チュキサカ県や市村の普及員及び計画担当に比べれば、定着性が良好である。一方、チュキサカ県の技術者と市村の普及員及び計画担当の場合、自治体の選挙後、その大半が交替している。また、市村の計画担当者の本プロジェクトへの参加度が低いことも課題である。</p>
<p>事務室等の規模、利便性は適切か。</p>	<p>SFX 大学農学部棟の建物内にプロジェクト事務局が設けられている。また、以前の協力時に大学側に供与した車輛も利用しているほか、その車輛の車庫も利用している。</p>
<p>ボリビア側のプロジェクト予算は適切な規模か。</p>	<p>SFX 大学、チュキサカ県庁、対象8市村は、それぞれ、カウンタートパートの人員費の負担、ミニプロジェクト実施に関わる費用の負担等を行っている。市村によって、負担金額に差があるが、概ね適切な予算支出が行われていると思われる。</p>
<p>ボリビア側関係機関間の連携(連絡・調整)が、円滑に行われているか。</p>	<p>関係機関間の連携については、必ずしも良好とは言えず、チュキサカ県庁及び対象市村の幹部職員の本プロジェクトへの認識・理解が必ずしも十分とは言えない状況が見られた。</p>
<p>投入は十分活用されているか。</p>	<p>供与機材は概ね有効に利用されていると思われる。</p>
<p>活動内容はアウトプットを生むのに適切だったか。</p>	<p>特になし。 特になし。</p>
<p>他の JICA 事業との連携や他ドナー機関との協力による成果があるか。</p>	<p>特になし。プロジェクト対象地域に、農村開発分野の協力隊員が活動しているが、JICA 事務所による情報提供も特にないため、連携活動は、現在のところない。JICA 事業との連携については、現地 JICA 事務所が主体的に判断して、必要な連携が実施できるようアレンジすることが望ましいと考える。</p>
<p>効率性を阻害した要因はあるか。</p>	<p>既述のとおり、カウンタートパートの定着性は良くない。 プロジェクト対象市村の首長を始めとする自治体幹部の本プロジェクトの活動内容や成果に対する認知・関心が少ない事例が見られる。自分たちのプロジェクトであるとの認識に欠けるきらいがある。</p>

5 項目	<p>評価期間</p>	調査結果
インパクト	<p>大項目 小項目</p>	<p>個別農家レベルでは、上位目標達成につながりうるインパクトが確認されている。これが面的に広がって上位目標達成にいたるには、初期投資の確保、販売マーケットの確保など、さらに今後取り組むべき課題が残っている。このため、ボリビア側が持続的に農村開発に取り組むための実施体制を整備することが重要である。</p>

	上位目標を達成するために必要な方策が考えられているか。	上記の述べたように、ボリビア側が積極的に農村開発に取り組むための実施体制の整備が重要であり、これについては、プロジェクトの後半に、体制整備が進められる。また、農村開発をプロジェクト対象以外の集落に拡大・展開していくためには、そのための予算確保が最も重要な点である。本プロジェクトでは、外部資金の調達についてのデータベースを作り、外部資金へのアクセスが容易となるよう活動を進めているので、これがさらに進展すれば、一定の予算獲得能力が得られるものと期待される。ただし、積極的に農村開発を進めるためには、内部資金の活用、ならびに関係政府機関の予算も積極的に活用できるようになることも必要であり、この点に関する能力強化も必要になる。
上位目標達成のための外部条件が影響する可能性	1. ボリビアの農村開発に関する国家政策が変わらない。	ボリビア政府は、貧困削減や生産性向上を主要な政策目標に掲げており、農村開発を重視する国家政策は変わらないものと見込まれる。
カウンタートパーパートへの影響	仕事への取り組み意欲、意識の変化の有無	カウンタートパーパートに対する質問票調査結果からは、多くのカウンタートパーパートが、仕事への取り組み意欲向上や意識の変化が見られる。一般的に政府職員の中には、理論面だけの知識で、現場の事情を良く知らず、知識のみあるいはこうあるべきとの考えを披瀝する技術者もいるが、今回の現地調査を通じて、本プロジェクトのカウンタートパーパートの中には、現場の事情を良く理解・把握しつつ、的確に農村開発事業を進めている者がいることが確認できた。
ターゲット・グループ以外に波及した影響はあるか	これまでのプロジェクト活動を通じて、ターゲット・グループ以外へ波及したインパクトの事例があるか。	波及効果としてはまだ限定的であるものの、以下のようなプラスのインパクトが観察された。 (1) 近隣の農家が、展示圃場やプロジェクト対象農家の圃場や植林用苗木の視察に多く訪問しており、波及効果が期待できる。プロジェクトメンバーからの聞き取りでは、すでにテラス工法が近隣農家に取り入れられている。また、他の集落からプロジェクトに参加したいとの要望が寄せられている。 (2) 集落では女性の参加が促進されている。 (3) 集落住民の資金管理能力が向上している。
その他の正負のインパクト	その他のインパクト	上記の通り。

5 項目	評価設問		調査結果
持続性 (見込み)	大項目	小項目	すでに述べたように、国家開発計画では、生産性向上 (Bolivia Productiva) が重視され、また農村セクター開発計画 2011-2015 では、食糧統治を目指した農村開発が目的となっている。チュキカカ県の開発計画 2009-2015 の生産面の開発政策では、包摂的な生産的開発 (desarrollo productivo con inclusion) や自然資源・環境が政策軸に含まれ、農村開発面では、多機関間の活動の構造やネットワークの構築・強化 (establecimiento y fortalecimiento de estructuras y redes de acción interinstitucional, sinérgica y concurrente) も政策に含まれている。したがって、今後も引き続き、中央政府ならびに県庁は、農村開発とその他の実施体制強化を重視していくと考えられ、政策面での持続性は確保されるものと考えられる。

<p>カウンタートパート機関（農業農村開発課長室、チェキサカカ県庁、サン・フランシスコ・ハビエル大学、対象の9つの市村役場）等では、本プロジェクトがどのようなように認識されているか。</p>	<p>SFX 大学には、本プロジェクトのプロジェクト事務局があり、日本人専門家が常駐している。また、SFX 大学のカウンタートパートのコミュニケーションの機会も多いことであって、大学側の本プロジェクトに対する理解度・認識度は高い。一方、チェキサカカ県庁の場合、対象8市村を担当する技術者を7名配置しているが、本中間レビュー調査時に、これらカウンタートパートの人員削減が近々実施されるのではないかとのおわさが持ち上がっていた。7名の技術者は、それぞれ担当する市村に居住し、県庁に対しては定期的に報告を上げているが、県庁幹部職員の本プロジェクトに対する理解度は必ずしも十分ではないと見受けられた。そのため、本中間レビューに際し、県庁幹部職員に、カウンタートパート技術者の人数を削減することがないよう、申し入れを行った（県の生産局長表敬時に依頼し、その後、別途計画局長面談時に依頼した）。</p> <p>対象の8市村については、面談できた首長は2名程度であるが、いずれの場合も、本プロジェクトでどのような成果が上がりつつあるのか、良く認識していないことがほぼ確認された。基本例には、市村の首長ならびに幹部職員が、本プロジェクトを自分たちのプロジェクトであると認識していない点の問題である。</p> <p>この点については、プロジェクト活動の内容を簡易に紹介する定期的刊行物（広報誌）を配布し始めたので、今後、改善することが期待される。</p>
<p>制度面： 本プロジェクトが確立を図っている「農村開発モデル」とそのための「実施体制」は、制度的に持続性が高いかどうか。</p>	<p>本中間レビュー調査において、「農村開発モデル」および「実施体制」の用語の定義を明確化した。農村開発モデルの構築と、持続可能な実施体制の整備は、プロジェクト後半における重要な活動になる。</p>
<p>カウンタートパート機関に、本プロジェクトの成果を活用・発展させていくために必要な組織体制があるかどうか、また、職員の継続性が確保されているかどうか。（組織面）</p>	<p>SFX 大学においては、本プロジェクトの活動を継続的に実施していくため、農学部で農村開発に関わる研究・普及・人材育成を担当する部署を設置する計画がある。この部署が公式に設置され、農村開発に関わる各種事業を持続的に実施できる体制になれば、チェキサカカ県内で農村開発に関わる能力向上を主導する組織として継続的な活動が期待できる。</p> <p>県および市村については、計画部門の職員については既存の組織体制において農村開発事業を進めているものの、なお、技術者の配置については、プロジェクトベースでなされているのが実情であり、プロジェクト予算が確保できない場合には、人材の不足が懸念される。</p> <p>短期集中的に活動が終了するインフラ整備や種子肥料等の配布事業と異なり、本プロジェクトにおいては、参加型の計画作りから農牧技術指導、モニタリング等を一貫して実施するものであり、週に一回程度、技術者が継続的に巡回指導することが必要である。したがって、効果的な農村開発を進めていくためには、少なくとも現状と同程度の技術者の配置が、県および市村において必須になると考えられる。なお、現在、本プロジェクトの農村開発事業において、関係機関の役割分担の規程はあるものの、その見直しが必要である。また、SFX 大学、チェキサカカ県庁、及び市村により、プロジェクト活動にかかわる調整・協力・連携を行う調整委員会を設置し、定期的に開催する必要がある。さらに将来的には、チェキサカカ県北部地域の農村開発事業実施に向けた具体的な開発計画の作成、及び他の国内政府機関、NGO、他ドナー機関との調整・協力・連携を模索していく必要がある。</p>

<p>カウンターパート機関には、本プロジェクトの成果を活用・発展させていくために必要な資金が確保されているかどうか、あるいは資金を獲得する能力を身につけているかどうか。(資金面)</p>	<p>プロジェクト終了後における、チェキサカ県庁、サン・フランシスコ、ハビエル大学、対象の9つの市村役場の資金獲得能力。</p>	<p>本プロジェクトに参加している県庁、8つの市村及びSEF 大学は、プロジェクト活動に対する予算支出を行っている。また、プロジェクト活動を通じて、資金支援に関わる外部機関（国内及び国外）への資金申請手続きが取りまとめられ、8市村及び県庁の計画担当等がその資金申請手続きを理解し、いくつかの市村では、すでに資金申請を行って、資金を獲得している。プロジェクトの残り期間に、さらに外部機関への資金申請を継続していくことで、資金獲得能力が向上するものと期待される。</p>
<p>カウンターパート機関間の連携が良好に維持されるかどうか。連携を継続するためのメカニズムが明確かどうか。</p> <p>カウンターパート機関の関係職員は、本プロジェクト終了後も、本プロジェクトの「農村開発モデル」を継続実施できる能力を身につけているかどうか。(技術面1)</p> <p>本プロジェクトの提案している「農村開発モデル」とそのための「実施体制」は、対象の地方自治体以外へも容易に移転できる技術であるかどうか。(技術面2)</p>	<p>チェキサカ県庁、サン・フランシスコ、ハビエル大学、対象の9つの市村役場のカウンターパートの技術獲得水準が適切であるかどうか。</p> <p>「農村開発モデル」とそのための「実施体制」の波及性。</p>	<p>関係機関間で良好な連携を図ることは、本プロジェクトのこれからの課題であり、どのような役割分担で、どのように連携していくか、これから十分検討する必要がある。</p> <p>本プロジェクトに参加しているカウンターパートの技術的能力については、SEF 大学の教官の場合、国外及び国内での経験・経歴を交換交流への参加、研修講師としての参加、プロジェクト現場での活動を通じて、その指導者としての能力(知識・経験)を高めている。大学教官の場合の定着性は比較的高いので、技術面での持続性が確保されるものと期待される。</p> <p>県および市村の技術者の場合、技術者向けの研修参加、農村開発事業の計画作成、対象集落における各種農村開発事業実施における農村住民への指導・モニタリングを通じて、その知識・経験が蓄積されている。ただし、県や市村の長の選挙毎に、職員も大幅に交替するのが通常であり、本プロジェクト期間中にも多くのカウンターパートが交替している。県および市村所属の技術者の技術面の持続性を確保することには困難が伴う。このため、県及び市村の人員の資格要件を明確化するとともに、本プロジェクトで取り組んでいるように新任の技術者向けの研修を大学が集中的に実施することをシステム化することが望まれる。</p>
<p>供与費機材の維持管理は適切に行われているか。また、協力終了後も適切に行われる見通しはあるか。</p>	<p>選挙結果によっては、県庁や市村の職員の大幅な交替が行われる可能性がある。このような事態が生じると、技術移転の効果がなくなってしまうが、このようなマイナスイナスの影響をできるだけ回避する方策がないかどうか。</p>	<p>地方自治体の職員が、選挙後に大幅に変わることで事態を避ける方法はなく、職員の交替があることを前提として、関係職員の能力向上を図っていくシステムを作ることが必要である。</p>
<p>持続性に影響を与える貢献・阻害要因は何か。</p>	<p>現時点では、ほぼ良好に機材の維持管理が行われている。</p>	<p>過去、ボリビア国における農村開発事業では、事業が終了すると、その効果の持続性も失われてしまう事例がほとんどであったとされている。これは、ドナーを含む事業実施者側の課題である。例えば、一部のNGO等では、パラマキ型の支援を行っていることとされ、市村の中心部主体に事業が実施され、市村の中でも道路アクセスの悪い周辺地域には、活動範囲を広げないといった指摘も聞かれる。また、受益者側(農村住民)は、受動的に支援を受ける側に立ってしまい、支援者(行政やドナー)への依存心が強いとされている。すなわち、自立的に発展していくという意志が弱いとされている。</p> <p>したがって、行政側と受益者側の受動的な意識を変えつつ、自らが開発の主体であるとの認識を醸成しつつ、農村開発を進めていくことが大切であると考えられる。</p>

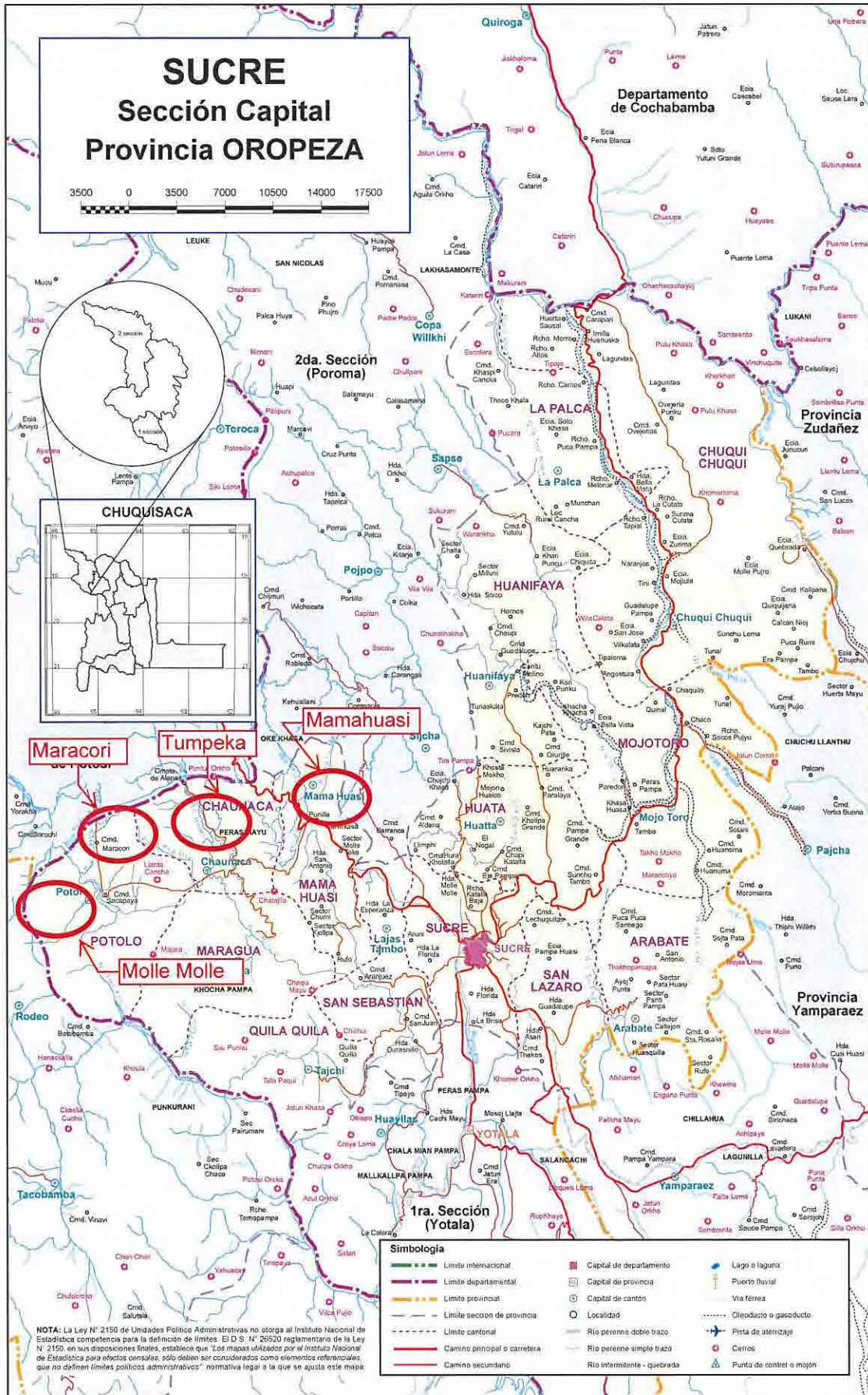


2 実施プロセスの検証

実施プロセス	評価設問		調査結果
	大項目	小項目	
実施プロセス	当初計画した成果を達成するためにどのような計画・実施体制の変更・軌道修正が行われたか、技術移転の方法に問題はないか。	プロジェクト実施中に把握された課題は何か。その課題はどのように解決されたか	特に大きな計画変更や実施体制の変更は無い。県および市村のカウンタースタッフの頻繁な交代は、大きな問題であるが、これを解決する方策はない。  特に、技術移転の方法に問題があるとの指摘は見られない。  人数的には、適切なカウンタースタッフが配置されている。ただし、市村の計画担当の本プロジェクトへの参画度合い低い点が指摘される。市村の計画担当者については、計画策定過程と事業のモニタリング・評価結果についての情報共有の点で、もっと参加してもらおう、さらにプロジェクト側からの働きかけが必要と考えられる。大学、県、市村は、カウンタースタッフの人的負担、活動経費負担、ミニプロジェクト等の事業費の負担面で予算支出されており、この点では、比較的良好な状況と考える。  すでに述べたように、地方自治体の幹事職員の本プロジェクトの認知度や参加度は必ずしも高くない。
		問題がある場合、どの分野におけるどのような技術移転方法に問題があったか、どのように解決されたか。	
	相手のオーナーシップ	①C/P 配置の適正さ ②予算手当ては適切か	
	対象地域の地方自治体（市村）や集落の住民の本プロジェクトについての認識や参加度は高いか。		
	プロジェクトのマネジメント体制に問題はないか。	JCC は、必要な時期に実施され、必要なテーマが話し合われていたか	(1) 合同調整委員会 合同調整委員会は、中間レビュー時以前には、2回（2009年11月12日と2010年9月1日）実施されている。なお、市村側の代表者の出席は、第1回目が1名、第2回目が3名と少ない。中間レビュー時に開催した合同調整委員会には、5名の自治体首長が出席したので、若干の改善が見られた。 (2) 運営委員会 運営委員会も3回実施されている（2009年10月28日、2010年11月22日、2011年4月12日）。これも合同調整委員会と同様に、市村の代表者の出席が少ない。  県および市村のカウンタースタッフも含めた、カウンタースタッフ参加による会議が月1回開催されている。この会議を通じて、一定の情報共有と意志決定メカニズムが機能している。
	その他の定例会議等を通じて、プロジェクト・チーム内（専門家、関係機関関係者及びカウンタースタッフ）の意志決定メカニズムが十分に機能しているか。		
	プロジェクトの進捗状況は、どのようにモニタリングされていたか。		6ヵ月毎に進捗報告書が作成されている。日本語の進捗報告書は、JICA 事務所・本部に提出され、スペイン語の報告書は、プロジェクト関係機関に提出されている。

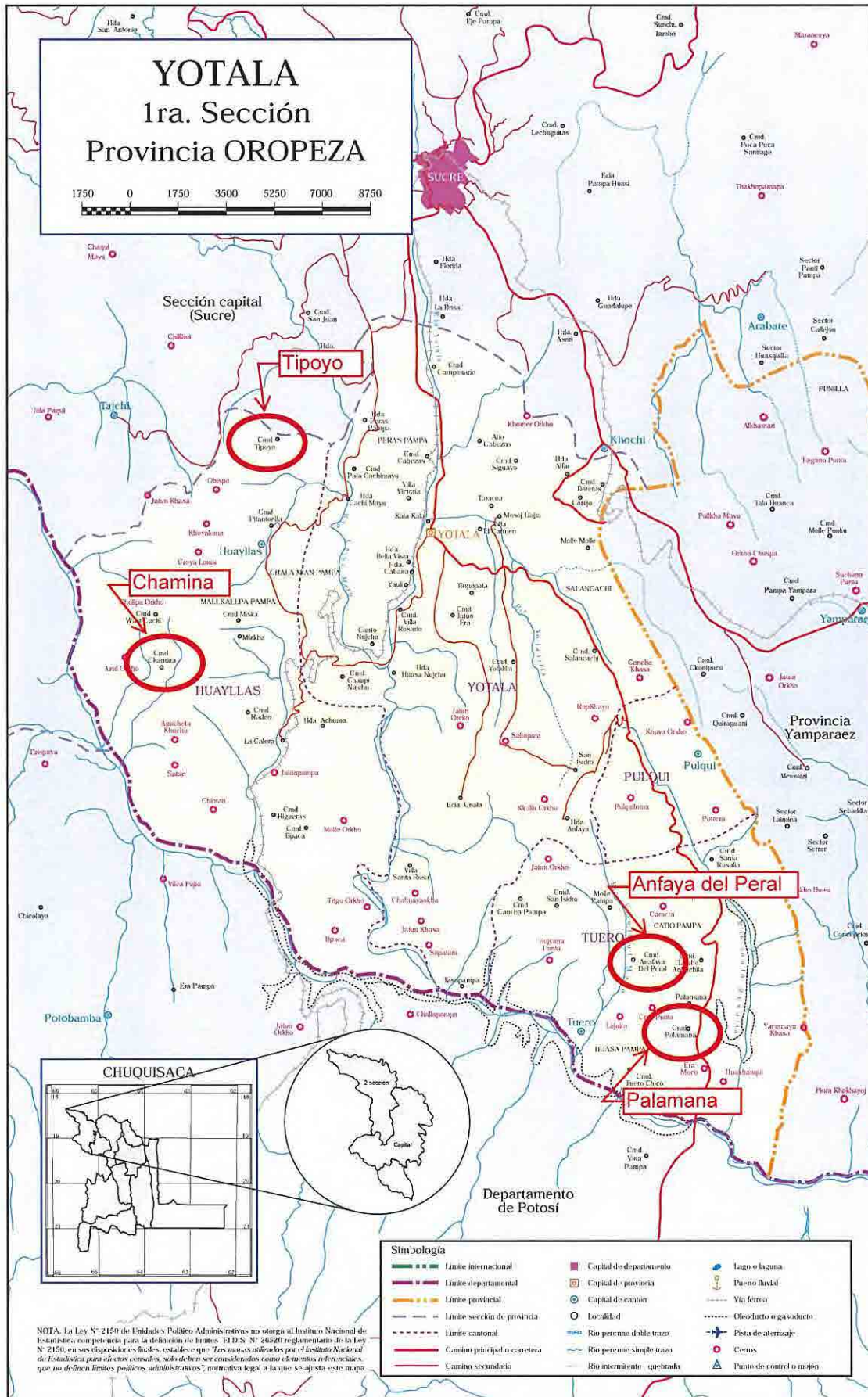
	<p>専門家とカウンタートップ・スタッフとのコミュニケーションは、円滑に行われているか。</p> <p>JICA ポリビア事務所及びJICA 本部との連絡・協力が円滑に実施されたか。</p>	<p>日本人専門家とカウンタートップ・カウンタートップとのコミュニケーションは概ね良好に行われている。</p> <p>JICA ポリビア事務所と日本人専門家のコミュニケーションは、必ずしも良好とは言えない。例えば、当該年度の現地活動予算の承認額についての情報が専門家に伝達されていない、また、プロジェクト対象地域内で活動する農村開発分野の協力隊員についての情報提供も行われていない。プロジェクト対象地域内に、プロジェクト活動に関連する職種の協力隊員がいるのであれば、情報提供だけでなく、連携の可否も合わせて、JICA 事務所と日本人専門家間で、コミュニケーションすることが望ましい。</p>
--	---	---

8. 对象集落位置图



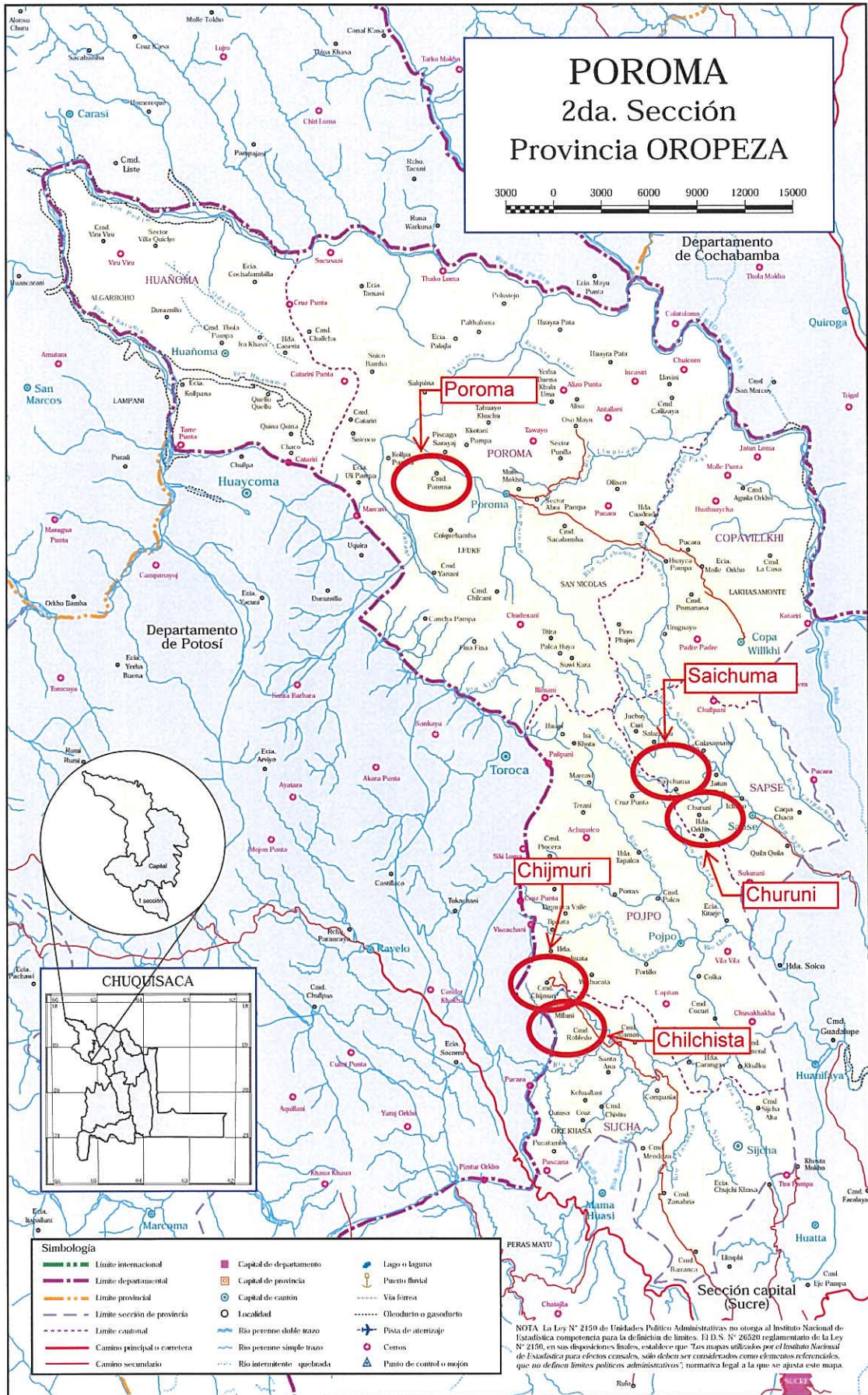
© Derechos reservados INE - Plural editores



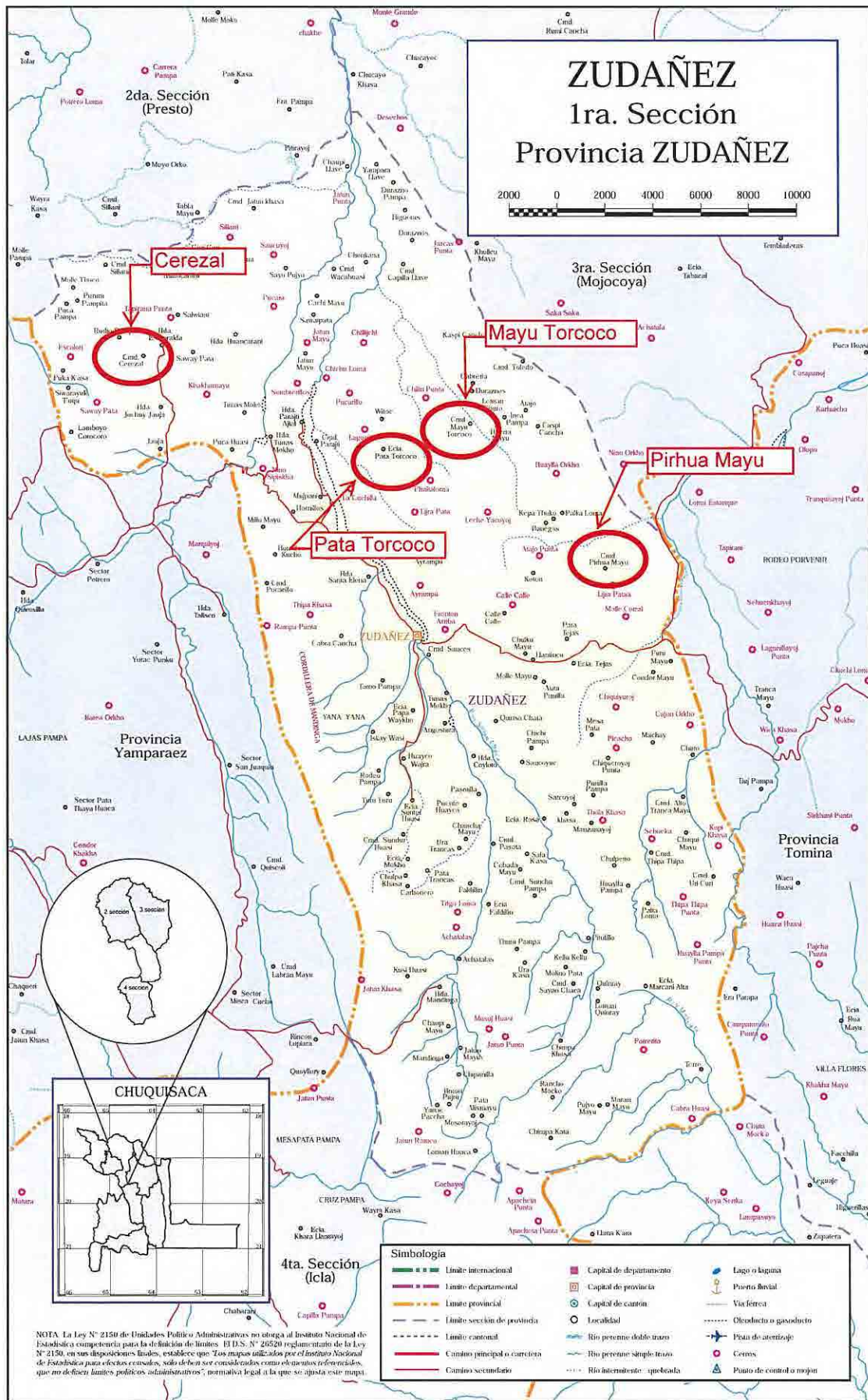


© Derechos reservados INE - Plural editores



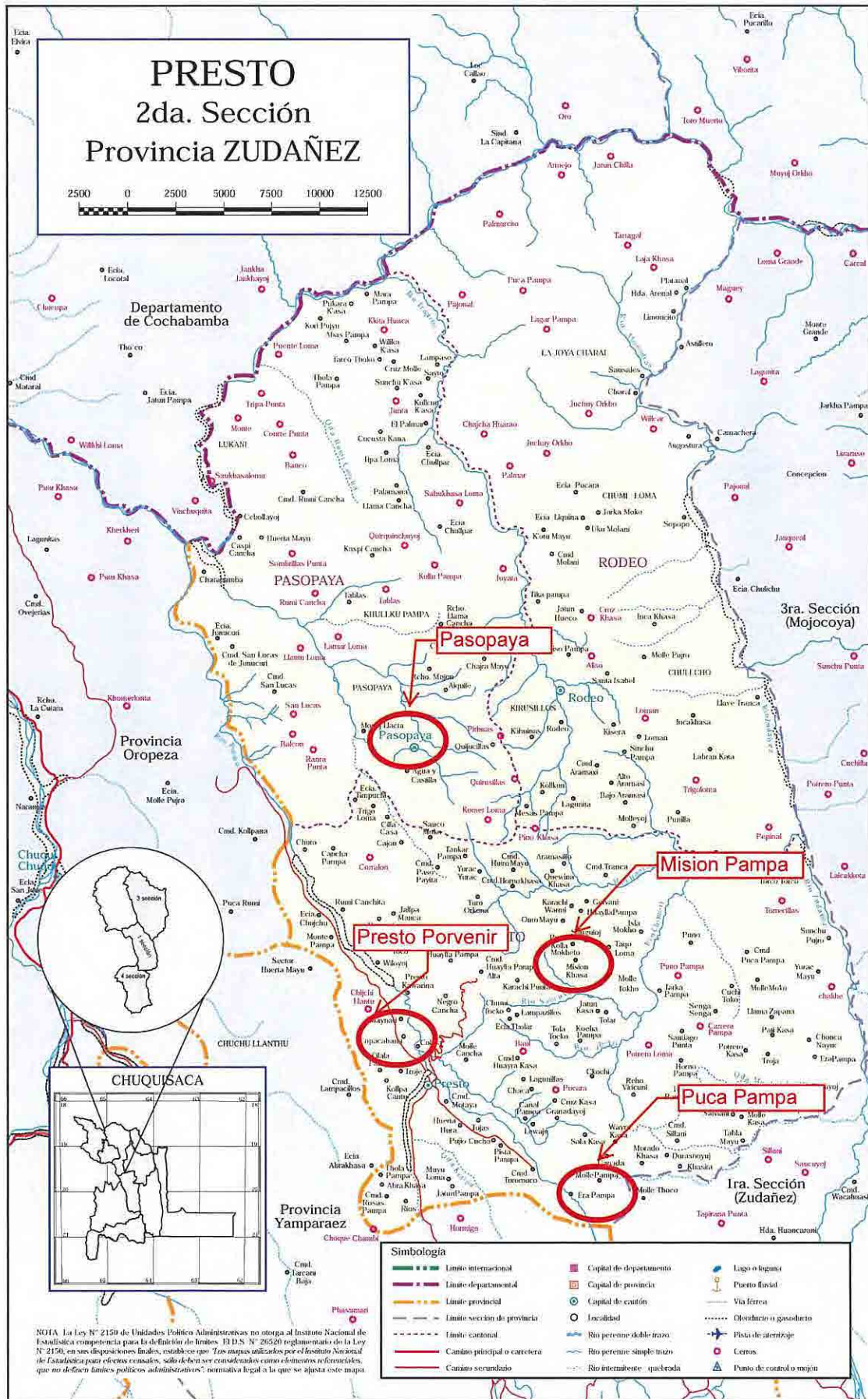


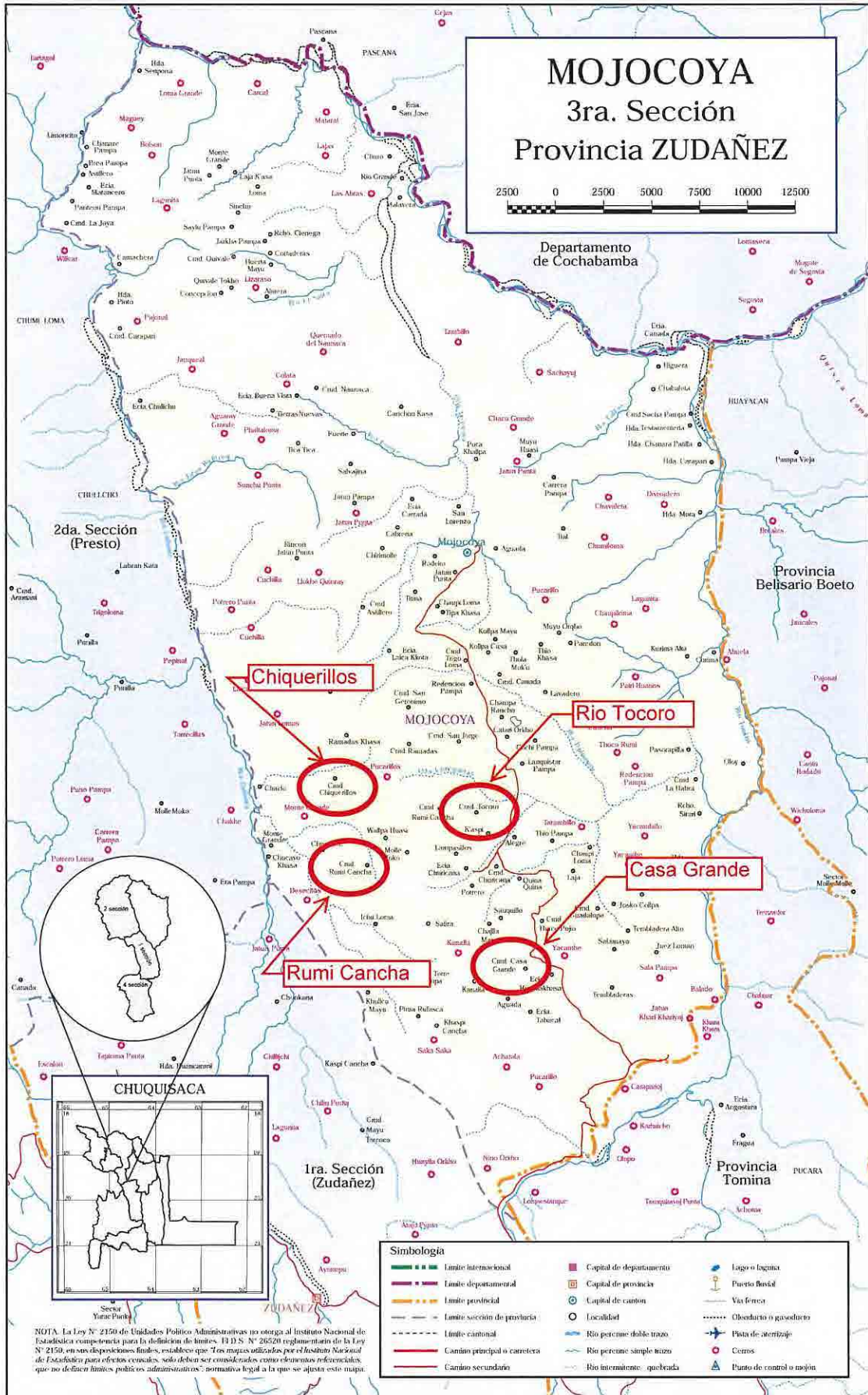




© Derechos reservados INE - Plural editores.

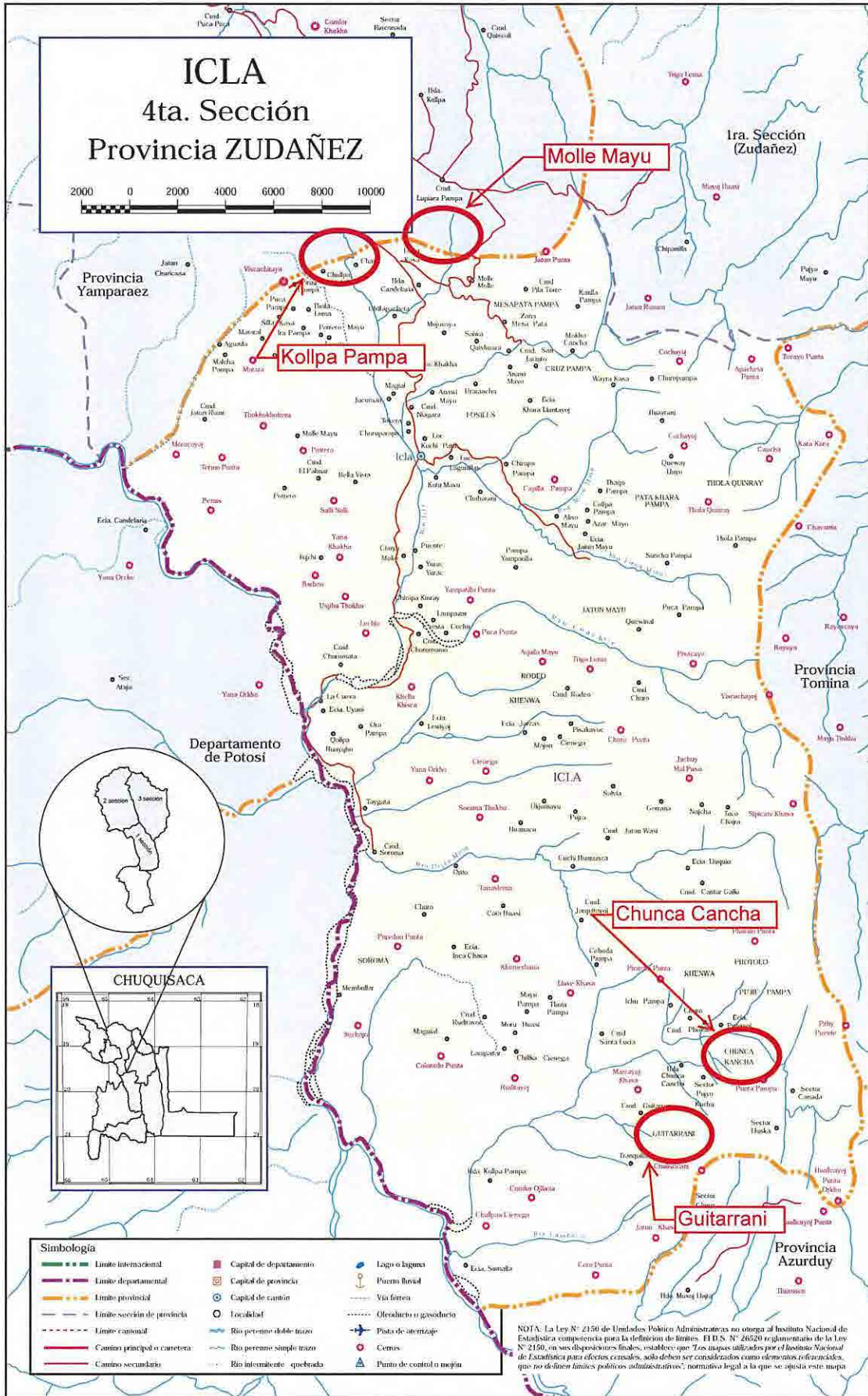




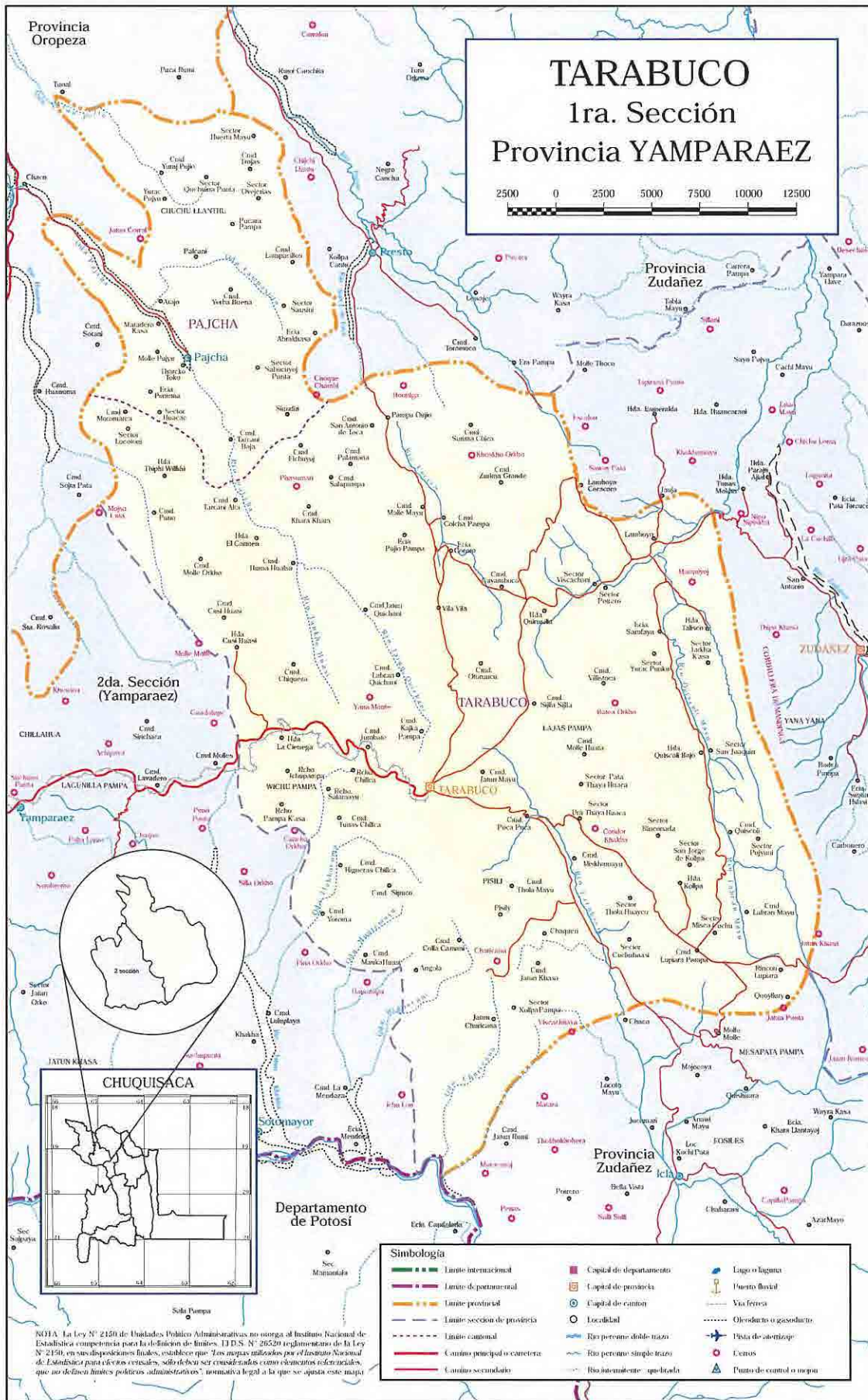


© Derechos reservados INE - Plural editores

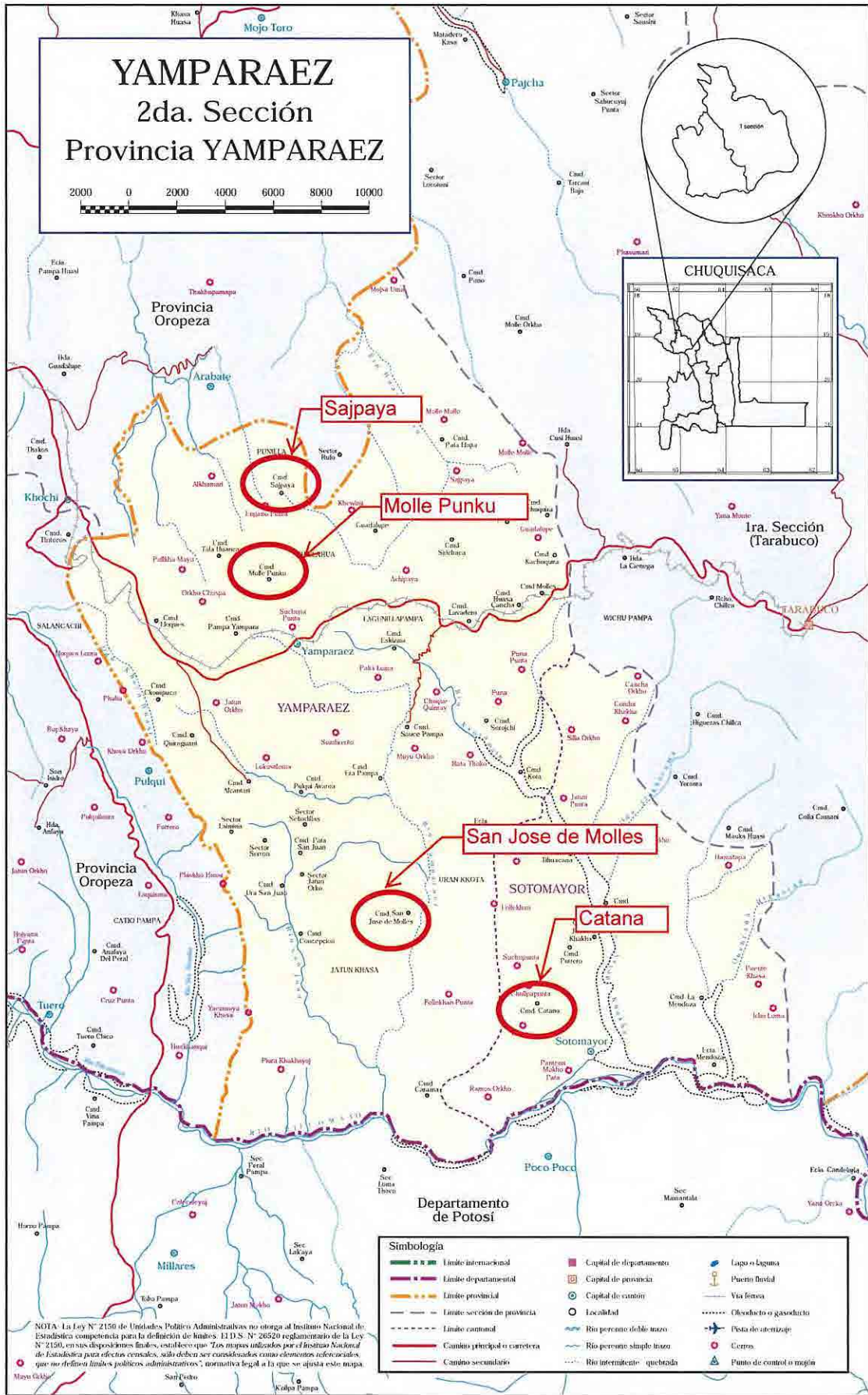




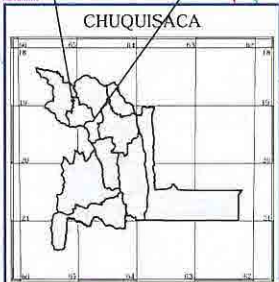
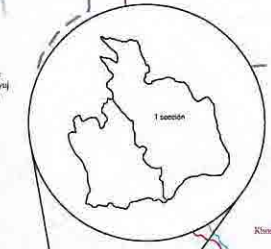
© Derechos reservados INE - Plural editores.







**YAMPARAEZ**  
 2da. Sección  
 Provincia YAMPARAEZ

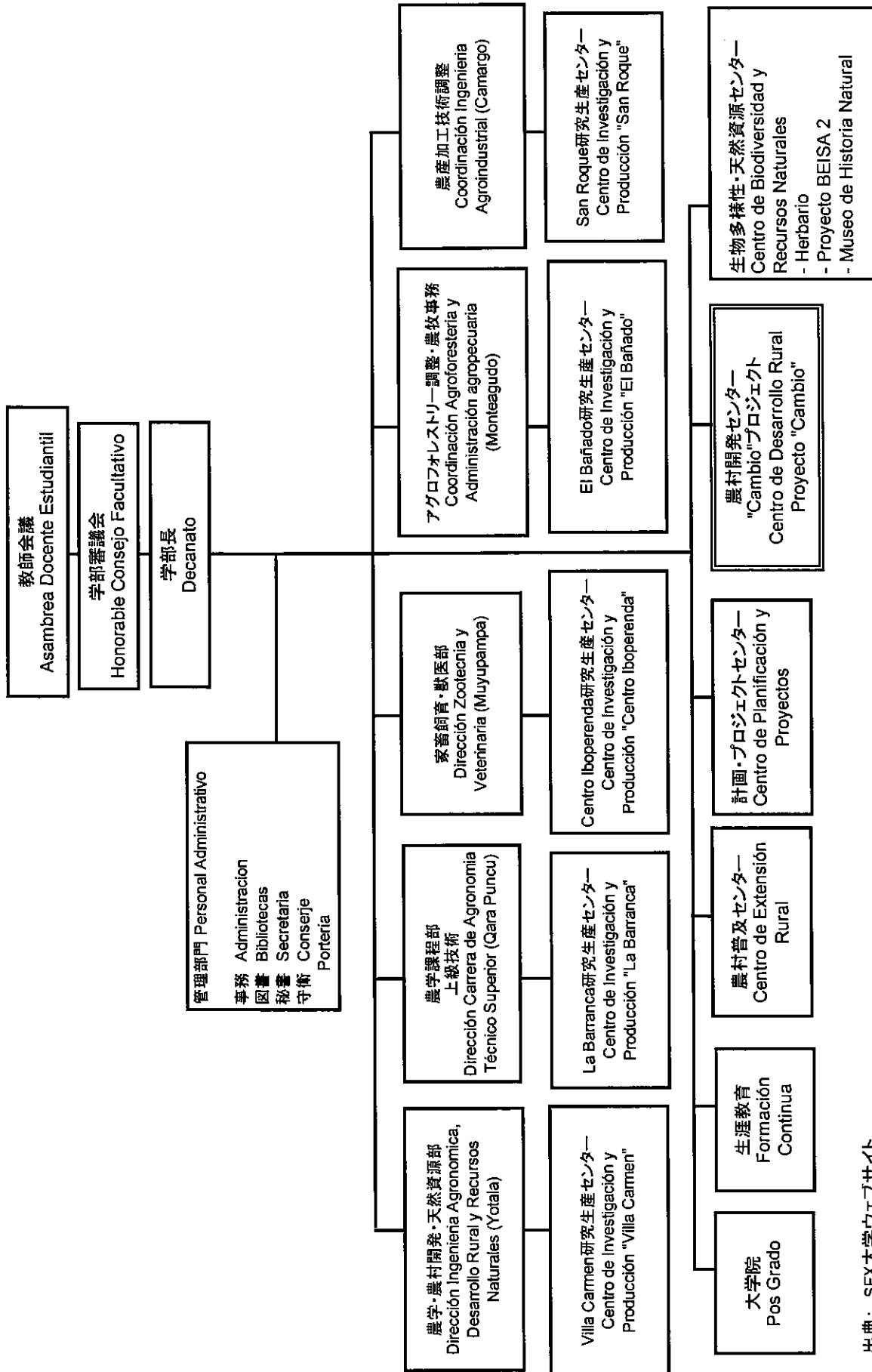


**Simbología**

Límite internacional	Capital de departamento	Lago o laguna
Límite departamental	Capital de provincia	Puerto fluvial
Límite provincial	Capital de cantón	Vía férrea
Límite sección de provincia	Localidad	Oleoducto o gasoducto
Límite cantonal	Río perenne doble trazo	Pista de aterrizaje
Cambio principal o carretera	Río perenne simple trazo	Cerros
Camino secundario	Río intermitente - quebrada	Punto de control o mojón

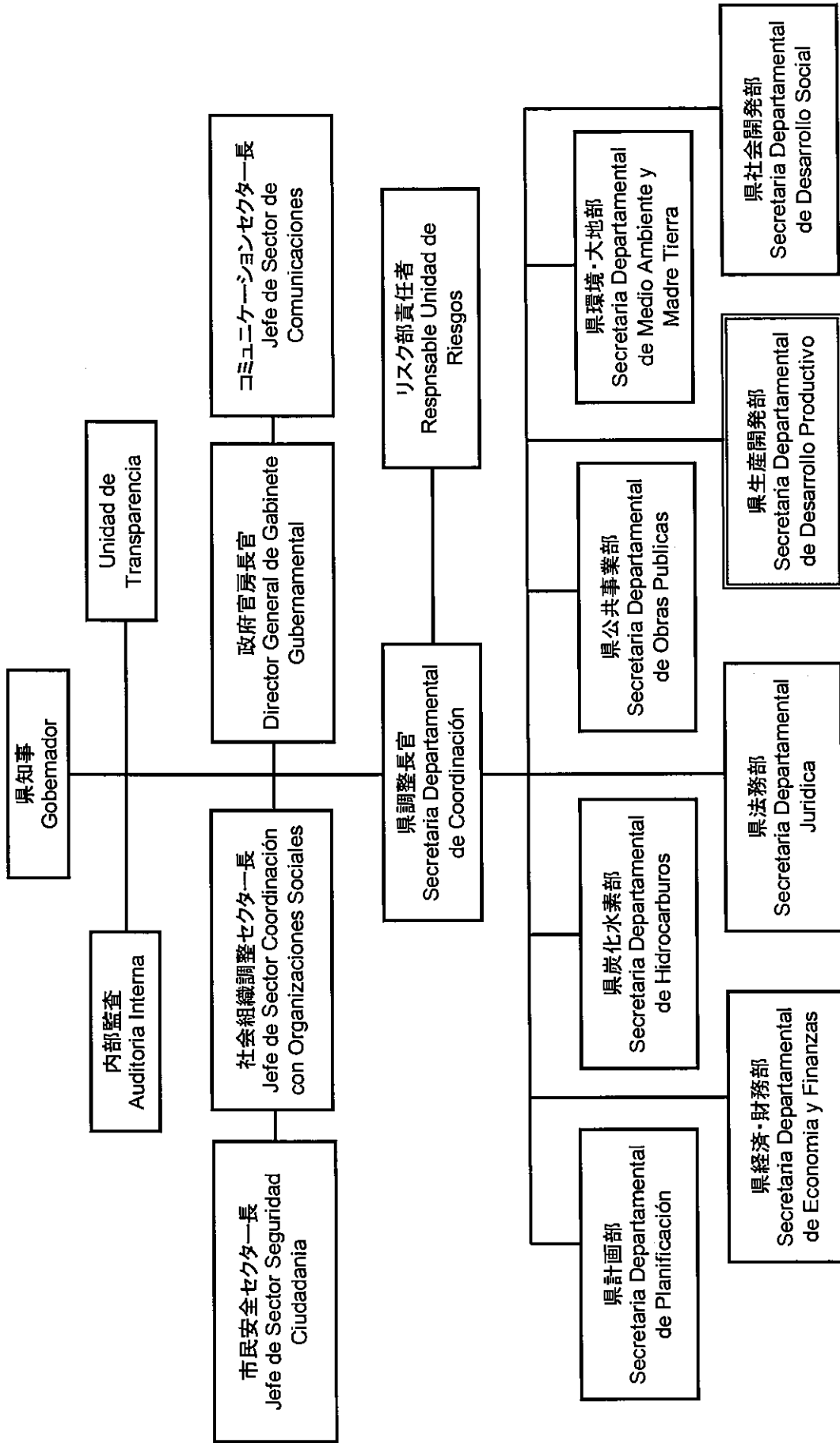
NOTA: La Ley N° 2150 de Unidades Político Administrativas no otorga al Instituto Nacional de Estadística competencia para la delimitación de límites. El D.S. N° 26520 reglamentario de la Ley N° 2150, en sus disposiciones finales, establece que "Las mapas indicados por el Instituto Nacional de Estadística para efectos censales, sólo deben ser considerados como elementos referenciales, que no definen límites políticos administrativos", normativa legal a la que se ajusta este mapa.

9. SFX 大学農学部組織図



出典：SFX 大学ウェブサイト

10. チュキサカ県庁組織図

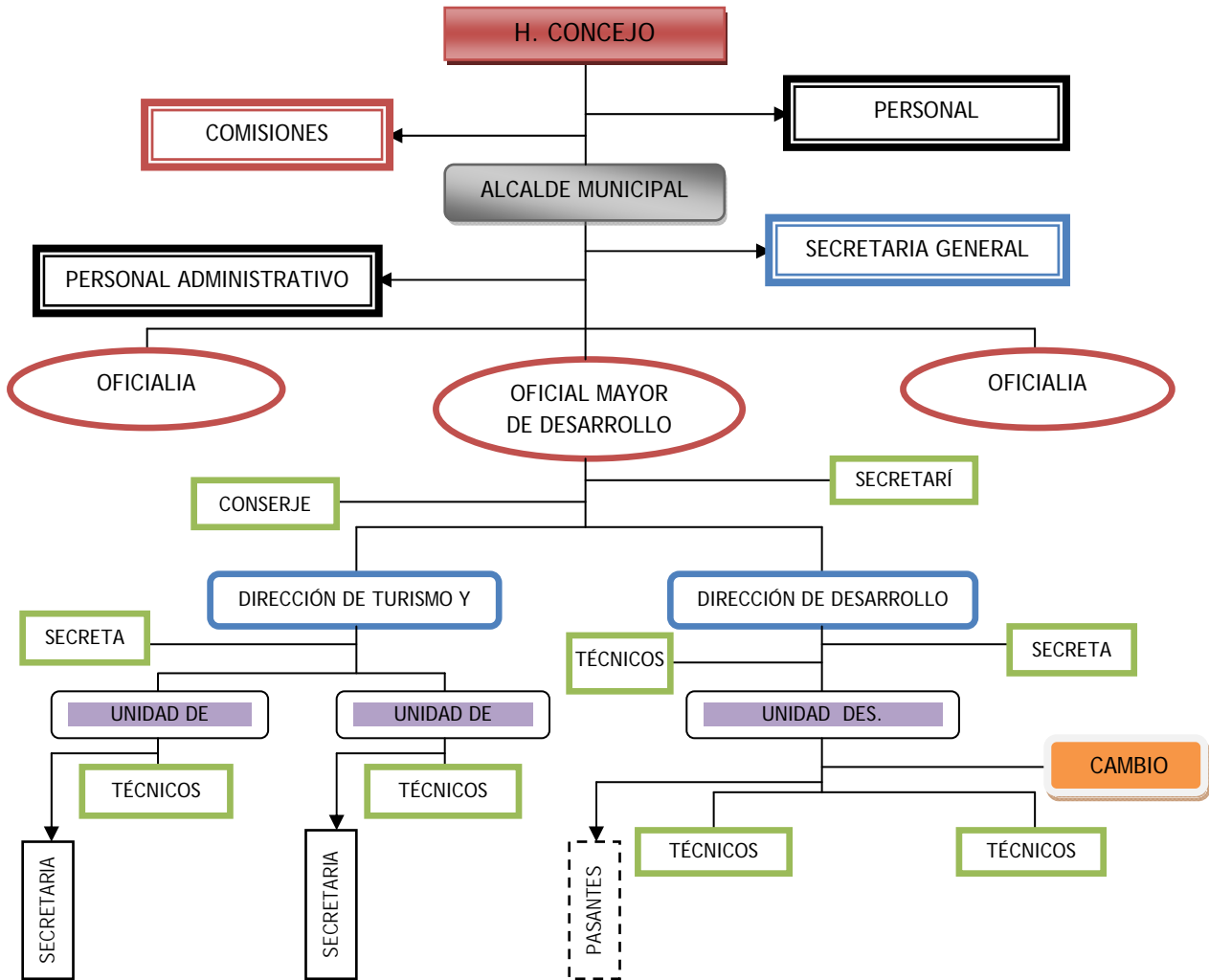


出典：チュキサカ県庁ウェブサイト

11. 対象市村組織図

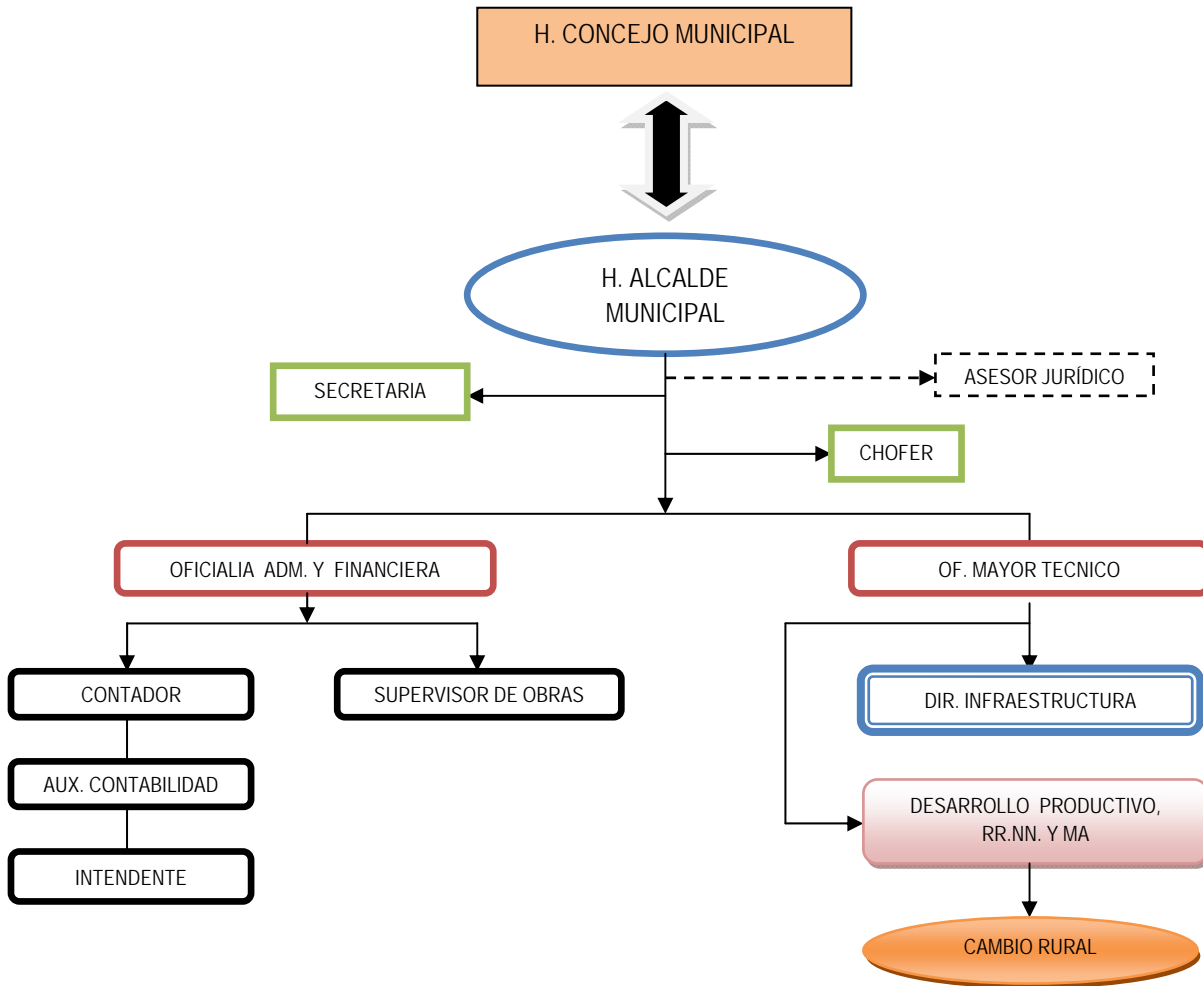
Sucre 市役所組織図

GOBIERNO MUNICIPAL DE SUCRE



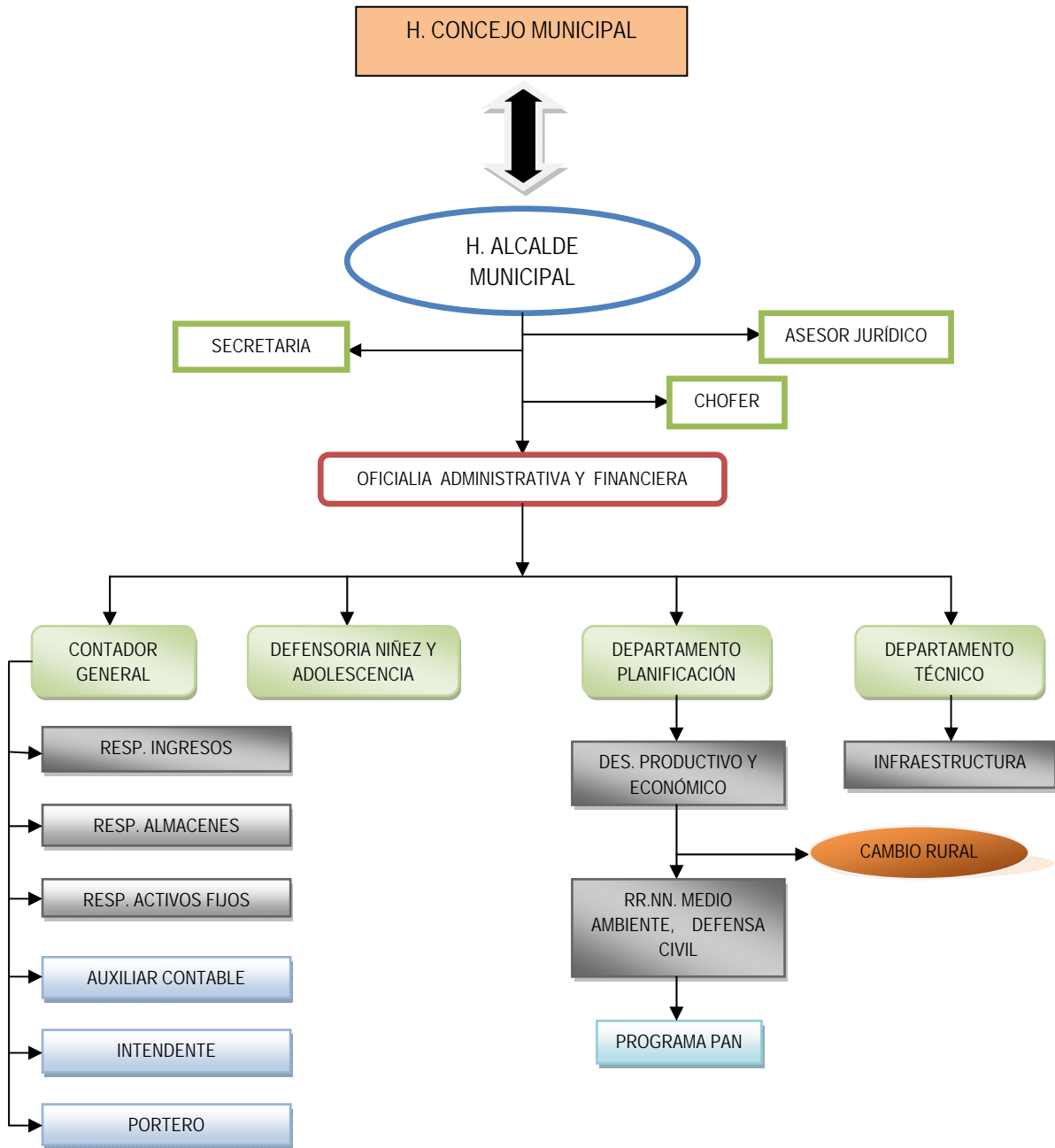
Poroma 村役場組織図

ORGANIGRAMA MUNICIPIO POROMA



# Presto 村役場組織図

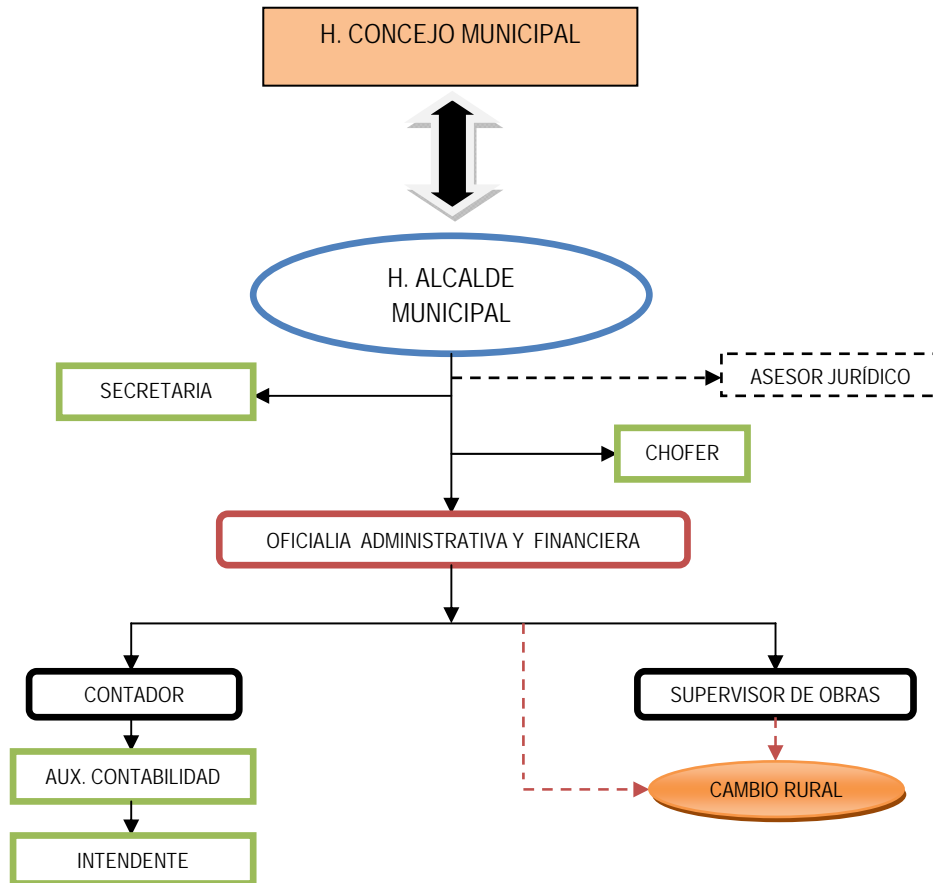
## ORGANIGRAMA MUNICIPIO PRESTO





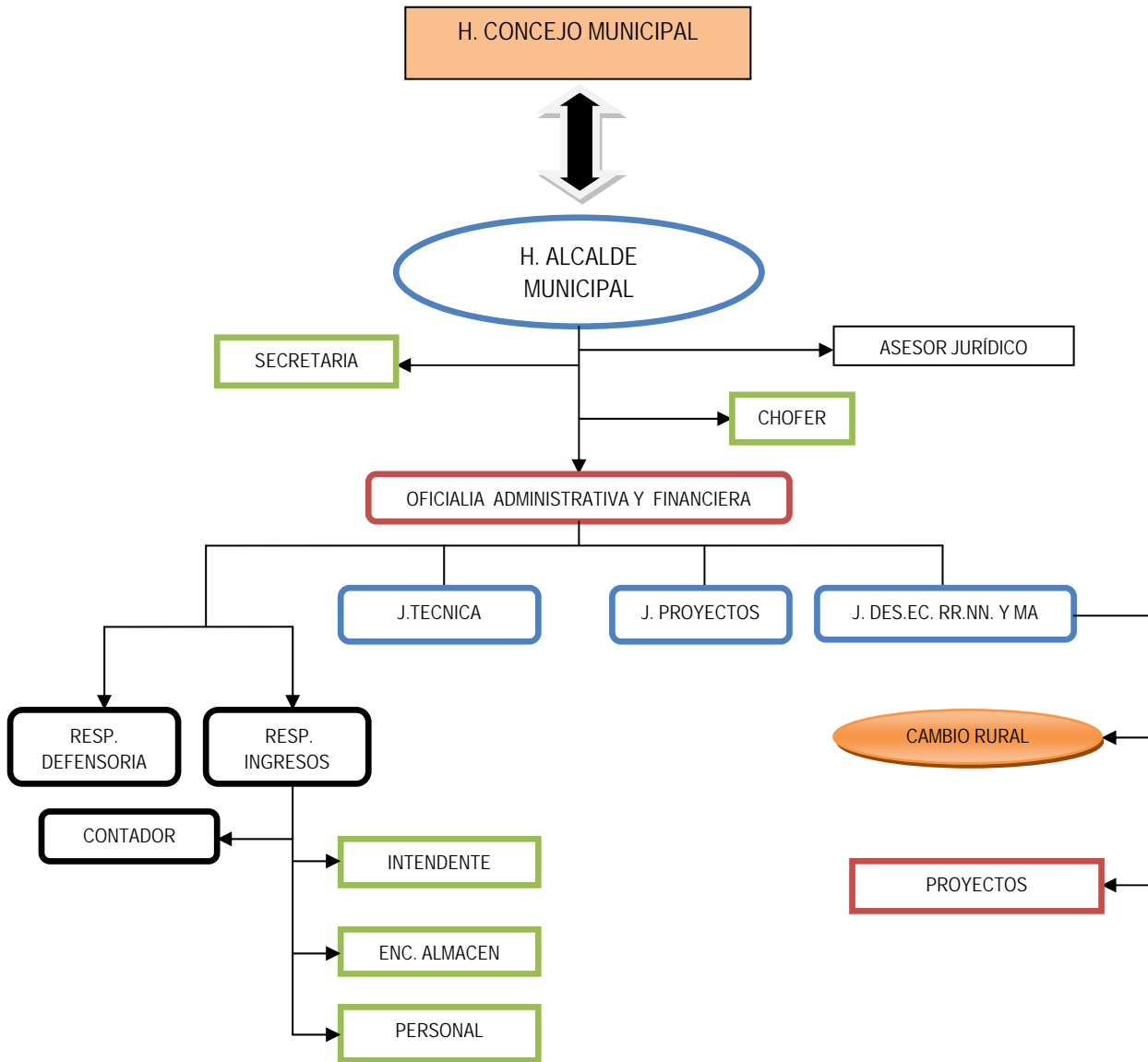
Yamparaez 村役場組織図

ORGANIGRAMA MUNICIPIO YAMPARÁEZ



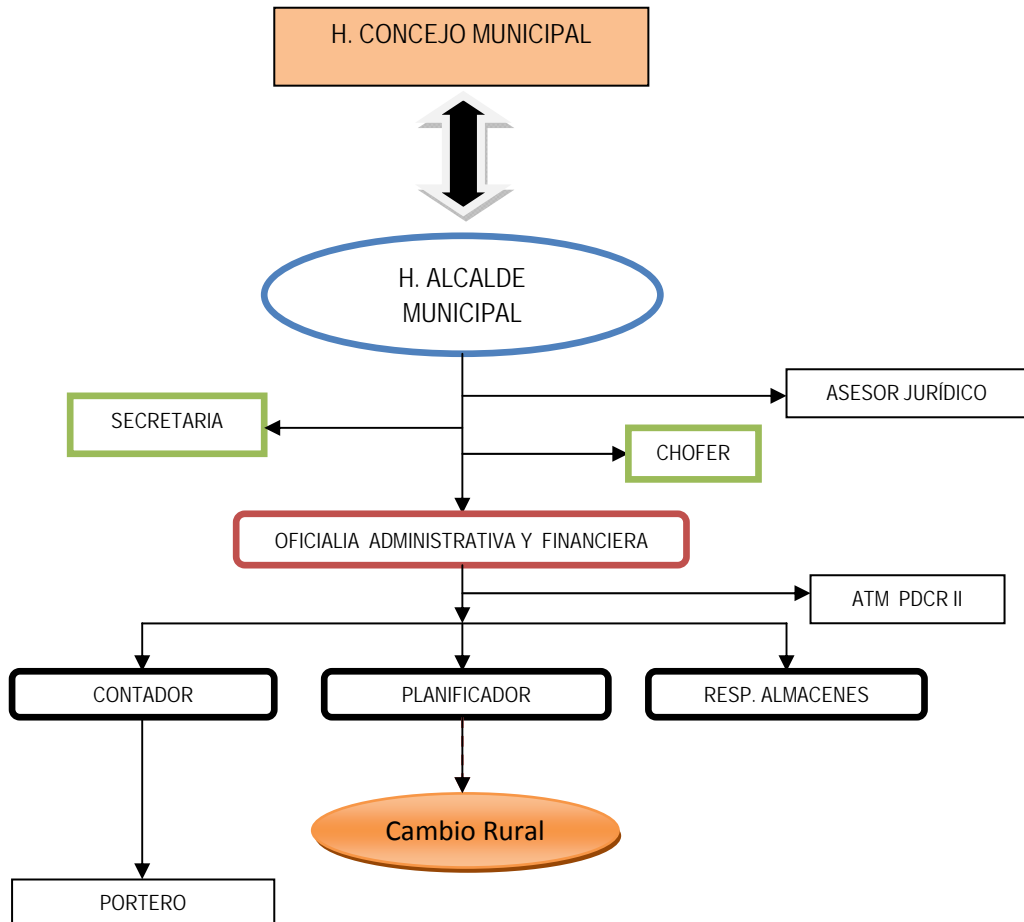
Zudañez 村役場組織図

ORGANIGRAMA MUNICIPIO ZUDAÑEZ



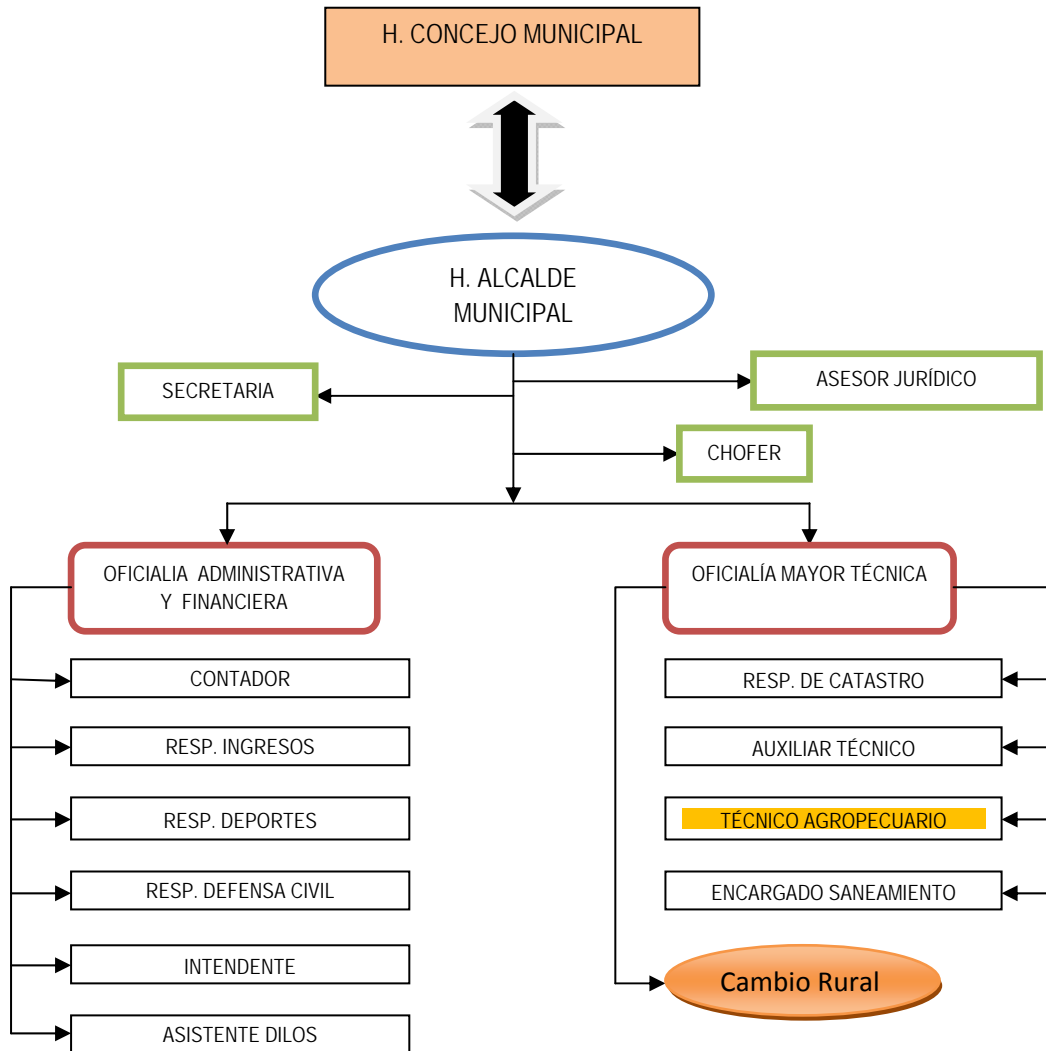
Icla 村役場組織図

ORGANIGRAMA MUNICIPIO ICILA



# Yotala 村役場組織図

## ORGANIGRAMA MUNICIPIO YOTALA



# Mojocoya 村役場組織図

## ORGANIGRAMA MUNICIPIO MOJOCOYA

